2020年5月号（第409号）昭和61年7月8日　第三種郵便物認可　令和2年4月19日発行　毎月1回19日発行

住宅特集

新建築

409
2020
SHINKENCHIKU
JUTAKUTOKUSHU

5

特集／土間・縁側

関わりを育む日本の住まいの潜在力

作品／十八題

畝森泰行
三分一博志
木村吉成＋松本尚子
横内敏人
花岡徳秋
榮家志保
手嶋保
鈴木亜生
魚谷繁礼＋池井健
キノシタヒロシ
米田雅樹
村上讓＋菊田康平
服部信康
諸江一紀
齋藤和哉
町秋人
森清敏＋川村奈津子
西岡梨夏

Architecture and Urbanism
Forthcoming May, 2020
No. 596
建築と都市　2020年5月号

エー・アンド・ユー
2020年5月号
発売：2020年4月27日
予価：2,852円（税込）
発行：（株）エー・アンド・ユー

〒100-6017　東京都千代田区霞が関三丁目
2番5号　霞が関ビルディング17階
TEL：03-6205-4384
FAX：03-6205-4387
振替：00130-5-98119

Architecture of Hope

30 years of European Architecture – EU Mies Award

特集：建築の希望

EUミース賞を通してみる欧州建築30年の潮流

バックナンバー・年間定期購読のご案内

年間定期購読料

新建築
毎月1日発売

12冊（1年間）
送料無料

29,040円
消費税込

新建築
住宅特集
毎月19日発売

12冊（1年間）
送料無料

29,040円
消費税込

バックナンバーのお取り寄せは最寄りの書店へお申し込みください。
また，下記ウェブサイトからもご注文いただけます。

https://shinkenchiku.online

お問い合せ
〒100-6017　東京都千代田区霞が関3丁目2番5号　霞が関ビルディング17階　株式会社 新建築社　年間定期購読係
tel. 03-6205-4380　fax. 03-6205-4386（平日9:30 〜 17:30）
e-mail: business@japan-architect.co.jp

2019年5月号
まちに暮らす楽しさ
── 新しい時代の都市と住宅

2019年6月号
土間・テラス
── 関わりをつくる住まいのあり方

2019年7月号
最新作品12題
建築家の家具14題

2019年8月号
庭
── 時間の蓄積を楽しむ

2019年9月号
別荘
── 多彩な余暇の過ごし方

2019年10月号
若手建築家の目指すもの
── 30代建築家が考える暮らしと建築

2019年11月号
開かれる軒と窓
── 内と外の関係のデザイン

2019年12月号
これからの間取り
── 住宅を街に開く歓び

2020年1月号
2020年 住宅の行く先
── 家をめぐる建築家の想像力

2020年2月号
木の家の歓び
── 木造をめぐる建築家の創意

2020年3月号
平屋のすすめ
── 風土と連続する暮らし

2020年4月号
都市住宅2020
── 敷地の力を引き出す

バックナンバーをご希望の方は、新建築ONLINEもしくはお電話にてご注文ください。

座談月評

新建築住宅特集2020年4月号

特集／都市住宅2020
敷地の力を引き出す

批評

評者

塚本由晴
建築家
東京工業大学大学院教授

平田晃久
建築家
京都大学大学院教授

増田信吾
建築家
明治大学特任准教授

『新建築住宅特集』では、毎月、さまざまな作品や論考、記事を掲載し、広い射程をもって住宅から明日を拓く建築の可能性を伝え記録しています。しかし重要なことは、議論の場をつくることにあります。限られた誌幅の中で示されたものから何を考えていくべきか、それぞれの読み解きや発見を共有し、建築を取り巻く多くの事象や環境と共に議論を重ねること。この座談月評は、その場を広げていくことを目的に掲載します。
2020年1～12月号は、塚本由晴さん、平田晃久さん、増田信吾さんを評者として、1年を通して前号への批評を座談形式で議論いただきます。それぞれの個別の評と共に、それが相乗して新たな示唆に展開する連載記事として毎月掲載いたします。どうぞご期待ください。
（編集部）

2020年4月現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、世界中が混乱の中にあります。人の命や健康、これまでの当たり前の生活や仕事を脅かし、人類は不安の中に置かれている。この見えないウイルスという脅威といかに戦い、守るかという問題は、建築や住宅の問題を超えて、現代の都市や社会のあり方、働き方や生き方のとらえ方に派生するはずです。今、それらについて何を考えるか。今回の座談月評のテーマが先月号の「都市住宅2020」であることからも批評を広げ、今年座談月評の評者である3名に、通常の月評の前にこの質問を投げかけました。（編）

塚本　緊急事態宣言が出され、住宅と道と広場だけが都市住民の居場所になりました。世帯単位の隔離を進めた近代住宅の性格が、感染拡大の抑制に功を奏すると期待されている今、『新建築住宅特集』の月評をするのは気が重い。新型コロナウイルス感染症の症状ではないけど、作品から湧き上がる味や匂いを感じられるだろうか？そんな逡巡する私の脳裏に浮かんだのが『雪あかり日記／せせらぎ日記』（2016年、中央公論新社）です。谷口吉郎が第二次大戦前夜のベルリンに日本大使館の庭の設計監理のために赴いた日から、ノルウェーの港で船に乗り、英仏の対独宣戦布告を聞く日まで、シンケル設計の建築やドイツ芸術だけでなく、ナチズムによる市民生活の変化にも目が向けられています。今なら酷いといえる変化ですが、谷口は一切ジャッジせず観察を続けます。この本の中で語られる「意匠心」が、難しい局面で谷口の心の平衡を支えました。では月評の支えは何でしょうか。私は、住宅とその成立条件を決める都市の関係を考えることが、正気を保つ術だと思っています。住宅は個／私、都市は群／公と意味づけられがちですが、群の中身は個であり、両者が浸透し合っていることを、コロナ禍は突いてきます。外出自粛要請が出され、人びとが家で食事し、ネット動画を見れば、観光、娯楽、外食等のサービス産業が打撃を受けます。人と資金を日々循環させるため、1カ月営業しないと破綻するリスクを抱えた第三次産業の就業人口比率が65%を超えている日本の社会は、パンデミックにとても弱い。政府は普通の生活を取り戻すといいますが、このままで本当によいとは思えません。住宅の提案は、暮らしの提案であると共に、その暮らしを支える都市への提案を含んでほしいです。

平田　今回の出来事がどうしてこんなに不気味なんだろうとつくづく思います。もしかしたら、ウイルスというものが、生命の根幹にある働きと近いものだからかもしれません。異なる出自の生命が共同体を成す私たちの細胞。ウイルスが広がるのは細胞がその一部として彼らを受け入れ、増殖させてしまうから。それも生命の営みなら、街中で人びとが生き生きと活動すればするほど、ウイルスが増殖するのも生命の営み。生き生きとした生命の原理が、生命を脅かす。この矛盾が、なんだかとても気持ち悪い。今はしばし、死の原理をもち込んで（つまりは活動を自粛、分断して）この局面を乗り越えなければなりません。しかしこういう仮に導入したあり様が、意外にも人びとの肌感覚や身体性を変えてしまうかもしれない。しかもそれは、種としてのヒトの存亡とか、個々の生命の危機といった即物的な逼迫性の名の下に加速します。変ないい方ですが、死の原理が生命の名の下に、われわれの身体性を密かに変えてしまうのかもしれないのです。経済の打撃も大きいはずですが、実はそういう見えない感覚の変化も大きいのではないでしょうか。また、人間の即物的な生命を重視するのは当然としても、人間たちが時間をかけて育んできた友好関係や文化といった無形の生命たちが、死んでしまわないようにしないといけません。これまで、建築や人間の営みを広義の生命活動の一部としてとらえ、より「生きている」状態に近い建築をつくることを考えてきました。しかし新型コロナウイルス感染症の喪が明けた後は、人間の生命の即物性からアプローチする建築というよりは、もっと具体的な繋がりを通して、人の感覚を再び生命的なものに開いていくような建築が求められるような気がします。もちろん、繋がっていくことの価値は変わらないし、変えてはいけないのだと思います。

増田　外出や人との接触を自粛する。この言葉に溢れた現状の先に何が起こるか、思うことがふたつあります。ひとつは人間の想像力が加速的に欠如していくことへの危機感です。今は命を守るために他者と接触する手段を限定していますが、リモートワークのような仕事の効率化は社会がもともと進めていたことで、今後も加速するでしょう。しかし、人が何を求めているかという他者への根源的な敬意と想像力を働かせることよりも、自分が欲している情報だけを摂取することが僕たちを凌駕してしまうと、効率を上げているようで、実は自分の権利だけを主張することが蔓延した社会に繋がらないかと危惧しています。そうなった時、狭い視野の付け焼き刃的な対処はできますが、他人事を自分ごとにまで昇華させる創造的活動は僕にはできま

撮影：Jeff Goldberg（Esto）

「マンハッタンのペントハウスIII」

「相模原の家」

せん。必要十分な家の中でほしい情報だけ手に入れる閉じた生活に、人類の可能性はないと思います。もうひとつは、今までの建築のつくり方は求められてないということです。建築の概念や場所の存在価値は、情報化社会に飲み込まれこのまま暴落し続けるのではないか。その時、建築に何ができるのか。僕にとって、外に出て人と会うことなく何かを思考したり、握手したり抱き合うことのないこれからはあり得ません。だからこそ、生きた場所を外に設計することに、この先の建築の可能性としてもっていたい。外に出れば会いたくない人にも会うし、見たくないものも見る。その摩擦が、人間の想像力や、いかなる状況に対しても工夫するスキルをもつことに繋がるはずで、その結集が場所なのだと思います。身を投じたくなる生きた場所によって効率化の波と相乗的に発展し、未だ見たことのない豊かな街や都市像が立ち現れるかもしれません。その延長線上で建築について考えれば、これまでよりずっと広がりのある暮らしへ変わるはずです。

塚本　それでは、本誌の批評に移りますが、今月号の巻頭の安藤忠雄さんの**「マンハッタンのペントハウスIII」**は、何かを掴み取ってやろうという建主の気持ちが強く現れています。そういう気持ちを駆り立てるのがニューヨークという都市ですよね。下階はワンフロアの改修で、アートを飾ったり客を招いたりするつくりになっていますが、そこから階段で上がった先のペントハウスがこの家の主たる場所。マンハッタンのような大都市と住宅が、お互いを強め合う卓越した関係性にあるというのがこのプロジェクトの魅力です。日本でいえば京都の街と町家に、一方がなければ他方もないような、相互定義的な卓越した関係が見られます。残念ながらそのことを意識した日本の住宅作品は稀です。

平田　今月号は、敷地条件から導かれた建築的解法が、舞台装置的に見える作品が多い印象を受けました。そういう住宅に閉じ込められた時ってどんな感じなのでしょうか。設計事務所のスタッフとして働いていた頃は、家には寝る場所があればよいと思っていましたが、新型コロナウイルス感染症によっていつでも家に閉じ込められ得る状況になってみて、改めて家というものがもつべき幅の広さについて考えざるを得ませんでした。それにしても「マンハッタンのペントハウスIII」は、地上に出ているペントハウスには何の機能もなく、下階にあるのは地中にあるかのような静けさ。ほとんどお墓のような、シンボリックな次元がある。建築のひとつの突き抜け方を感じました。そういえば、機能のある基壇と空虚な箱というこの構成は、ミース・ファン・デル・ローエの「新ナショナルギャラリー」(1968年)を想起させます。同じミースでも「シーグラムビル」(1958年)のような脱神殿化されたものが建つニューヨークに、ある種のヨーロッパ性を、日本的に凝縮したような建築を建てる、という凄みのある奇妙さがありますね。

増田　絵に描いたような、生活のリアリティを感じない楽しさや幸せは、ある時醒めるとすごくもの悲しいものに感じます。住宅には最初から寂しさや暗さも内包していた方がリアルだと思います。「マンハッタンのペントハウスIII」は、上階のペントハウスは一面の緑化と何もない屋外が爽やかですが、下階は既存窓に揃えてミニマルに収めたスライディングスクリーンによって、その奥にある既存サッシの影が亡霊のように現れています。それは、この街への圧倒的な憧れがありながら、しかし同時に虚無も内在しているようです。この2層が混じり合って住宅をつくり上げているところにリアリティを感じました。

塚本　青木弘司さんの**「相模原の家」**は、周囲の雑多な環境を映し込んで自分も雑多になるというカメレオン型。それが現代の郊外住宅地の環境を肯定的にとらえるフレームの提示に繋がるという主張です。でもテレビとソファの間を通る動線計画や、夏は暑くて上がれないであろう、折半屋根上の物干し場などは、生活にストレスを与える雑多さではないでしょうか。よくいえば大らかさなのかもしれませんが。話を彼の主張に戻すと、そのレトリックは周囲の環境を対象化するフレームと、自らの建築を対象化するフレームを相同にし、かつ入れ子にするところにあります。それによって一見無関係なエレメントが集められたような雑多な構成が積極的な意味をもつわけです。しかしその時語られない規範もあります。それは屋根、壁、床、窓などのエレメントをさらに分解して、もう1階層の雑多さを入れ子にはしないということです。この規範を外すと、論理的には雑多さの無限入れ子のようになり、建築を見失いかねないという意味で、青木さんの建築の規範はそこにこそあるともいえる。でもそれって、家に篭っている印象がありませんか?安藤さんのところで述べたことの続きですが、都市と建築の卓越は一緒に成されるという気概が、結局は建築を正気に保つと私は思うのですが、そういう意識は感じられないですね。実は最初の見開きでインパクトがあったのは手前の住宅の門と梅の古木。旗竿の奥に門を構えたこの隣家から発して、ここに存在してきた生業や事物の連関を手繰り寄せ、系譜学的に読み解くなら、単に雑多であるとはいえなくなる。周辺環境が不確定だと断定すると、通時的な時間軸を外した共時的な見方に寄り過ぎになりがちです。

平田　でも、もしこの敷地の価値を別の視点から見て、新しい発見といえるところまで引き上げていたら、必ずしも通時的か共時的かという視点は問題にならなかったのではないでしょうか。僕は、ある種の混在系を生む建築の成り立ちとはどんなものか、もう少しはっきりさせながらつくる方がいい気がします。しかし、「相模原の家」はある種操作的に混在系をつくっているので、何を基準にさまざまな仕上げやディテールを混在させているのか分からず、マニエリスティックに見えてしまう。これが、単体で完結しない建築のあり様を再構築する試みなのだとしたら、ここがどういう場所なのかを再フレーミングするための住宅になり得るはずで、もう少しそこに言及してほしかったです。

増田　青木さんのこれまでの住宅、特に「調布の家」(本誌1408)は、生活の自由と行動を強いる不自由が同居していて、安藤さんのいう「既成の枠組みにとらわれずに、都市空間に摩擦を起こすくらいの生命力のある建築」に通じる現代に生きる人と建築の間の創造的な摩擦がありました。一方で今回の住宅は意識的に摩擦が生じない範囲に留めていて、快適に生活ができそうです。だとすると、この建築の存在意義はどこにあるのか。この成り立ちの中で主体的な人間性を取り戻すことができる人は、リテラシーの高い人に限られていてそもそも主体的な人間に思えます。現代人はもっと無頓着に生きているのではないでしょうか。

玉井洋一さん野地智美さんの**「角地の浮き出窓」**は、一般的に見る出窓は内部空間を拡張するデバイスとして使われるのに対して、出窓を入隅状にすることで、内部の拡張ではなく、周辺環境を包み込む立体的な境界になっていて発見的でした。

平田　入隅の出窓というのはかなり面白い発見だと思います。しかしあえていうならば、玉井さんというアトリエ・ワンのパートナーが、個人として発表する時

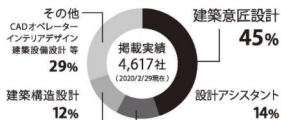
「角地の浮き出窓」

「ペリスコープ・ハウス」

「ビルノタニマノイエ」

に、窓／窓台という正しくアトリエ・ワン的思考の範疇の中で発見的であることより、その規範そのものを変えるような発見性を提示した方が、より挑発的で面白いと思うんですけどね。
塚本　私は実見させてもらいましたが、特に室になりきらないコーナー的な場所がどこも気持ちよく、楽しくなるぐらい無駄がないのはさすがでした。ただ平田さんのおっしゃる通り、学んだことを自分で壊していく葛藤は、表現者として大事なので、そういう側面も見てみたいです。
平田　何かが引き継がれる時はネガとポジが織り交じった織物みたいになっていると思うんです。ネガが次に引き継がれた時は、今度はポジに反転するんですが、完全に裏表ではなくて、部分的に裏になったり表になったりする。そうやって引き継がれていったポジは最初のポジと同じではないけど、どこか強靭な継続性を生んでいくのだと思います。アトリエ・ワンの「**ペリスコープ・ハウス**」は、「離れ」を建てる意思を引き受けたような突き出た外観がよいですね。母屋のネガとして離れが生まれたわけで、次の母屋もネガに影響されてつくらざるを得ない。都市との関係をこの出窓でつくっていることがよく伝わります。しかしこの突き出た場所は、内観としても茶室のような場所になるポテンシャルをもっていますね。この場所をもっと改装し、3階テラスで母屋と繋がって立体的な露地みたいになるというようなことが、今後起こるかもしれません。
増田　必然性のない潜望鏡に存在意義を感じました。離れで生活していた子供世代が2年経って母屋に移り住んだことで、生活機能としては離れと母屋が重複してしまっていますが、階段は依然として潜望鏡に登るために存在し、変わらずに街を眺めるための場としての役割は担い、離れとしての余裕を担保しています。この敷地の中にある潜望鏡の特殊性は時間が経っても変わらないのでしょうね。
塚本　桑田豪さんの「**ビルノタニマノイエ**」は、全体を階段室で二分し、さらに残りを二分する単純さが効いています。平面的には差がないようにしておいて、天井高にだけ差を許すことで、いろいろなズレが抜けを生んでいます。建設適地とはいえないビルの谷間の旗竿敷地を受容しつつ、そのストレスを跳ね返すような都市との丁々発止のやりとりが感じられる作品です。
平田　とても明快でストレートな考え方で、塚本さんのおっしゃる通りよいですね。ただ、桑田さんとは大学時代一緒に学んだ近い間柄だからこそあえていいたいところもあります。明快な構成以外の部分が、定型化したモダンでミニマリスティックなディテールと手法で処理されています。しかしこの建築は、街の中に住んでいる感じそのものを建築化する試みなのだから、本当はそのことそのものが建築の成り立ちになっているべきではないか。結果としてもう少し細部がごちゃごちゃしたものになったとしても、その方がより本質的なレベルで抽象的な建築になったんじゃないかと。
塚本　武田清明さんの「**5つの小さな擁壁**」は、木造の縦長プロポーションについての前回の批評を思い出しました。2階の床下まで擁壁からの連続でコンクリート柱をキャンチレバーで立ち上げ、木造のボックス梁で架構することで、木の柱を減らす別案を思わず想像してしまいました。擁壁に挑戦した意欲作ですが、擁壁のままでいることに拘りすぎたかな。
平田　基本的なアイデアは面白いですが、洗い出しで周囲より中の擁壁がきれいに仕上がっているのが、擁壁の擁壁性を欠いています。外の擁壁みたいにずっと風雨と時間に晒されたものの方がよかったです。
増田　擁壁をアイテム的に使うことに違和感があります。本来土を支えるためにつくられるのが擁壁だとすると、敷地環境に関係なく内部に立ち上げられた擁壁は擁壁とはいえないのではないでしょうか。
塚本　建築と土木が縦割りになっている現実への批評として建築の中に土木の領分である擁壁を取り込もうとしたのだが、取り込まれた途端それは土木ではなくなったということですね。それは最近、私の中に膨らんでいる疑問と通じます。学としての建築の体系化は、あらゆるものを吸収できるかのように構えています。たとえばコンクリートの建築と茅葺きの屋根を、並列できるかのような共通平面を建築学は用意しますが、その背景には「空間」という概念によって開かれる普遍性に対する強い信頼があると思います。そのふたつが並べられる時は、それらが結びついていた事物の連関から切り離され、手術台に載せられた解剖学的な状態です。でも事物連関から見れば、両者はまったく違うところにあるもので、全然関係ないわけです。茅葺は農業の生業や事物連関の中でしか生まれてこない、農業の中にある建築なのに、コンクリートと比較されて耐火性、耐久性に劣る、手間がかかるといわれてきたのは本当に気の毒なのです。こういう空間概念の化身のような共通平面こそが「建築」だと思ってつくるとおかしなことになる。今の世の中がもうすでにそういう感じです。すべてを取り込むことができるのが建築であると考えるより、あらゆる隣接する分野の中にそれぞれの建築があると考えた方が、視界が開けます。
増田　佐藤充さんの「**南光台東の家**」は、擁壁上の住宅地の風景に対して、建築の軽さを感じてしまいました。擁壁の埋め戻し土の上に荷重をかけず、斜材で2階を張り出すことで、サンルームの波板の扉が柱に分断されずに可動するつくりは丁寧です。しかし、斜材をもう少し傾けたり、場合によっては内部にも食い込ませて、擁壁に肉薄するところまでキャンチレバーで張り出すことで、隣地の雑木林ぎりぎりまで庭として使いこなす感じがあってもよかったかもしれません。
塚本　それは表現的すぎる見方かもしれません。住人は擁壁に挑むためにこの土地を選んだわけではないし、設計者もそのことが家を設計することの中心ではないはず。増田さんの見方は、「モンストレーション」といって、建築形式のリミッターというか規範を外すことで、計画諸元に内在する怪物性をことさらに強調する方法を前提にしています。1990年代以降のOMAやMVRDVが典型ですが、功を奏する時もあるし、そうでない時もある。この住宅地の怪物性は確かに擁壁に集中的に現れていますが、かといってそれに対抗するぐらいの怪物性を住宅がもつべきという価値を軸にするのはフェアな批評ではない。建築家や建主は実現したいことがほかにあるのです。
平田　無理に西側に引き出さなくても、もう少し穏やかに建てることもできたはずなのに、斜材の取り込み方にモンストレーションな感じがあって、途中まで着手してやめてしまったようにも見えます。
これまで、よい住宅は建主が偉いからできるといったものいいに、設計者として逃げというか、ちょっと偽善的な感じがして違和感を感じていたのですが、その場所にその人が住むということ全体がもっている力が、住宅がもっている力なのかもしれないと改めて素直に感じました。単なる形式として何かが突き詰めて使われてたり怪物化されることには疑問がありますが、たとえば擁壁と闘うことが、なんらか建主やそこに住むということに共鳴して何かを生むのであれば、それは力強い建築になり得るのではないでしょうか。

「5つの小さな擁壁」

「南光台東の家」

© 新建築住宅特集2020年5月号／第409号
2020年4月19日発行　毎月1回19日発行
定価2,420円　本体2,200円
振替：00150-6-30658

[編集発行人] 吉田信之
[編集長] 西牧厚子

[表紙・誌面フォーマットデザイン監修]　K2
[発行所] 株式会社新建築社
東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
霞が関ビルディング17階　〒100-6017
tel. (03)6205-4380（代表／総務・出版）
(03)6205-4381（編集部直通）
(03)6205-4382（広告部）
(03)6205-4392（写真部）
fax.(03)6205-4386（代表／総務・出版）
(03)6205-4387（編集部・広告部・写真部）
青山ハウス
東京都港区南青山二丁目19番14号　〒107-0062
tel. (03)6455-5596
fax.(03)6455-5583
e-mail　jt@japan-architect.co.jp
URL　https://shinkenchiku.online
[印刷所] 大日本印刷株式会社
[取次店] トーハン　日販　楽天ブックスネットワーク
中央社　鍬谷　西村

表紙の写真　菊坂の家
手嶋保建築事務所

CONTENTS

土間・縁側 ── 関わりを育む日本の住まいの潜在力

特集作品18題

CONTENTS

MONTHLY REVIEW

NEWS

BOOKS

EXHIBITION

CONSTRUCTION

PROFILE・編集後記

TOPICS

特集

土間・縁側

関わりを育む日本の住まいの潜在力

今月号は、土間や縁側といった、日本の住まいが育んだ、内外の中間的な領域をもつ住宅を特集します。地面から地続きに設けられた土間は、古くから日本の住まいにおいて、土足のままで行われる作業や炊事といった多目的な場所として存在してきました。一方縁側は、建物の縁に張り出した場所として、内部の延長であり外からの出入りを可能にしました。いずれも人びとの知恵の積み重ねが生み出した、暮らしを守り、自然環境や都市との関わりをつくり出す住まいの緩衝帯です。
今月号で紹介する住宅は、この日本の住まいがもつ知性と潜在力を、現代の住宅にもち込んだものです。安定した内部環境で生活を守りつつ外と繋がり開放性を得るという、一見対立する希求を、土間や縁側という多様さを受け止める場所を取り入れることで、豊かさの手がかりにしていることが見て取れます。
現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、住宅に閉じ籠るしかない状況が続いています。この状況は、住宅と都市の関係を改めて考えさせられることになりましたが、この特集で掲載する作品や言葉もそのふたつを繋ぐ実践のひとつひとつです。これからの住宅とその外側を考える一助になれればと考えています。（編）

作品18題

後庭からリビング・ダイニング方向を見る。災害やこの土地の気候を考慮した高床式の平屋。柱状改良からφ=250mmの鉄筋コンクリート柱を立ち上げ、部分的に鉄筋コンクリート梁を通すことで、低いラーメンフレームをつくる。フレームの内部は木造とし、屋根梁から床を吊っている。室内の床高さは地面から約1,000mm。外構は川砂利。

特集：土間・縁側

高岡の住宅

House in Takaoka

富山県高岡市

畝森泰行建築設計事務所

Unemori Architects

北西側全景。鉄筋コンクリートの柱梁は、内部空間の最大化と熱橋を考慮し外部に配置している。ブラケット金物によって鉄筋コンクリート柱と屋根梁、床梁を部分的に繋ぐことで、構造フレームとヴォリュームが離れた軽やかな印象を生んでいる。

リビング・ダイニングからキッチン方向を見る。リビング・ダイニングは最高天井高を4,500mm、キッチンは2,300mmとすることで、ハイサイドライトから光を取り込む。西側の床の一部をテラスと同じ磁器タイル貼りとしている。鉄筋コンクリート柱間はϕ=16mmのスチールロッドによって床を吊っている。

リビング・ダイニング。子供室はリビング・ダイニングと適度な距離をとるために800mm上に配置。天井の高いリビングには熱循環ファンを設け、冬季は天井付近の暖まった空気を床下の空気層に送ることで、上下温度差を軽減し、床表面温度を高く保つ。夏期には、同様のファン・ダクト経路を活用し、地面から浮いた建物ヴォリュームの下から風を取り入れ上部から吹き出すことで、天井付近の熱溜まりを解消する。

Earth Floor & Roofed Terrace

さまざまな環境との距離感を調整する高床

幕板:
ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 曲げ 素地

▽RFL=GL+4,165(水上)
140
2,740~3,060
4,165
▽1FL=GL+965
250
▽浸水高さ
715
▽GL

ブラケット:
St PL t=16mm 溶融亜鉛メッキ仕上げ

柱:
RC-φ=250mm 撥水塗装

外壁:
窯業系サイディング t=14mm
ジョリパット吹付け仕上げ t=2mm
通気胴縁 t=15mm
透湿防水シート
構造用合板 t=12mm

梁:
RC-200×250mm 撥水塗装

ブラケット:
St PL-t=16mm、溶融亜鉛メッキ仕上げ

前庭

天井:
シナ合板 t=4mm ツキツケ 自然塗装
構造用合板 t=24mm

吊柱:
Stロッド φ=16mm 溶融亜鉛メッキ仕上げ

主寝室

内壁:
シナ合板 t=5.5mm ツキツケ 自然塗装
PB t=9.5mm
胴縁 t=15mm
調湿気密シート
高性能グラスウール断熱材16K t=90mm

床:
フローリング t=15mm 塗装品
下地合板 t=12mm
空気層 t=61mm
構造用合板 t=12mm
硬質ウレタン t=120mm
調湿気密シート
床梁 105×150mm

中庭

デッキ:
タイル t=8mm
コンクリート t=25mm
キーストンプレート t=0.8mm
St C-75×40×5×7 溶融亜鉛メッキ仕上げ

テラス

柱状改良 φ=500mm

250
3,640
5,915
20,020
RC芯

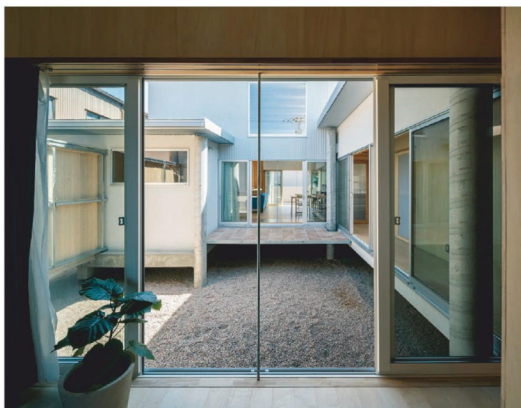
断面詳細図　縮尺1：60

離れて建つ

富山県高岡市に建つ平屋の住宅である。古い街の奥行きのある敷地で、南北には隣家と倉庫が迫るように建っている。建主は夫婦と幼い姉妹で、閉じた中庭をもちつつ明るく快適な暮らしを求めた。また近くに流れる川からの浸水の懸念もあり、加えて北陸地域特有の厳しい気候（深い積雪や日照時間の短さ、湿度の高さなど）を考慮する必要があった。

建物は地面から約700mm離した高床式の構成とした。浸水深を避け、中庭や周囲への通風、積雪を考慮して建物全体を少しもち上げている。一部で床の高さを変えながら部屋ごとに平面をずらし、屋根も上下させた。さまざまなところに窓を開け、隣家を避けながら光を取り込み、足下を視線と風が抜けていく。地面に近い縁側のような廊下や、物見台のように宙に浮いた子供室、広がる地面と空を同時に望むリビングなど多様な環境との距離、関係を空間化することを目指した。

構造は鉄筋コンクリートと木の混構造である。柱状改良からそのまま伸びるように鉄筋コンクリートの柱を立て、木の屋根梁を支える。その梁から床を吊り、足下を開放した。電柱のような丸柱と室を横断する大梁、そこに細いスチールの吊柱が現れる。異なる素材とスケールをもつ構造材が縦横に行き交い、広がる地面の上に浮くように、しかし確かに建つ。

この街には数段のステップを経て玄関に至る家が少なくない。重い雪が降り積もり、灰色の空と雨が続く冬の厳しさ。その日々から離れるように、この住宅も地面から少しだけ距離を取る。基礎のない地面はこれから手を加えられる大きな余白でもあり、それがこの場所の明るさと自由さに繋がるのではないか。　（畝森泰行）

主寝室から中庭を介してリビング・ダイニングを見通す。中庭の南側に水回りが配されている。

屋根:
ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 立平葺き 素地
アスファルトルーフィング
下地合板 t=12mm
通気垂木 t=90mm
フェノールフォーム t=75mm

雪止め:
St L-45×45×t=4mm 溶融亜鉛メッキ仕上げ

天井:
ラワン合板 t=4mm ツキツケ 自然塗装
構造用合板 t=24mm

梁:
アカマツ集成材105×300mm 現し 素地

軒裏:
ガルバリウム鋼板小波板 t=0.4mm 横張り 素地

内壁:
PB t=12.5mm
珪藻土 t=2mm 押さえ仕上げ
胴縁 t=15mm
調湿気密シート
高性能グラスウール断熱材16K t=90mm

外壁:
カラーガルバリウム鋼板小波板 t=0.4mm 縦張り
通気胴縁 t=15mm
透湿防水シート
構造用合板 t=12mm

▽RFL=GL+4,415（水上）

天井:
ラワン合板 t=4mm ツキツケ 自然塗装
構造用合板 t=24mm

梁:
アカマツ集成材105×450mm 現し 素地

リビング・ダイニング

子供室1･2

吊柱:
St ロッド φ=16mm 溶融亜鉛メッキ仕上げ

床:
コルクタイル t=5mm ツキツケ
下地合板 t=12mm
空気層 t=61mm
構造用合板 t=12mm
硬質ウレタン t=120mm
調湿気密シート
床梁105×150mm

内壁:
ラワン合板 t=5.5mm ツキツケ 自然塗装
PB t=9.5mm
胴縁 t=15mm
調湿気密シート
高性能グラスウール断熱材16K t=90mm

熱循環用ダクト

後庭

▽子供室FL=GL+1,765

床:
フローリング t=15mm 塗装品
温水式床暖房パネル t=12mm
下地合板 t=12mm
空気層 t=49mm
構造用合板 t=12mm
硬質ウレタン t=120mm
調湿気密シート
床梁 105×150mm

通気口:ラワン有効合板 t=9mm 自然塗装

外気取入れ用ベントキャップ

床裏:
ガルバリウム鋼板小波板 t=0.4mm 横張り 素地
下地合板 t=6mm
透湿防水シート

川砂利 t=100mm

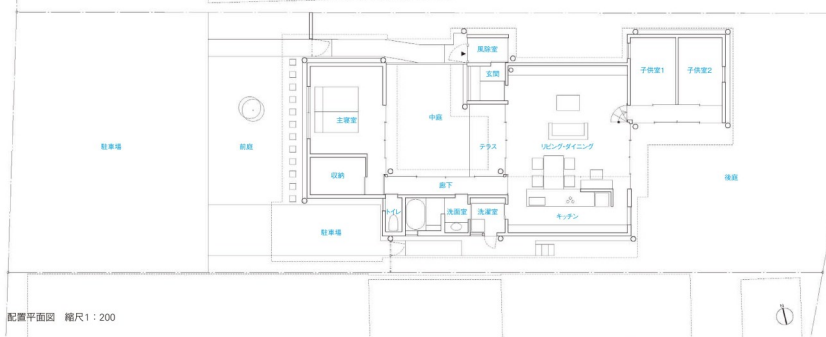
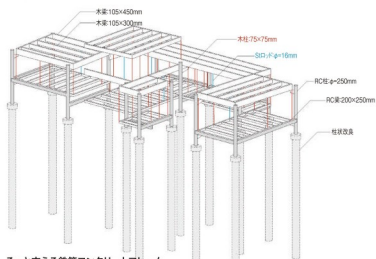
▽GL

140　2,305～2,510　4,415　250　1,515

5,915　4,550　250

RC芯

アプローチから見た風除室。

北西側全景。駐車場からスロープで風除室まで繋がる。

配置平面図　縮尺1：200

そっと支える鉄筋コンクリートフレーム

GLよりいくらかもち上がった床を支える1層目は極めて柱長さの短いラーメンフレームとして機能することで、小さな断面で居住性に関わるピロティ部分の十分な剛性と耐力を基礎梁なしで確保している。屋根を支える2層目は小さな地震力負担となるため、同じ部材寸法によるシステムを反転し、一般的な居室の階高を柱頭ピンの鉄筋コンクリートフレームで実現している。地盤改良や基礎工事を最低限とし、要素やサイズを削ぎ落とした鉄筋コンクリートフレームが木造ヴォリュームをそっと支えている。　（平岩良之）

子供室1から後庭方向を見る。　子供室前の廊下。

高岡の住宅

所在地／富山県高岡市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供2人

設計

畝森泰行建築設計事務所
　担当／畝森泰行　田島理奈
構造　平岩構造計画　担当／平岩良之
環境　DElab
カーテン　Talking about Curtains
　担当／佐藤未季
照明コンサルタント　大光電機
　担当／有馬郁恵

施工

伍都和建設　担当／佐野昭平
設備　アリタ　担当／江藤正和
電気　システム・メディア・ジャパン
　担当／伴哲也
家具　スティーユ　担当／星浩朗

構造・構法

主体構造・構法　鉄筋コンクリート造
基礎　独立基礎（基礎下 柱状改良）

規模

階数　地上1階
軒高 5,640mm　最高高さ 5,850mm
敷地面積　519.80m²
建築面積　134.64m²
（建蔽率25.90%　許容60%）
延床面積　112.21m²
（容積率21.59%　許容188%）
1階　112.21m²

工程

設計期間　2017年4月〜2018年11月
工事期間　2019年4月〜2020年2月

敷地条件

地域地区　第一種住居地域　準防火地域
道路幅員　西4.70m　駐車台数　1台

外部仕上げ

屋根／ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 立平葺き
外壁／カラーガルバリウム鋼板小波板縦張り t=0.4mm 日新製鋼 SELiOS GQつや消し クリーン グレーホワイト　窯業系サイディング ジョリパット吹付け　t=2mm（アイカ工業 ジョリパット 小粒ロックS）
開口部／スチールドア　スチール窓　アルミサッシ
外構／川砂利
スロープ／土間コンクリート　刷毛引き仕上げ

内部仕上げ

風除室

床／天然スレート t=8mm
壁／珪酸カルシウム板 t=6mm ウレタン塗装　スギ板 t=10mm 羽目板張り 自然塗装
天井／ラワン合板 t=4mm 自然塗装

玄関

床／天然スレート t=8mm　複層フローリング オーク
壁／ラワン合板 t=5.5mm 自然塗装
天井／ラワン合板 t=4mm 自然塗装

リビング・ダイニング　キッチン

床／複層フローリング オーク　磁器タイル t=8mm 丸鹿セラミックス ルベロン
壁／プラスターボード t=12.5mm 珪藻土 t=2mm 押さえ仕上げ　PB t=12.5mm EP
天井／ラワン合板 t=4mm 自然塗装　PB t=9.5mm EP
厨房機器／
　食洗器／リンナイ RSW-404LP
　ガスコンロ／リンナイ LiSSe RHS71W23LRSTW
　換気扇／サンワカンパニー ミニマルスリム

洗濯室　洗面室　トイレ

床／磁器タイル t=8mm 丸鹿セラミックス ルベロン
壁／耐水PB t=12.5mm EP
天井／ PB t=9.5mm EP

主寝室　廊下

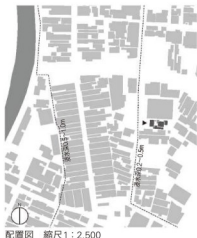
床／複層フローリング バーチ
壁／シナ合板 t=5.5mm 自然塗装
天井／シナ合板 t=4mm自然塗装

子供室1・2

床／コルクタイルt=5mm 東亜コルク AW-N5 特殊樹脂 ワックス仕上げ
壁／ラワン合板 t=5.5mm 自然塗装　ラワン有孔合板 t=9mm 自然塗装
天井／ラワン合板 t=4mm 自然塗装

設備システム

空調　冷暖房方式／ルームエアコン
　換気方式／第三種換気
　その他／床暖房 熱循環居住域空調（循環ファン）
給排水　給水方式／上水道直結
　排水方式／下水道直結
給湯　給湯方式／ガス給湯

撮影／新建築社写真部

配置図　縮尺1：2,500

左手にリビング・ダイニング，正面に子供室を見る。

The Naoshima Plan「水」

The Naoshima Plan “The Water”
香川県香川郡直島町

三分一博志建築設計事務所
Sambuichi Architects

南北続き間より北庭を見る。直島の本村集落にある築200年の旧家を、部分的に解体し井戸水を再生させることで水庭とした。増築した軒幅5,900mmの軒下では足水として涼を取ることができる。

北庭。集落全体に地下水脈が張り巡らされており、常に1日約2トンの水が湧き出る井戸から汲み上げた伏流水を湛えた水盤が設けられている。

左：南北続き間より北側を見る。本村集落にある多くの旧家は続き間の南北にそれぞれ庭があり、同じ造りの家々が風の向きに沿って建てられていたことから、増築されていた建物を取り除くことで、風が南から北へ抜ける旧家本来の姿を蘇らせている。　右：桟敷より南北続き間を見る。

風・水をリレーする集落 ― 直島本村 ―

「The Naoshima Plan」とは、個々の建築や街区、水路などを通して直島全体の風、水、太陽などの「動く素材」を浮き上がらせ、その美しさや大切さを再認識してもらう試みである。これまでに「直島ホール」(『新建築』1601)と「直島の家 ―またべえ―」(『新建築』1601)で実践しており、今回新たに直島の水を中心に旧家の再生に着手することになった。

古来、直島は地形地勢的に瀬戸内の交流物流の要所として栄えてきた。築200年となる本旧家は江戸期には廻船業の名家、明治期には郵便局として島民に親しまれ、直島本村集落の中心に位置する。

これまでの8年のリサーチでは、直島本村は南北方向の谷に沿って風が流れ、各家が「南北続き間、縁、南北の庭」をもつことで集落内に風が受け渡されていること、さらに井戸水も集落共有の財産として使い受け渡す、風や水のリレーが数百年に渡って行われていたことが分かってきた。本旧家も南北風の続き間や井戸をもっていたが、時代と共に変化する生活スタイルや、増築を重ねる中でその魅力や集落全体の思想が失われつつあった。

本旧家では、特に豊富な地下涌水に恵まれていたことから、建物下部の「動く素材」である水に着目し、地下水脈利用と空気の流れ、さらには風と水のリレーの再生に取り組んだ。比較的近年増築された部分を解体して風の続き間を再生すると共に、新たに既存井戸を利用した水の北庭を設けた。水の上には、桟敷と解体部材を再利用した大下屋大下屋(おおげや)を架け、南北に抜ける風を感じながら足水で涼を取ることができる大きな陰をつくった。

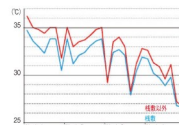
昨年、瀬戸内国際芸術祭2019期間中に体感型パヴィリオンとして公開しながら、実証実験や建物の使われ方の調査を行なった。来訪者のアンケートからも、水と庭、南北続き間の風の体感は、島民が直島本来の美しさを語るうえで、島外からのゲストとの交流にもっとも適していることが再認識された。2020年からは、ベネッセアートサイト直島の体感型アート施設「The Naoshima Plan『水』」として一般公開し、島民と来館者との交流休憩施設となる。ここで見出された建築と動く素材、生活の豊かな関係は、今後の「The Naoshima Plan」へと引き継がれていく。

近年気候変動の観点からも、改めて地下水の価値を再認識する必要に迫られている。水を介した直島らしい交流が育まれるこの場所が、風・水・太陽を大切に共有する島の新たな未来を語り合う井戸端となることを願っている。（三分一博志）

配置図　縮尺1：4,000

2点：「The Naoshima Plan」のイメージパース。

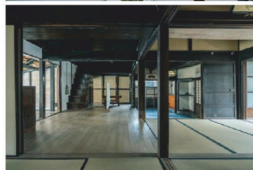
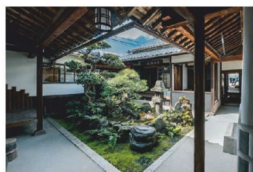
今後の「The Naoshima Plan」
次の展開として新たに、島内のふたつの旧家を改修した寮・ゲストハウスを構想している。直島の「動く素材」を中心とした、これからの島のコミュニティのあり方を示すものとなる。

(℃)
35
30
25
Week 1
Week 2
Week 3
Week 4
桟敷以外
桟敷

直島での実証実験
「The Naoshima Plan『水』」では、実験とデータ取得を継続的に行なっている。水盤の上に設けた桟敷の気温は、敷地内のほかの場所と比べ夏場の日中で約2°Cほど低いことが明らかになった。瀬戸内国際芸術祭2019では水盤は足水として利用され、1日最大2,000人を超える国内外の来訪者が涼を求めて訪れた。地下より脈々と湧く水は、いつの時代においても国籍に関係なく人びとを引きつけ、コミュニティの拠りどころとなる。

900
5,000
2,000
1,000
1,000
1,000
1,000
1,000
増築
既存
大屋根
屋根: ヒノキ板張り(本実加工) t=20mm w=105mm
横桟: スギ 30×30mm@240mm
垂木: スギ 50×70mm@450mm
母屋: スギ 90×90mm@1,000mm
旧主屋軒裏漆喰塗り
▽下屋上端 GL+3,880
1,380
2.2
1
▽軒高 GL+3,880
梁丸太材: マツ φ=180mm(既存部材再利用)
スギ柱: スギ 180mm角 塗装(色指定)
3,880
1,930
桟敷
南北続き間
鼻隠し: スギ t=20mm w=100mm
▽1FL=GL+570
290
570
▽WL=GL+280
670
380
足水
▽GL±0
▽GL−100
100
側溝
水盤: 白石灰石焼 t=40mm
土間コンクリート t=100mm ワイヤーメッシュ筋
床: スギ板張り t=30mm w=140mm@145mm ノンビス工法
根太: スギ 45×60mm@450mm
大引: スギ 90×90mm@900mm
束: ヒノキ 90×90mm
側溝

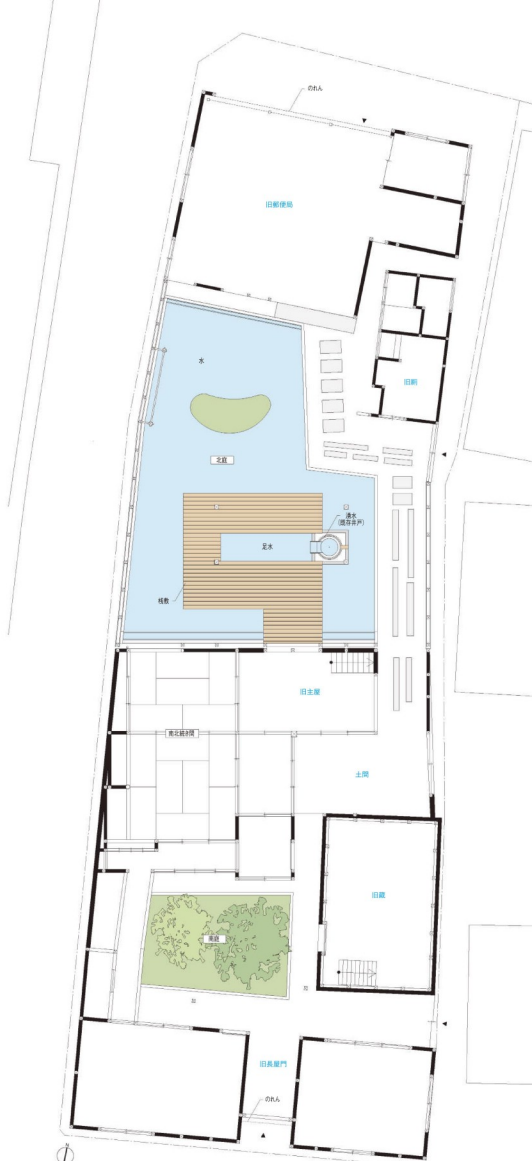
改修部断面詳細図　縮尺1：50

旧郵便局を見る。現在は、島民と来館者の交流と休憩の場として利用されいている。

南北続き間より南庭を見る。奥の赤いのれんは、染織家・加納容子が制作したもの。

上：南庭を見る。　下：南北続き間より東側を見る。

Earth Floor & Roofed Terrace
風と水のリレーを再生する

既存平面図　縮尺1：300

のれん
旧郵便局
旧厠
水
北庭
湧水
(既存井戸)
足水
桟敷
旧主屋
南北続き間
土間
旧蔵
南庭
旧長屋門
のれん

配置平面図　縮尺1：150

北側外観。加納容子が制作したのれんを掛けており、のれんの動きによって集落の風の動きを視覚的にも体験できるようになっている。

The Naoshima Plan「水」
所在地／香川県香川郡直島町
主要用途／休憩所

設計
三分一博志建築設計事務所
担当／三分一博志　香村翼　池谷達也
構造　池崎設計　担当／大上信一

施工
建築工房おおやま　担当／大山貴史
木工事　リンケン　担当／田村浩一　川本昭男
設備　木村プロパン　担当／玉井和樹
基礎・外構　石井建設　担当／石井靖輔

構造・構法
主体構造・構法　木造
基礎　独立基礎　一部礎石

規模
階数　地上2階
軒高 3,390mm　最高高さ 3,880mm（増築部）
敷地面積　492.6m²
建築面積　321.54m²
（建蔽率65%）
延床面積　324.45m²
（容積率66%）
1階　276.98m²　2階　47.47m²

工程
設計期間　2017年10月〜2018年12月
工事期間　2019年1月〜2020年4月

敷地条件
地域地区　防火指定なし　　高度地区なし
道路幅員　北5m

外部仕上げ
屋根／ヒノキ板
外壁／竹小舞
外構／水盤：石灰砕石敷き　植栽：苔
塀：竹　小舞

内部仕上げ
桟橋
床／スギ板
壁／竹小舞
天井／ヒノキ板

撮影／新建築社写真部

提供：三分一博志建築設計事務所

郵便局として利用されていた明治35年当時の写真。

西側外観。

南北続き間より北西側を見る。

house A

大阪府交野市

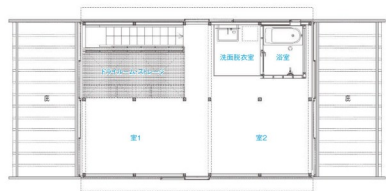
木村松本建築設計事務所
KimuraMatsumoto Architects

南西側全景。山裾の高低差のある住宅地の一角に建つ。1、2階共にほぼ間仕切りのないワンルームで、手前と奥に大きな庇をもつ。庇は、外壁面との固定長さを出幅と同等以上確保することで、はね出し長さを2,730mmとしている。

ストレージからエントランスを見る。敷地高低差に合わせることで変形した基礎天端から水平に張り出したスラブがエントランス・ストレージとなる。エントランスと1階床との高低差は830mm。道路側の庇の高さは2,330mm。

庭を見る。庭側の庇の高さは3,290mm。室内から日差しや雨を緩やかに遮るFRP庇、庭、近隣住居、山並みまで新設既存のものたちが雑多に入り混じる。

ストレージより庭側を見る。敷地高低差に合わせた基礎の高さの違いによりブレースの角度が非対称となっている。

1階配置平面図　縮尺1：150

キッチンより北西側を見る。構造体とその隙間に配置された紙管トイレやキッチンにより、ワンルーム内に見え隠れと回遊性が生まれ、多様な居場所をつくり出している。

Earth Floor & Roofed Terrace
ふたつの庇下の異なる場所性

2階平面図

リビングより南側を見る。

室1よりドライルーム・ストレージを見る。

室1より北側を見る。2階床面を延長するような庇により広がりをつくり出す。

▽最高高さ=GL+5,415
▽棟梁天端=GL+5,030
▽軒梁天端=GL+4,330
▽2FL=GL+2,360
△2SL=GL+2,330
▽基礎立上高さ=GL+200
▽GL±0
▽1FL=GL-640

1,085
700
1,970
2,000
5,415
2,160
2,130
200
640

屋根:
ガルバリウム鋼板 折板葺き t=0.4mm
アスファルトルーフィング/構造用合板 t=12mm
高性能グラスウール t=100mm　構造用合板 t=12mm

天井:
構造用合板 t=12mm

梁:
集成材 105×150mm

FIX開口部:
透明ペアガラス FL6+A6+FL6

開口部:
住宅用アルミサッシ
引き違い窓 外付型

庇梁:
St-[-250×90×9×13mm

庇:
FRP折板 t=1.2mm

庇下1

梁:
無垢材 90×150mm

ドライルーム・ストレージ

柱:
無垢材 90×90mm

床:ウエスタンレッドシダー 2×6材(半割り)

天井:
構造用合板 t=24mm

ストレージ

梁:
集成材 105×150mm

壁:
紙管 t=15mm+UE

柱:
集成材 105×105mm

基礎立上り:
コンクリート打ち放し
撥水剤塗布

床:
ラワン合板 t=5.5mm
自然塗料仕上げ
/構造用合板 t=24mm

洗面脱衣室

床:
アコスターポリボード t=5mm
構造用合板 t=12mm

梁下端 H=1,820

キッチン

梁下端 H=2,820

180
150
30
150
170
200
60
60

断面詳細図　縮尺1：50

2,730　1,820　1,820　910　1,820
13,650

庇を介して南側道路を見下ろす。2階床と道向かいの宅盤が庇を介して連続性をもたらす。

左：道路側の庇を見上げる。FRP越しに光が拡散する。
右：105mm角の外周柱は2階床梁天端＋115mmで90mm角に切替わりその高さは庇鉄骨梁のアンカーボルト位置で決定されている。

北側より見上げる。敷地周辺の既存の作業小屋や、崖下の庭の上に張り出す既存鉄骨デッキに呼応するように庇をのばしている。

構造部材で緩やかに仕切る

短辺5.46m、長辺8.19mのやや細長い木造2階建ての住宅である。短辺は両妻面とも開口となるため耐震要素として耐力壁を設けることはせず、105×150mmの木ブレースを両外面足元から中央列の柱頭に向けてハの字に配置し、長手方向の透明度を高めつつ耐震性能を確保している。ハの字の片側のブレースはコンクリートの立上り壁頂部を足元としているため、コンクリートの剛性を考慮した疑似トラスとして左右のブレースの角度に変化をつけながら水平力に抵抗する。それらのブレースは耐震要素としてではなく空間を隔てる仕切りとしても機能している。2階は中央列の柱、ブレース共に1階の断面を踏襲し短辺の耐震要素を構成する。一方で長手面沿いの柱は90×90mm、屋根梁は90×150mmとサイズを落とした部材が外殻と屋根を形成し外部と内部を仕切っている。両妻面に配置された庇は250×90のmm溝形鋼により2.73m跳ね出し、溝形鋼に支持されたFRP折板屋根が軒下空間をつくっている。　（海野敬亮）

特集論考1

生きられる場所

木村吉成　松本尚子

庭

住宅を設計する時「生きられる」ことについて考える。それは機能的な要求に応えた「使われる」こととは違った、根源的で個別的なものである。それぞれの人が抱える切実さに対してのイマジネーション、場所が人を許容するといったポッシビリティをもつ住宅をつくりたい。手がかりは、建主が発する言葉の中に潜んでいることがある。たとえば「庭がほしい」という言葉。一見素朴なそれは、近代の眺める対象としての、あるいは余暇を楽しむ理想を描いた外部空間の要望だが、そこで行われる行為を思うと現代社会でのバリエーションはかなり少ない。本来は生産の場所であった民家の庭は、都市化と職住分離によってその広義な働きを失い、新しい家族の生活のイメージを補う場所へと急速に変質した。だがそれでも、その言葉の奥には生きることへの切実さが感じられる。

身の回りを生きられる場所にする実践として、1970年台初頭にイギリスから世界へと広がったアヴァン・ガーデニングという運動がある。都市に個人の自由な場所をつくり出す手段として庭を用いたのは、人と植物の関係に、日常を新鮮に生きてゆく理想像を見たからではないか。

あるいはまちの何ということもない光景の中に、揺れ動く関係を観察できる。左官資材店の広い店先では、砂や砂利、コンクリートブロックが積み下ろされている。機械の稼働範囲から決まったであろう高い庇は雨を十分には遮れず、濡れて大丈夫なものはそのままそこに置かれ、人の作業領域はそれなりに守られている。人、モノ、機械、それぞれの合理が外部環境下で折り合いをつけている（手を打っている）交雑したその場だ。とりあえずの均衡状態は条件に応じていつでも変化できる余裕があり、そこからは爽やかさすら感じられる。

このような領域の主体が状況により変動する状態は、先のアヴァン・ガーデニングが変化を与える都市風景と似ている。人だけではないモノとの絶え間ない流動は、場を淀ませない「新鮮」な状態を保ち続けていると言えるのではないか。そのような動きのある、生命的な場をどのように設計し得るだろうか。

house A

建主は大阪と京都の中間に位置する利便性の高い駅前マンションに暮らしていた。しかし、土や植物に近く、自然と地続きになった関係を望みそこを手放した。手に入れた土地は1960年台頃に分譲された、山裾の斜面にある住宅地。前世代の家屋が建ち、北側の崖部分に対して張り出した鉄骨造デッキとその上の小屋、石積みや奔放に育った草木が散漫にあった。家屋を取り除く以外は既存物も敷地形状の一部ととらえ、そのほとんどを残して、解体後に現れた道路側から崖下への風景の、既存物を介した雑味のある抜けを積極的に保存する構えを考えた。都市型の住居とは異なり、比較的ゆとりのある敷地の場合、近隣住戸との距離感が計画において決定的な判断を与える要素とはなりにくい。そのためある種プロトタイプ的な骨格を設定し、それを環境条件にアジャストさせるような手法で設計を進めた。フラットな基礎スラブ上の中央列に柱が並び、その頂部に向かって両側からブレースが登るといったシンメトリーなものを初期設定とする。敷地には南の道路から北の崖へと緩やかな高低差があるため、道路に面する端部で基礎形状が変形しその差を吸収する。山の上側である東隣地へのセットバック箇所は南北高低差をなだらかなスロープとし、そこでも基礎の形状が変形する。それに伴いブレースの根本がもち上がり、敷地由来の高さが骨格をアシンメトリーに変形させた。2階では床梁から上の長辺外周の柱がサイズダウンし屋根梁と共に中央列の構造との間にスケールの対比が生まれ、両肩に膨らんだ屋根裏のようになった。また鉄骨で大きく跳ね出した庇の下は、FRP越しの変質した陽の光が時間と共にその領域を揺るがせる。道路側は車や出入りする人、エントランスまわりの道具が関係する場所となり、崖側では地面との距離が高いために雨が入り込み、植物や生き物などがその庇下の領域にも生きる場を求めてくるだろう。また2階からはひな壇造成された道向かいの宅盤と室内が庇レベル越しに繋がり、崖側では跳ね出す既存デッキと近似した感覚をもたらしている。大きめのキッチンや巨大な紙管でできたトイレ、建主がもち込む家具や生活用品が構造体の隙間や庇下、そして庭に場所を発見するように並ぶことで敷地の残存物のあり方に寄ってゆく。

雑を保存し更新する

私たちはひとつの問がひとつの解に向かい、そぐわないものは除外されやすい有用性を過度に求める社会に今生きている。それは、未知なものに対しての備えをもたない脆弱なシステムであるように思う。本来、問題解決におけるリソースは、長い時間をかけて心身と環境が相互に働きかけ続けるサイクルから引き出せたはずだ。そのサイクルを見直し、日常の中で今まで見えていなかったものに気づき、それらとの新しい関係を試していく必要がある。一見役に立たないようなもの、役に立つかどうか分からないものが実はさまざまなネットワークの中で重要な働きをしているということが、人工進化の分野でも明らかになっている。たわいのない雑談が徐々に場の輪郭をつくるように、たくさんのものをひと先ず解けないように結びつけておく技術、生存戦略としての雑の保存と更新を担保し、トライアンドエラーを何度も引き受けながら常にその鮮度を保ち続けることができるなら、建築は人が生きることすべてのそばにあることができる。

house A

所在地／大阪府交野市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供1人

設計
木村松本建築設計事務所　担当／木村吉成
松本尚子　畑澤里香
構造　海野構造研究所　担当／海野敬亮
不動産　建築家不動産　担当／中司憲治

施工
船橋工務店　担当／船橋耕太郎
大工　池田健　髙野泰幹　三國和宣　佐藤慶介
基礎　服部工務店　担当／服部直樹
プレカット　ハウジングシステム北陸
担当／黒田健嗣
鉄骨　角田鉄工所　担当／角田貫志
板金　協和建設　担当／津田裕二
塗装　創美建装　担当／山本伸一
電気　後藤電気　担当／後藤賢太郎
給排水設備　西設備　担当／西賢太
建具・材木　津村材木店　担当／津村芳雄
レンガ　水野製陶園　担当／水野太史

構造・構法
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

規模
階数　地上2階
軒高 4,330mm　最高高さ 5,415mm
敷地面積　213.30m²
建築面積　74.53m²
（建蔽率34.94%　許容50%）
延床面積　118.58m²
（容積率55.59%　許容100%）
1階　74.53m²　2階　44.05m²

工程
設計期間　2018年9月～ 2019年9月
工事期間　2019年10月～ 2020年3月

敷地条件
地域地区　第1種低層住居専用地域　法第22条区域
道路幅員　南4m　駐車台数　1台

外部仕上げ
屋根／ガルバリウム鋼板 折板葺き t=0.4mm
庇／ FRP折板 t=1.2mm
外壁／ガルバリウム鋼板　スレート小波板t=0.4mm
開口部／住宅用アルミサッシ 外付型
FIX開口部／透明ペアガラスFL6＋A6＋FL6mm
外構／透水レンガ敷き　砕石敷き込み

内部仕上げ
エントランス
床／コンクリート打ち放し 表面強化剤塗布
壁／ラワン合板 t=5.5mm　構造用合板 t=9mm
天井／構造用合板 t=24mm　梁現し
照明／ BOLTS HARDWARE STORE

キッチン　ダイニング　リビング　ストレージ
床／ラワン合板　自然塗料仕上げ
壁／ラワン合板 t=5.5mm
天井／構造用合板 t=24mm　梁現し
照明／協和電工　制作照明

トイレ
床／ラワン合板 t=5.5mm 自然塗料仕上げ
壁／紙管 t=15mm UE
天井／中空ポリカーボネート板 t=6.0mm
便器／パナソニック

浴室
床・壁／ FRP防水　トップコート仕上げ
天井／中空ポリカーボネート板 t=6.0mm
バスタブ／大和重工 CASTIE1470
シャワー水栓金物／ TOTO

洗面脱衣所室
床／アコスターポリボード t=5.0mm
壁／ラワン合板 t=5.5＋5.5mm
天井／構造用合板 t=12mm　梁現し
水洗金物／カクダイ

ドライルーム・ストレージ
床／レッドシダー 2×6材 半割り
壁／ラワン合板 t=5.5＋5.5mm
天井／構造用合板 t=12mm 梁現し

室1・2
床／ラワン合板 t=5.5mm 自然塗料仕上げ
壁／ラワン合板 t=5.5＋5.5mm
天井／構造用合板 t=12mm 梁現し
照明／協和電工

設備システム
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
換気方式／第三種換気
給排水　給水方式／上水道直結方式
排水方式／下水道直結方式
給湯　給湯方式／エコキュート

撮影／新建築社写真部

配置図　縮尺1：2,000

南側夕景。

萌蘖

Hogetsu

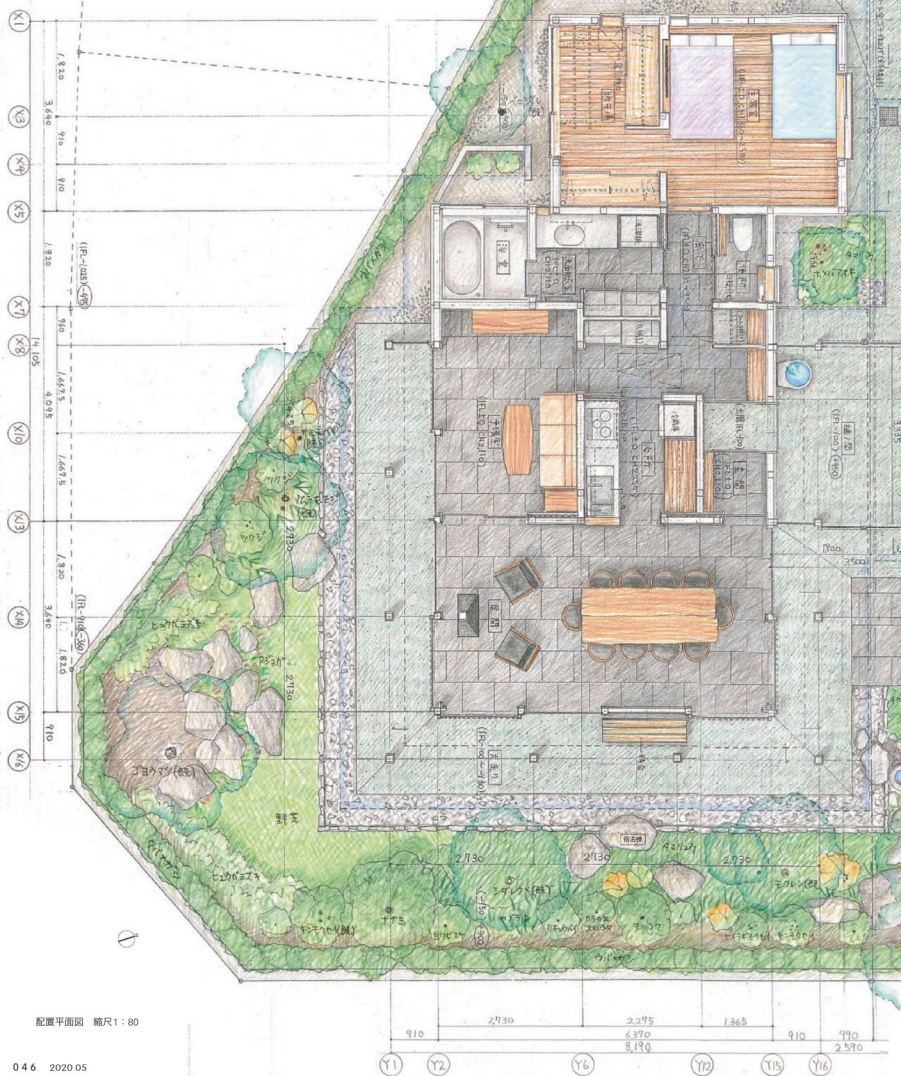
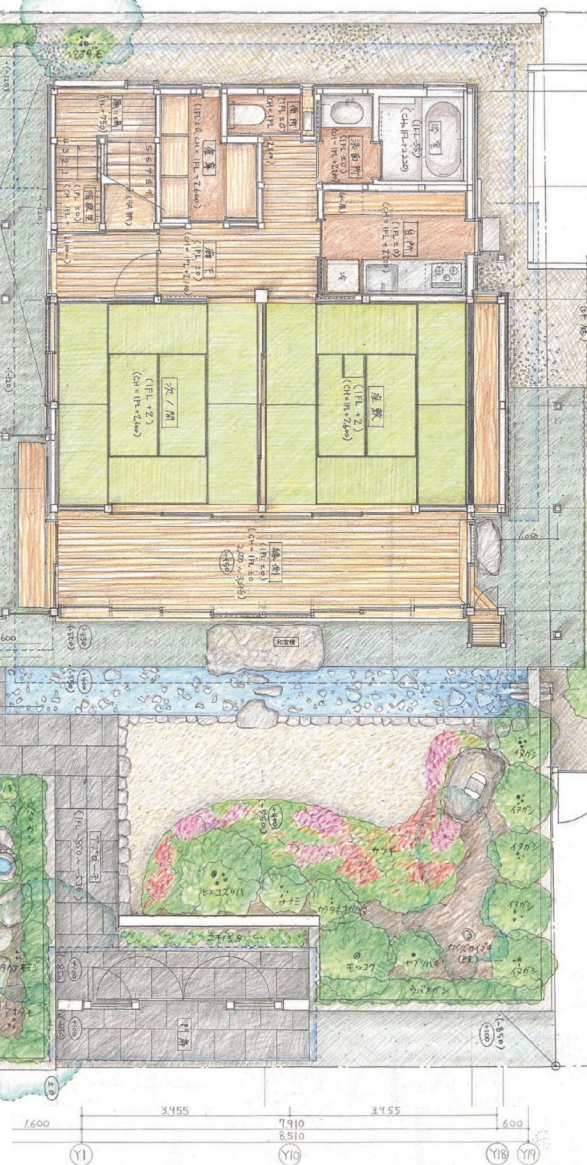
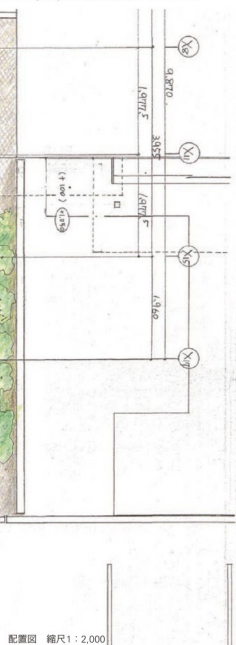
鹿児島県鹿児島市

横内敏人建築設計事務所
Toshihito Yokouchi Architect
and Associates inc.

南から宿泊棟の居間越しに、和室棟の縁側と庭を見通す。鹿児島に伝わる「ふたつや」という民家形式を現代に再解釈し、生活機能を納めた宿泊棟とイベントのための場にもなる和室棟を玄関部分で連結させている。棟ののし瓦の1段目は通気材を挟み、瓦下の夏の熱気を抜くことで野地板の温度上昇を抑えている。

宿泊棟（右）と和室棟を繋ぐ「樋ノ間（てのま）」。両棟の軒先を造作の雨樋で繋ぎ、さらに室内化して玄関としている。床は外土間と連続させた豆砂利モルタル洗い出し仕上げ。

Earth Floor & Roofed Terrace

現代に継承する2棟を繋ぐ民家形式

配置平面図　縮尺1：80

和室棟2階平面図　縮尺1：250

配置図　縮尺1：2,000

懐かしき未来をもとめて

この建物は鹿児島の伝統的生活文化を体験できる住宅のような宿泊施設である。建主の希望は急速に欧米化と国際化が進む現代社会だからこそ、その中で失われつつある地域独自の伝統的生活文化の素晴らしさをこの地を訪れる人びとや地域住民にも体感してもらうことだった。しかし、それを復古的な形式で実現するのではなく、あくまで現代的な感性と生活に合うかたちで、そのよさを未来にも継承できる建築様式を求められた。いわば懐かしき未来の創造が計画のテーマとなったのである。

鹿児島には古くから「ふたつや」という民家の形式がある。これは客間中心の「おもて」と、日常生活の場である「なかえ」の2棟が、「てのま（樋の間）」で連結したかたちをもつが、計画ではこれを参照した。ひとつは伝統的な二間続きの座敷をもち宿泊以外にもさまざまなイベントに使用できる和室棟で、もうひとつはタイル床のダイニングキッチンをもつ現代住宅のような宿泊棟である。そしてその2棟を共通の玄関部分で連結するかたちとした。

和室棟は庭に面して奥行き1.82mの広い縁側を設けており、引き込み式のガラス戸を開けると縁側を介して庭と室内が一体となる伝統的な空間形式が体験できるようになっている。その縁側の開放性を高めるため、桁の中央を桔木で支え、柱をなくす構造とした。

もうひとつの宿泊棟はバリアフリー住宅のモデルにもなるように、床高さを地面に近づけ、靴は脱ぐが土間のように室内と庭を自由に出入りできるようにしている。またエアコンとは違う夏の快適さを味わえるように、居間は天井高さを上げ、4周に土庇を回し、庭を十分に緑化することにより涼風を室内に取り込めるようにした。2棟とも屋根には瓦を採用したが、暑い夏に備えて瓦の下の空気を棟から抜く仕組みを考案し、野地板の温度上昇を抑えている。

庭は「庭園一如」という伝統的な考え方を意識し、家と一体的に計画した。温暖な気候に合い、この地特有の台風による塩害にも強い常緑樹を中心に構成し、敷地にもともと植えていた建主のご両親が大切にしていた刈込み仕立ての樹木や景石のほとんどを再利用することで、鹿児島の伝統的庭園の形式を継承しながらも、今日の住宅にも合う自然な雰囲気の庭となるように計画している。（横内敏人）

和室棟の座敷（左）と次ノ間から庭を望む。ギャラリーとしても使えるように長押下にピクチャーレールを、長押上には抜き差し可能な壁面を照らすピンライトを仕込んでいる。

宿泊棟の居間と犬走りの近景。床レベルの差は100mm。4周に土庇を回し、天井高を棟木下端で約4.2m取ることで、夏には緑化された庭から涼風を取り込むことが意図される。冬の備えには暖炉のほか温水式床暖房を設置。

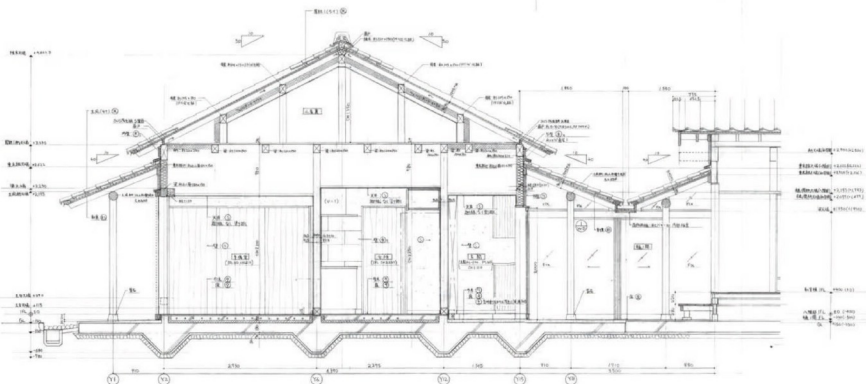
庭から右手に和室棟を、正面に宿泊棟を見る。庭は暖かい気候に合う常緑樹を主に使用し、既存の刈り込み仕立ての樹木を再利用することで、鹿児島の地域性を取り込んでいる。

左：和室棟2階の主寝室。中央の大黒柱に斜めに架かるのが軒桁を支える桔木。　右：宿泊棟の居間。隠し框の建具で庭への連続性を確保し、熱環境に応じて調整できる断熱ロールスクリーンを設置。

萌蘖

所在地／鹿児島県鹿児島市
主要用途／ゲストハウス

設計
横内敏人建築設計事務所
　担当／横内敏人　渡邉将平　秋吉由登
　森田龍平（元所員）
構造　植田構建築事務所　担当／植田宗宏
温熱環境設計協力　鹿児島大学
　担当／鷹野敦　平川美憂　柴田隆詠
掘り炬燵デザイン　担当／村澤一晃

西側外観。

施工
ベガハウス　担当／日置謙太
大工　小畑工務店　担当／小畑徹　川原覚
構造材　持永木材　担当／中山隆治
　西田敦子　谷口裕二
設備　上野工業　担当／福山栄二
電気　池田電気工事　担当／伊地知静
　福留力男　田中裕之
板金　末永建装　担当／野田洋宣
瓦　川畑瓦工業　担当／川畑博海　永田臣人
左官松下工業　担当／松下広美
建具　山口建装　担当／山口浩幸
制作材　トクエイ　担当／大木拓也
外構・造園　横瀬造園土木　担当／横瀬博文

構造・構法
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

規模
階数　住居棟：地上1階　和室棟：地上2階
軒高　住居棟：3,180mm　和室棟：5,350mm
最高高さ　住居棟：5,070mm
　和室棟：7,020mm
敷地面積　住居棟：272.11m²
　和室棟：221.68m²
建築面積　住居棟：100.89m²
　（建蔽率37.08%　許容50%）
　和室棟：95.91m²
　（建蔽率43.32%　許容50%）
延床面積　住居棟：80.74m²
　（容積率26.67%　許容80%）
　和室棟：117.16m²
　（容積率55.60%　許容80%）
　1階　80.44m²　2階　36.72m²

工程
設計期間　2017年8月〜2018年7月
工事期間　2018年10月〜2019年7月

敷地条件
地域地区　法第22条区域
道路幅員　東6m　駐車台数　2台

外部仕上げ
屋根／三州産いぶし切り落とし桟瓦　一文字軒瓦
外壁／スーパー白州そとん壁特注色（高千穂シラス）
開口部／木製建具　ベイヒバ　複層ガラス　LIXIL サーモスL
外構／豆砂利モルタル洗い出し
その他／クォーツタイル ダントー QUO-102 ブラック

内部仕上げ

台所（宿泊棟）
床／クォーツタイル（ダントー QUO-102）
壁／フジワラ化学 シルタッチSP
天井／台所：フジワラ化学 シルタッチSP　居間・食堂：スギ源平板目上小節 w=150mm t=12mm 相決り
家具／制作家具 ブラックチェリー　調理台天板：SUSバイブレーション仕上げ
暖炉／制作（憩暖）

台所（和室棟）
床／コルクタイル（東亜コルク）
壁・天井／防汚ケナフウォール（東リ）
家具／制作家具 シナベニヤ

浴室
床／ハーフユニットバス（LIXIL）
壁／クォーツタイル ダントー QUO-101 サンド
天井／ヒノキ縁甲板無地 w=150mm t=15mm　超・撥水2回塗り
バスタブ／ハーフユニットバス（LIXIL）

トイレ・洗面所（宿泊棟）
床／クォーツタイル（ダントー QUO-102）
壁・天井／洗面所：フジワラ化学 シルタッチSP　トイレ：防汚ケナフウォール（東リ）
便器／TOTO CES9878

トイレ・洗面所（和室棟）
床／コルクタイル（東亜コルク）

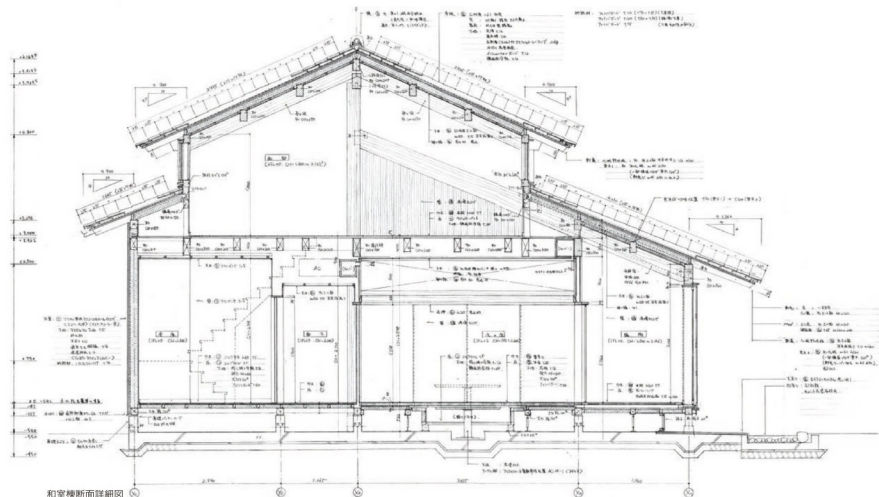
住居棟断面詳細図　縮尺1：75

庭から右手に和室棟を見る。縁側の奥行きは1.82mとし、軒の中央を桔木として柱をなくしている。

壁・天井／ジュラク壁　京壁（富士川建材）
便器／TOTO CES9878
寝室（宿泊棟）
床／ブラックチェリー三層フローリング
壁・天井／アースウォール（東リ）
家具／制作家具 ブラックチェリー
座敷・次の間（和室棟）
床／本畳
壁／ジュラク壁　特注色（富士川建材）
天井／竿縁天井　スギ中杢練り付けベニヤ
床の間（和室棟）
床板／ヒノキ
床框／スギ集成材黒漆塗
壁／ジュラク壁　特注色（富士川建材）
天井／杉笹杢練り付けベニヤ
寝室（和室棟）
床／カーペットボンフリー（東リ）
壁／ジュラク壁　京壁（富士川建材）
天井／スギ板目上小節

設備システム

空調　冷暖房方式／天井埋込カセット形全ダクト設置（ダイキン）
換気方式／住居棟：第一種換気（ローヤル電機）　和室棟：第三種換気
その他／住居棟：コンクリート埋設型　温水式床暖房　和室棟：床暖房
給排水　給水方式／上水道直結
排水方式／下水道直結
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部

和室棟断面詳細図

新張の家

House in Mihari

長野県

花岡徳秋建築設計事務所
Noriaki Hanaoka Architecture

西側夕景。敷地は緩やかな南斜面にあり、竹林や畑など豊かな自然に囲まれている。かつて職住一体で利用されていた2棟連なる工場と民家を改修。町工場を住居（右手）に、古い民家をさまざまな用途で利用できるサードプレイス（左手）へ転用している。

住居の広間。築38年の工場を鉄骨造の躯体はそのままに、地震時に既存部への応力が増大しないようにコンクリート造の壁を増築。住居として転用するために、外周に新たに外断熱を施し、内部は鉄骨部材を再塗装。壁や胴縁に付いた汚れを清掃し、落ちない傷跡などは痕跡として残している。広間の天井高さは4,000〜4,150mm。

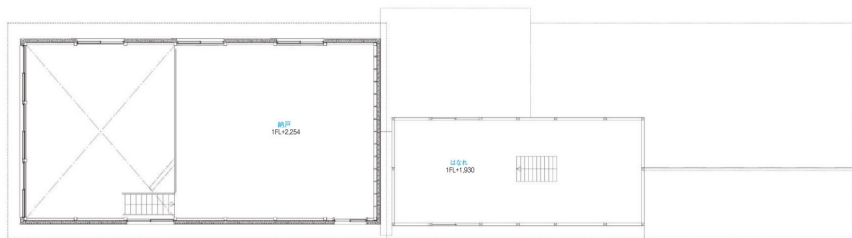
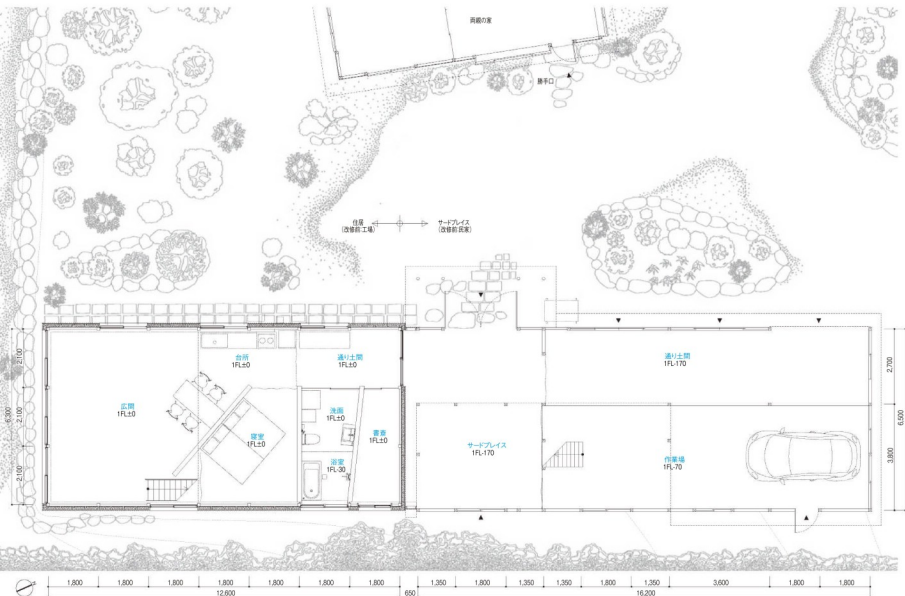
サードプレイスから通り土間を介して住居の広間を見通す。築55年ほどの木造2階建ての民家に最低限の耐震補強を施し、屋根と外壁の一部をポリカーボネイト板とすることで日射を取り込む。

大地のような土間

子育て中の夫婦から、両親と隣居し、将来はジャイロキネシスの教室を開きたいと相談を受けた。敷地は緩やかな南斜面にあり、竹林や畑などに囲まれた自然豊かな農村部にある。道路側に両親の家が建ち、奥には職住一体で利用していた民家と工場の2棟が連なっていた。要望は思い入れある民家を改修することだったが、住めるようにするには相当手を加える必要があった。一方で、築38年の工場の鉄骨造の躯体は健全だった。外を覆っただけのラフな内部は、民家と隔壁なしの一室空間。異なる用途が土間で地続きになっていて、混沌とした大地のようなおおらかさが伝わってきた。要望と異なるが2棟のどちらかではなく、どちらも活かすことにこの家族とストックが余っていく農村の未来を感じた。そこで、民家をサードプレイスに、工場を住居に転用した。

サードプレイスへの改修では、最低限の耐震補強のみ施し、光と風の溜まる土間とした。観音扉の開閉で冬は風除室、夏は竹林と両親の家の間に風の道を開き、変動する周辺環境に応じる環境装置となる。また、来客との「縁側付き合い」や、両親も洗濯物を干したりできる多世帯暮らしの緩衝帯になる。

住居への改修では、通り土間を工場内部まで貫いた。通り土間沿いに台所やアイロン台を配置し、指状に壁をずらして建ち上げ家族の拠り所となる隙間の中にさまざまな居場所をつくる。がらんどうの工場内部は重い壁によって分節し、軽い空間の襞で連結する。

この土間が家族と一緒に時を重ね人と人を近づけて繋ぐ、「農の暮らし」の礎となることを期待している。　（花岡徳秋）

2階平面図

1階配置平面図　縮尺1：150

納戸から広間を見下ろす。広間に置かれたデイベットは工場で使用されていた鋼製棚を切断して再利用している。手摺りの安全対策は園芸ロープ編み込み。

住居の通り土間から南西側を見る。コンクリート造の壁を平面的に傾けて配置することで光や風、視線が抜ける。

広間から北東側を見る。開口部の一部は上下階を跨ぐ高さに配置されることで、住居全体に光と風の通り道が生まれる。

工場を住居とするための改修工事
現地調査とそれをもとにした構造解析により、鉄骨の既存建物は現行法規を満足する耐震性を有し、腐朽もほとんど生じていないことが分かった。そのため、増築部の設計においては、増築により既存部に生じる応力が増大しないよう、増築部のみで地震力などを負担できる構造とした。増築部の壁をコンクリート造としたことで、壁を少し平面的に傾けて配置するだけで既存の鉄骨造部分より地震時の変形が小さくなり、地震時に増築部に生じる水平力を既存部に伝達させずに水平方向の壁をなくすことができた。ロフト階床面は合板により面内剛性を確保した。根太の厚さを1.6mmの鋼管とすることで、ビスによる合板の留め付けを可能にし、また3.6mのスパンを100mmの小さい成とすることが可能となった。　(川田知典)

Earth Floor & Roofed Terrace
2棟を貫く通り土間

工場屋根:
既存折板屋根
グラスウール断熱材 t=105mm
ガルバリウム鋼板折板屋根 t=0.6mm
(二重折板断熱工法)

工場北側外壁:
ラワン合板 t=12mm
グラスウール断熱材 t=105mm
透湿防水シート
通気胴縁 18×45mm
ガルバリウム鋼板大波 t=0.6mm

納戸
天井:
既存折板屋根現し
壁:
既存金属サイディング現し
一部ラワン合板 t=12mm
床:
床組 100×100×1.6mm@455mm
ラワン合板 t=12mm + t=5.5mm2枚貼り

納戸

裏庭

洗面・浴室

寝室

サードプレイス

サードプレイス
屋根:
ポリカーボネイト折板屋根 t=1.5mm
壁:
既存のまま
床:
既存コンクリート土間

洗面・浴室
天井:
中空ポリカーボネート板 t=4mm
壁:
コンクリート打放し t=180mm疎水剤
床:
既存コンクリート土間
押出法ポリスチレンフォーム断熱材 t=100mm
土間コンクリート t=100mm(コンクリート埋設式温水床暖房)金ごて
FRP防水 2プライ(浴室のみ)

寝室・書斎・台所・通り土間
天井:
床組 100×100×1.6mm@455mm 現し
梁 H125×60×6×8mm
根太受け PL-4.5mm
壁:
コンクリート打放し t=180mm
床:
既存コンクリート土間
押出法ポリスチレンフォーム断熱材 t=100mm
土間コンクリート t=100mm(コンクリート埋設式温水床暖房)金ごて疎水剤

断面詳細図　縮尺1：50

配置図　縮尺1：2,000

敷地東側の竹林より見る。住居とサードプレイスは、光を拡散するポリカーボネート大波板で連結している。

住居の通り土間から南東側を見る。コンクリート造の壁以外の間仕切りはポリカーボネート扉やカーテンとし、通り土間と諸室を緩やかに繋げている。

新張の家
所在地／長野県
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供2人

設計
花岡徳秋建築設計事務所　担当／花岡徳秋　榎本啓太
構造　川田知典構造設計　担当／川田知典

施工
椿建築所　担当／佐藤慶一
基礎・コンクリート工事　英建工業　担当／酒井英幸
木工事　金子工務店　担当／金子重利
鉄骨工事　仁科鉄工所　担当／仁科英一
屋根・板金工事　大日方板金　担当／大日方英男
左官工事　吉川左官工業　担当／吉川徹
塗装工事　ヤマギシ工業　担当／戸谷修
外部建具工事　更埴トーヨー住器　担当／庭山悟
内部建具工事　塩入木工所　担当／塩入誠
給排水衛生設備工事　シバタ設備　担当／柴田心一
電気設備工事　北富士電工　担当／田原秀明
床暖房工事　クーシステムズ　担当／高橋則行
仮設足場工事　村松興業　担当／村松明由
FRP防水工事　五十鈴長野　担当／武田康雄
コーキング工事　小山シール　担当／小山和美
解体工事　美整社　担当／川瀬恵
クリーニング　和田クリーニング　担当／和田裕助
ステンレス棚工事　曽根ステンレス　担当／曽根清志
皮工事　レザーワークスジィーズ　担当／秋山善照

構造・構法
主体構造・構法　木造　鉄骨造（一部鉄筋コンクリート造）
基礎　布基礎

規模
階数　地上2階
軒高 4,355mm　最高高さ 4,655mm
敷地面積　732.21m²
建築面積　188.90m²
（建蔽率25.79％　許容60％）
延床面積　267.24m²
（容積率36.49％　許容180％）
1階　188.90m²　2階　78.34m²

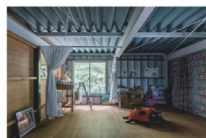
工程
設計期間　2017年10月～2019年1月
工事期間　2018年10月～2019年2月

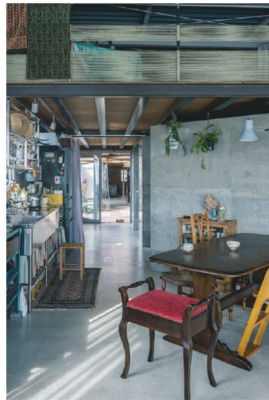
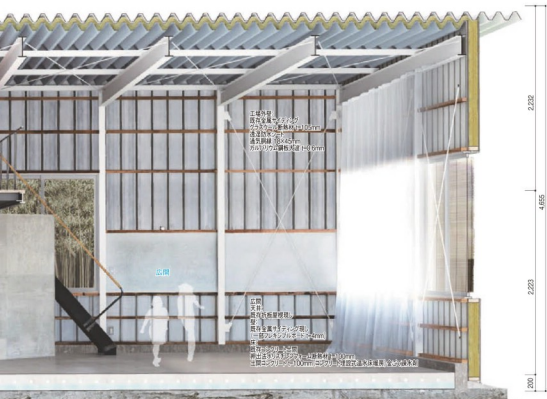
敷地条件
地域地区　指定なし
道路幅員　西3m　駐車台数　2台

外部仕上げ
屋根・外壁／ガルバリウム鋼板 t=0.6mm
開口部／ハイブリッド断熱サッシ
外構／既存

内部仕上げ
サードプレイス
床／既存土間コンクリート
壁・天井／既存現し（一部ポリカーボネート板）
デイベッド／既存工場鋼製棚仕立て直し
台所・通り土間
床／コンクリート金ごて疎水剤
壁／既存外壁現し（一部ラワン合板）
天井／上階床組現し
洗面・浴室
床／コンクリート金ごて疎水剤・一部FRP防水トップコート
壁／コンクリート打放しの上疎水剤
天井／中空ポリカーボネート板
書斎・寝室
床／コンクリート金ごて疎水剤
壁（書斎）／コンクリート打放し（一部既存外壁現し・一部ラワン合板）
壁（寝室）／コンクリート打放し（一部既存外壁現し）
天井／上階床組現し
広間
床／コンクリート金ごての上疎水剤
壁・天井／既存現し
デイベッド／既存工場鋼製棚仕立て直し
納戸
床／ラワン合板
壁／既存外壁現し（一部ラワン合板）
天井／既存屋根現し

設備システム
空調　暖房方式／コンクリート埋設式温水床暖房
冷房方式／なし
換気方式／第三種換気
給排水　給水方式／上水道直結方式
排水方式／下水道直結方式
給湯　給湯方式／灯油給湯器

撮影／新建築社写真部

納戸。

サードプレイス。

広間から通り土間を見通す。建物西側に面した通り土間の全長は約24m。

秋本邸

Akimoto House
愛知県名古屋市

榮家志保／EIKA studio
Shiho Eika ／ EIKA studio

中庭からキッチン・ダイニングを見る。敷地は果樹畑が点在する閑静な住宅街の一角に位置し、南北に高低差のある敷地の傾斜を建物内部に取りむことで、外部と内部を緩やかに繋げる。

リビングより西側を見る。1階床の900mmの高低差を斜面で繋ぐ。さまざまな高さの床や開口部を設けることで、建物の内外の距離感を操作する。リビングの床はカーペット敷き、キッチン・ダイニングの床はモルタル金ごて仕上げ。

北西側外観。建物全体をひとつの大屋根で覆うことで建物が一体的になり、水平力を各柱にバランス良く伝達する。外壁の仕上げはガルバリウム鋼板一文字葺き。

Earth Floor & Roofed Terrace

連続する傾斜により建物内外を繋ぐ

▽最高高さ=1FL+7,940=平均地盤面+7,991

△最高軒高=1FL+4,733
=平均地盤面+4,784

▽2FL=1FL+2,364

△2SL=1FL+2,300

▽寝室FL=1FL+1,464

△寝室SL=1FL+1,400

▽リビングFL=1FL+900

▽1FL=GL+70

△設計GL+0=KBM+1,500

▽KBM+0

3,207
2,378
8,040
900
564
900
70
1,500

屋根:
ガルバリウム鋼板一文字葺き
構造用合板 t=12mm
垂木 StC-60×30×10×2³mm@455mm
グラスウール

天井:
PB t=9.5mm×2
アクリル系砂壁状ローラー用塗材

ロフト

サンルーム

カウンター

プライベートリビング

収納

天井:
PB t=9.5mm×2
つや有りアクリル系樹脂塗料

軒天井:
珪酸カルシウム板 t=6mm×2
アクリル系砂壁状ローラー用塗材

床:
バーチフローリング t=15mm
構造用合板 t=24mm
キーストンプレート t=25mm

廊下

寝室

庭

リビング

天井:
PB t=9.5mm×2
つや有りアクリル系樹脂塗料

床:
カーペット敷き t=8mm
モルタル t=70~100mm
温水床暖房
ワイヤーメッシュ
スタイロフォーム t=30mm
防湿シート

キッチン・ダイニング

床:
撥水剤塗布
モルタル t=70mm 金ごて仕上げ
温水床暖房
ワイヤーメッシュ
スタイロフォーム t=30mm
防湿シート

中庭

軒天井:
珪酸カルシウム板 t=6mm×2
つや有りアクリル樹脂塗料

▽計画地盤面

駐車場

床:
表面強化剤塗布
コンクリート t=100mm ハケ引き

断面詳細図　縮尺1：80

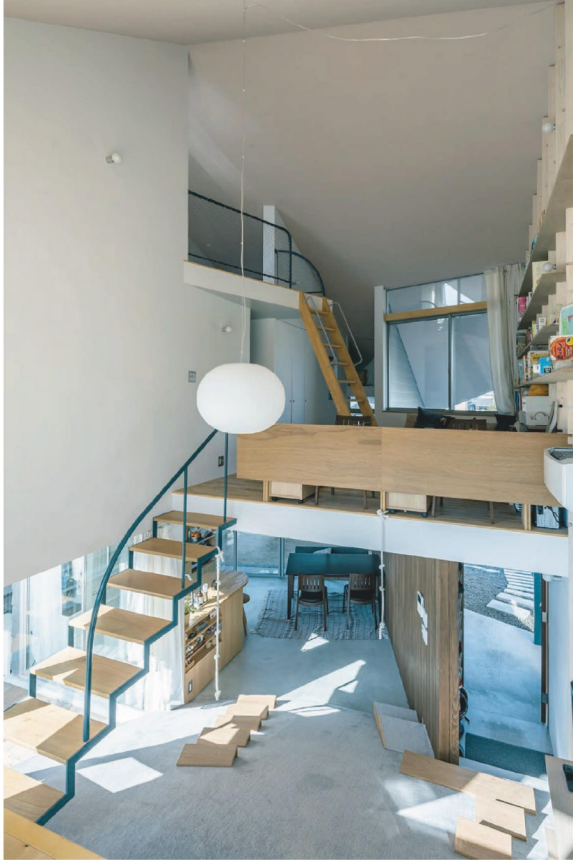
800 | 3,200 | 3,000 | 3,000 | 3,500
13,500

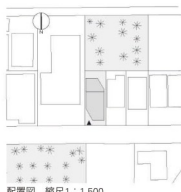
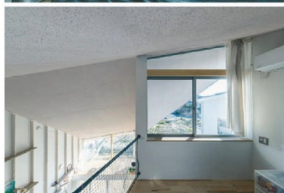
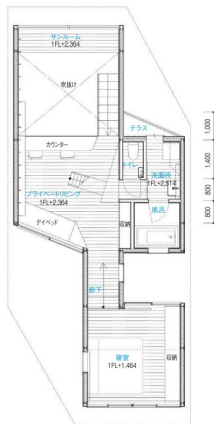
無限に広がる風景の結節点

私の姉夫婦と、その子供ふたりのための住宅である。敷地は、果物畑が虫食い状に点在する緩やかな傾斜が続く住宅地。風がよく通り、遠くに市街地が見える、敷地の境界を超えた拡がりを感じることができる場所である。その実感を引き継いだ住宅を目指し、暮らすことと、敷地やその周りの環境を体験することを同時に考えることから設計を出発した。

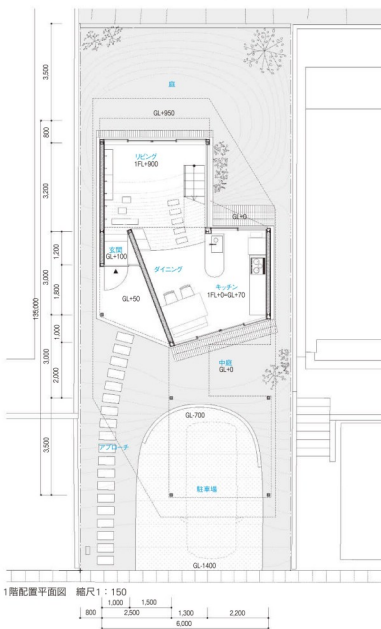
まず、この住宅に入る体験が外から連続的となるよう、地面の高低差を建築の内部を含めすべて斜面で繋げた。そうすると、地面に応答して歩む足の力のかかり方は変化し、目線は見上げたり見下ろしたりと動きが生まれる。それは街中の入り組んだ道や登山道のように、実際の距離よりずっと遠くに感じたり、広く感じたりさせる。

また、この住宅の開口部は、南北に絞って設けられている。窓は同じ方角に面しているが、高さや大きさ、視点を多様にすることで、風景との出会い方がそれぞれ異なってくる。リビングでは果物畑の木の下にいるように感じ、2階の勉強机では展望台のように果物畑の向こうまで見通せる。住宅を外から見ると、北側は傾斜の上に小屋が浮いているようであり、南側は地面に埋もれるようである。暮らしの中で、潜ったり、登ったりしながら南北に反復する動きをする。人は、地面に近づいたり離れたりしながら、その時々の風景を捕まえ、記憶の中に積み重ねる。

この住宅では、ひとつひとつの居場所と外との関係が、少しずつ伸びやかになるように、発見しながら設計を進めてきた。組み上がって建ち現れた住宅は、頭の中や身体を通じて風景の結節点となっている。住まう人それぞれの伸び縮みした空間が折り重なりながらまちに根を張りめぐらすような住宅である。　（榮家志保）

サンルームより北側を見る。リビングの斜面の頂上から2階へ上がる。2階のプライベートリビングの中央にはにロフトへのはしごを設け、はしごの奥の廊下から寝室へ向かう。

イメージスケッチ。開口から見える風景が暮らしの中で連続する。

配置図　縮尺1：1,500

左上：寝室。　左下：ロフト。天井面は、建物の内外共に凹凸のある薄いピンク色の塗装とし、場所や時間帯にによって光の色の差が現れる。

上：中庭より東側を見る。中庭を設けて建物内外をシームレスに繋げながら、床のレベル差により一定の距離感を確保している。　下：キッチンよりリビングを見る。

ロフト平面図

2階平面図

1階配置平面図　縮尺1：150

秋本邸
所在地／愛知県名古屋市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦+子供2人

設計
EIKA studio
担当／榮家志保
監修　大西麻貴+百田有希 / o+h
構造　小松宏年構造設計事務所
担当／小松宏年

施工
松原建築商事　担当／松原光信　朝倉尊司
鉄骨　東海鋼建　担当／只腰英二　金山啓介
グエン ティ キム フエ
設備　トオヤマ　担当／平川順二
電気　那須電気　担当／那須英夫　那須賢治
家具　寿々源　担当／鈴木秀明
カーテン　堤有希

構造・構法
主体構造・構法　鉄骨造
基礎　布基礎

規模
階数　地上2階
軒高 4,784mm　最高高さ 7,991mm
敷地面積　149.88m²
建築面積　65.68m²
（建蔽率43.83%　許容50%）
延床面積　92.16m²
（容積率61.49%　許容150%）
1階　48.55m²　2階　43.61m²

工程
設計期間　2017年11月～2019年3月
工事期間　2019年4月～11月

敷地条件
地域地区　第一種住居専用地域　防火指定
法22条地域　その他の条件　宅地造成法
絶対高さ制限10m
道路幅員　北6.5m　駐車台数　2台

外部仕上げ
屋根・外壁／ガルバリウム鋼板一文字葺き
開口部／アルミ製建具　木製建具
外構／モルタル金ごて仕上げ　コンクリート平板敷き　砂利敷き

内部仕上げ
キッチン　ダイニング
床／モルタル金ごて仕上げの上撥水材塗装
壁／杉板本実の上、木材保護塗料塗布 PB t=12.5mm AEP
天井／ PB t=9.5mm AEP
ダイニング照明／ Horn（NEW LIGHT POTTERY）

浴室
床／サーモタイル（LIXIL）
壁・天井／ FRP防水
バスタブ／ VR5251S（TOTO CERA）

リビング
床／カーペット敷き
壁／ PB t=12.5mm AEP
天井／ PB t=9.5mm ソフトロール塗装（エスケー化研）

プライベートリビング　ロフト　寝室
床／バーチフローリング
壁／ PB t=12.5mm AEP
天井／ PB t=9.5mm ソフトロール塗装（エスケー化研）

設備システム
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
換気方式／第三種換気
その他／ガス温水式床暖房
給排水　給水方式／上水道直結方式
排水方式／公共下水道放流方式
給湯　給湯方式／ガス給湯方式

撮影／新建築社写真部

南西側から果樹園越しに見る。

菊坂の家

House in Kikuzaka

東京都文京区

手嶋保建築事務所
Tamotsu Teshima
Architect and Associates

北側全景。菊坂（前面道路）と高低差のある南側の道とを繋ぐ外階段の2面で接道する。人通りの多い北側は壁を3層立ち上げ、建物のコーナーにはスリットや窓を設け、形態を崩すことでそのディテールが街並みに表情を与えている。

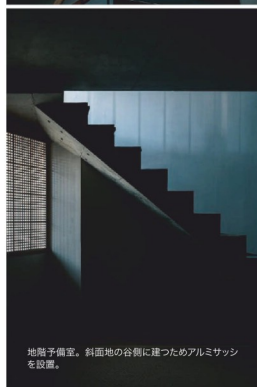
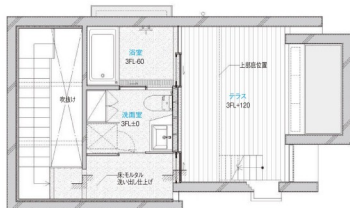
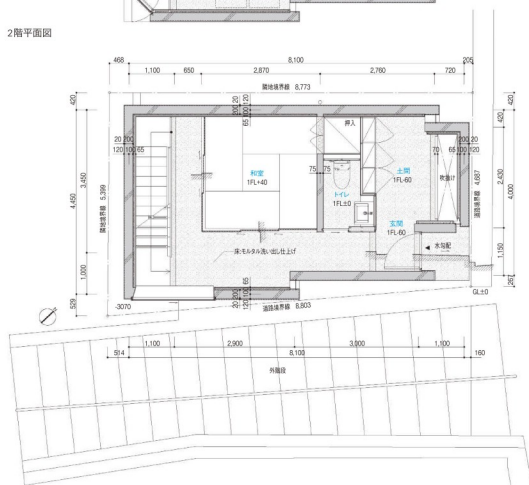
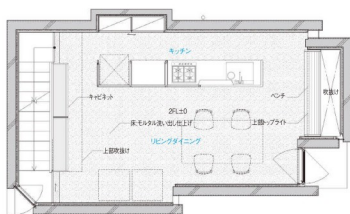
玄関から連続する土間から通りを見返す。スリットの幅は165mm。右手の外階段に開かれた開口部は人が腰掛け、外を眺めることが可能なように窓台を床から300mmとした。外付けスチールサッシは制作。枠を隠し框として内外部を滑らかに繋げている。

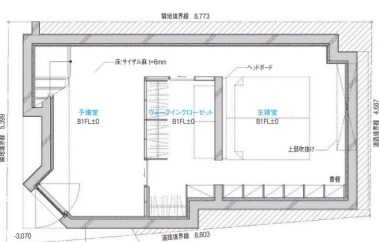
2階リビングダイニングキッチン。階段室上部のトップライトと左手の壁のスリットからの光が届く。キッチンや階段室横の収納は制作で、テーブルと椅子も設計者によるオリジナルデザイン。床はモルタル洗い出し仕上げ。コーナーの開口部には格子網戸を設置。天井高は2,600mm。

3階へ続く階段。段板はスチールプレート6mm曲げ加工とし、片側をRC壁からもち出している。手摺り子は丸鋼はφ＝12mm。すべて鉄部は黒皮のまま。

地階予備室。斜面地の谷側に建つためアルミサッシを設置。

地階主寝室。正面上部は4層吹抜け。

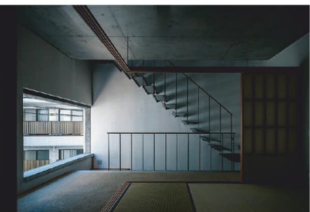
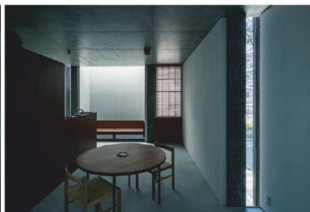
3階平面図

2階平面図

1階配置平面図

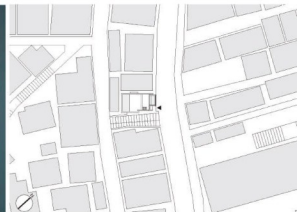
地階平面図
縮尺1：100

左：1階から2階へ続く階段。壁は漆喰塗装。　右：2階ダイニング回り。格子戸越しの開口と正面奥の吹抜け上部のトップライト、そして吹抜けに面するスリットが多様な光をもたらす。

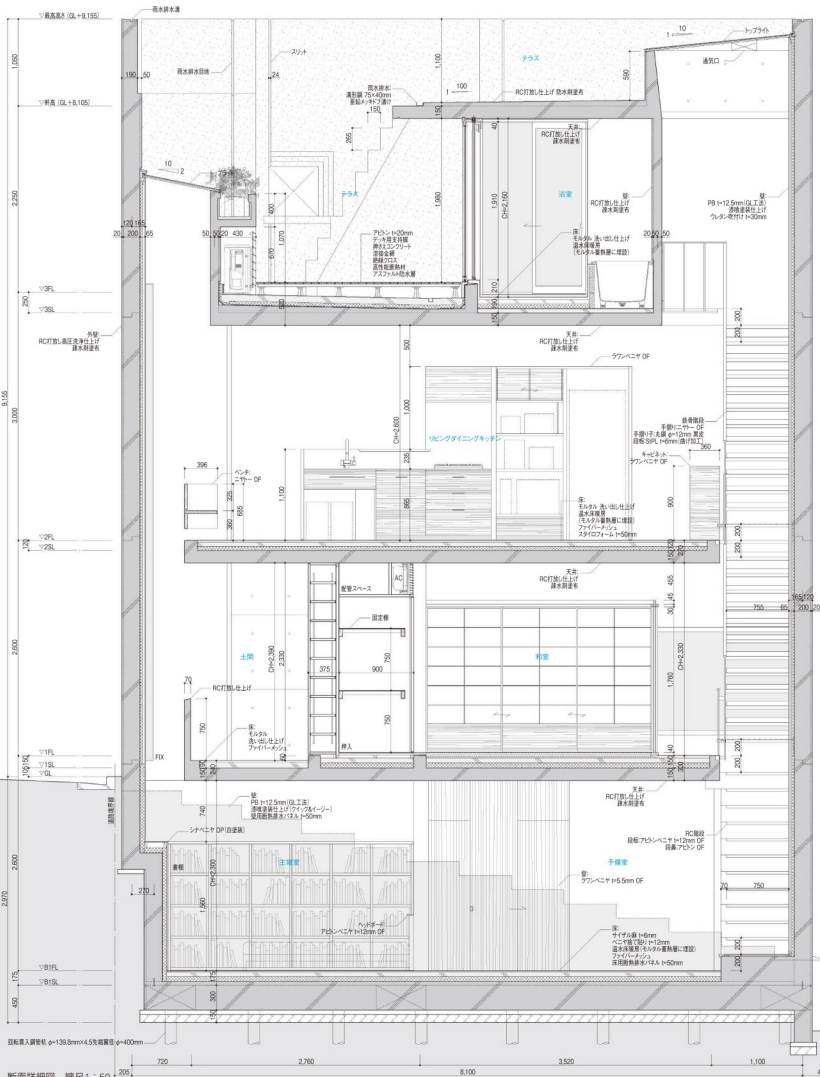
街に適応する佇まい

印象深い街や村の多くは、丘や傾斜地の上に築かれており、それらはおしなべて美しい。そこには「適応」という共通の制約が課せられるからだろう。

この家が面する通りは菊坂といい、本郷でも特に古い家並みが残る界隈だ。文京区に坂や崖が多いのは、5つの台地が入り組んだことに起因するが、往時は、錯綜する高低差を繋ぐことにより特徴のある街や景観が形成されていた。外階段に沿った傾斜地に建つ家のあり方として、街の景であり子供たちの遊び場でもあるこの外階段（街）との繋がりをもつイメージを建主と共有した。構造は、隣地との隙間を最小限として最大限の室内の確保に加え、防火地域などの法的対応もあり壁式鉄筋コンクリート造とした。内部を光豊かな空間とするため、ふたつの吹抜けから安定した天空光を取り込む。4層を貫き地階の寝室へ届く光は儚げであるが、それも多様な光に対する感性を育むものと考えた。また斜面地を利用して谷側の地階には開口が設けられるため、天窓をもつ吹抜けは建物全体の重力換気として有効である。3階には浴室やユーティリティを設け、開放的かつ周囲の視線から守られた水回りとした。さらにそこから屋上へと階段を昇れば、そこは街全体を見渡す場となる。街に面する建物のコーナーはスリットや窓を設けるなどして、形態を意図的に崩し、そのディテールが街並みへ表情を与えることを考えた。

（手嶋保）

左：1階和室。障子を開けると開口部から外階段、南側の道へと視線が抜ける。　右：2階リビングダイニングキッチン。

配置図　縮尺1：1,000

Earth Floor & Roofed Terrace

4層を貫く光を柔らげ拡散する土間と壁

断面詳細図　縮尺1：50

菊坂の家
所在地／東京都文京区
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供2人

設計
手嶋保建築事務所　担当／手嶋保　日野顕一
構造　KMC　担当／蒲池健
施工
大日建設　担当／岡本和彦
設備　ネギシ　担当／田中昌幸
電気　成澤電気　担当／成澤佳之
型枠　戸倉建設　担当／安藤政司　林繁夫
塗装　護守塗装店　担当／護守一博
格子網戸　高橋建具制作所　担当／高橋孝一
家具　エレメント・ウッド・ワークス
　担当／土田耕一
　加藤木工　担当／加藤宜之
鉄骨階段　多磨制作所　担当／宗田徹
鋼製建具　SUSPRO　担当／大谷計
左官　水土グループ　担当／小沼充
構造・構法
主体構造・構法　壁式鉄筋コンクリート造
基礎　杭基礎
規模
階数　地下1階　地上3階
軒高 8,105mm　最高高さ 9,155mm
敷地面積　44.22m^2
建築面積　57.78m^2
（建蔽率74.97%　許容100%）
延床面積　108.30m^2
（容積率244.92%　許容400%）
地階　31.67m^2　1階　30.89m^2
2階　30.89m^2　3階　14.85m^2
工程
設計期間　2016年7月～2018年2月
工事期間　2018年3月～2019年4月
敷地条件
地域地区　近隣商業地域　防火地域
道路幅員 北7.2m　東（階段）4.0m
外部仕上げ
屋根／鉄筋コンクリート打放し仕上げ 防水剤塗布
外壁／鉄筋コンクリート打放し高圧洗浄仕上げ 疎水剤塗布
開口部／木製建具　スチールサッシ　アルミサッシ
外構／砕石敷き
内部仕上げ
リビング　ダイニング　キッチン
床／モルタル洗い出し仕上げ　温水床暖房
壁／ PB t=12.5mm（GL工法）漆喰塗装仕上げ（クイック&イージー）
天井／鉄筋コンクリート打放し仕上げ
厨房機器／
　食洗器／ ASKO D5536
　ガスコンロ／リンナイ RD640STS
　換気扇(シェード) ／制作 SUS t=0.8mm
　家具／ラワンベニヤ OF
　照明／モデュラー Mini multiple trimless
　シンク水栓金物／日本トリム TRIM ION GRACIA
浴室
床／モルタル洗い出し仕上げ 温水床暖房
壁・天井／鉄筋コンクリート打放し仕上げ 疎水剤塗布
照明／ヤマギワ B4164S
建築金物／中西産業
バスタブ／大和重工 CIE 1475
シャワー水栓金物／ HANSGROHE
バス乾燥機／三菱電機 V-241BK-RN
トイレ　洗面所
床／モルタル洗い出し仕上げ 温水床暖房
壁／鉄筋コンクリート打放し仕上げ 疎水剤塗布
天井／鉄筋コンクリート打放し仕上げ
家具／ラワンベニヤ OF
照明／制作
建築金物／堀商店
便器／ TOTO ネオレストDH
洗面カウンター／ Tform ADF70-00
洗面用水栓金物／ HANSGROHE 34010000
主寝室
床／サイザル麻 t=6mm
壁／ PB t=12.5mm クイック&イージー塗布（Planet Japan）
天井／鉄筋コンクリート打放し仕上げ
家具／ラワンベニヤ オイルフィニッシュ
照明／制作
設備システム
空調　　暖房方式／ヒートポンプ式温水床暖房
　　　　冷房方式／ヒートポンプ式エアコン
　　　　換気方式／第三種換気方式
給排水　給水方式／直結式
　　　　排水方式／下水道放流
給湯　　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部

1階開口部回りの近景。外壁はRC打放し高圧洗浄仕上げ。

外階段下から見る夜景。

屋上から3階のテラス越しに前面道路を見下ろす。左手植栽横のトップライトからの光が4層に渡って光を届ける。

SHIRASU／桜島

SHIRASU ／ Sakurajima
鹿児島県鹿児島市

鈴木亜生／ ASEI建築設計事務所
Asei Suzuki ／ ASEI ARCHITECTS

南側外観。敷地は鹿児島市の郊外にあり、高台から桜島を見渡せる。南九州一体に堆積する火山灰の「シラス」を素材とした「シラスブロック」を開発し、構造材として使用。機能を分散して組積造による4つの棟を立ち上げランダムに配置し、隙間を開口部として通風と光を確保し、内外を繋ぐ。

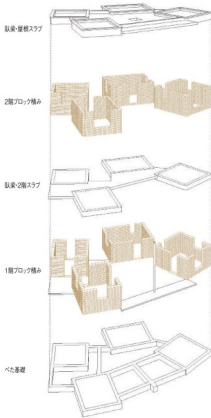
2階廊下。4つの棟は外壁と同様に奄美赤土をモルタルに混ぜた左官を櫛引で仕上げている。スラブは鉄筋コンクリート造とし、各階ブロック天端に回した鉄筋コンクリートの臥梁と一体化させることでコア同士を繋ぎ、水平剛性を確保している。

4つの棟に囲まれたリビングダイニング。正面はゲストルーム。シラスブロックは大きさL300×D300×H90mmで、室内側には仕上げである奄美赤土の層30mmが表出し、構造と仕上げが一体となった2重構造となっている。壁厚は300mmで、断熱材がなくても2013年省エネ基準の鹿児島市地域区分7地域の躯体熱貫流率・壁基準値0.86以上の躯体の断熱性能を保持している。熱容量は約1,600KJ/m^3・℃。

Earth Floor & Roofed Terrace

シラスブロックでつくる組積造

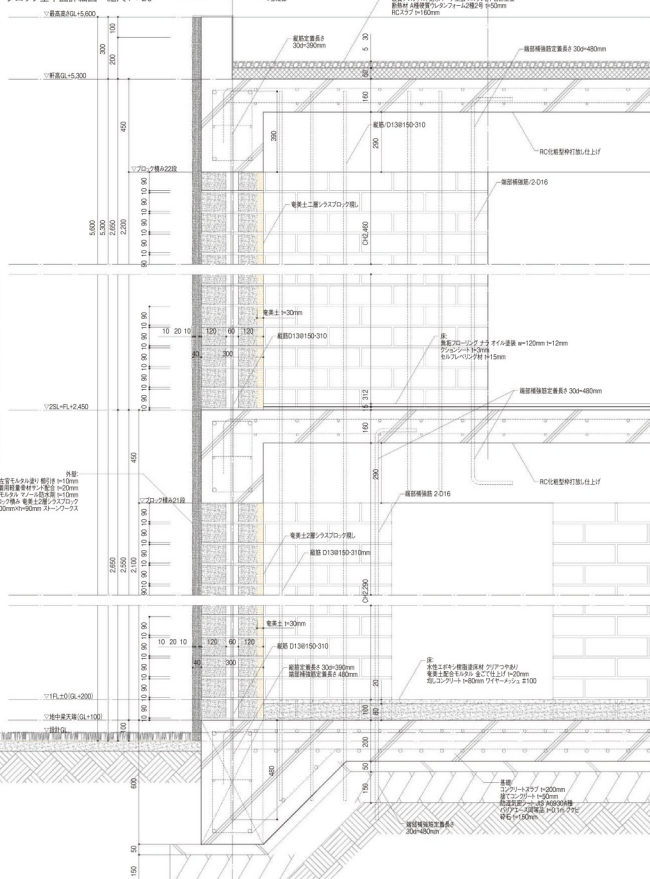
構造ダイアグラム

ブロック壁平面詳細図　縮尺1：20

4つのコアを繋ぐRCの臥梁とスラブ

1，2階共にシラスブロックの4つの口の字のコア部分が鉛直力および水平力を負担する。各階のブロック天端にはRC造の臥梁をまわす。スラブもRCスラブとし、臥梁と一体化させることでコア同士を繋ぎ、水平剛性を確保している。ブロックには貫通孔を設けて縦筋を通し、壁の面外曲げに利かせる。壁端部にも縦筋を通し、面内曲げに利かせている。許容応力度設計を行うために、圧縮試験にてシラスブロックの圧縮強度（ブロック単体で33.4N/mm^2、縦3段のユニットで20.0N/mm^2）を確認した。平成15年告示462号に従い、圧縮強度を元に許容圧縮・せん断応力度を求めた。壁の解析には面外曲げ剛性は0として応力計算を行った。（森部康司　須藤崇）

ブロック壁断面詳細図　縮尺1：20

キッズルーム
ワードローブ
廊下
マスターベッドルーム
吹抜け
バルコニー
脱衣室
トイレ
バスルーム

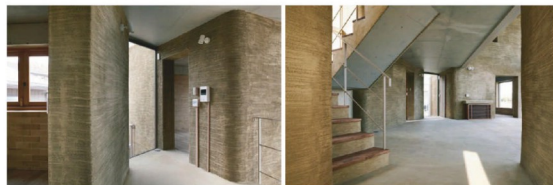
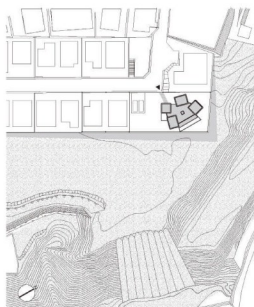
2階平面図

1階配置平面図　縮尺1：150

地域性からの構造

現代の建築設計は、意匠・構造・設備という分類が確立されている。環境配慮が求められる昨今は、意匠・設備では地域性を見直すさまざまな試みが増えているが、構造では木造以外は地域性から切り離された合理性に基づいて計画されることが多い。しかし、モダニズム以前は構造こそ地域性から立ち現れる環境建築そのものではなかっただろうか。

敷地は桜島を一望できる高台の住宅地にある。建主からは驚いたことに、世界遺産でもある乾燥地帯の集落「タオス・プエブロ」のような土を使ったサステナブルな住宅を建てたいと依頼された。多雨多湿の鹿児島ではアドビ煉瓦の使用は難しいが、鹿児島には姶良カルデラ一帯に広がるシラスという未利用な地下資源の土がある。その土地の土による結晶体のような棲み家には、原始的でありながら現代的な可能性を感じた。そこで私たちはシラスを活用したブロックをはじめて構造体にした組積造の住宅を計画した。

規模に制限のある組積造を部屋単位で分けて小さな棟を立ち上げ、さまざまな余白を生むように配置した。その余白はシラスブロックによる熱特性により、夏は風を通し冬は熱を蓄え、快適な温熱環境をもつバッファーゾーンとなり、明るい屋外のような空間をつくり出す。シラスブロックの構造により調和された温熱環境が生活と環境との連動を生み、内外を越えて繋がり、開放的で大らかな暮らしが現れるだろう。地域資源を意匠・構造・設備の機能に統合した「地域性からの構造」のあり方を模索している。

（鈴木亜生）

左：2階廊下。左手前はキッズルーム、右奥はマスターベッドルーム。　右：エントランス横からリビングダイニングを見る。

配置図　縮尺1：2,000

階段から踊り場越しに前庭を見返す。

規模

階数　地上2階
軒高 5,300mm　最高高さ 5,600mm
敷地面積　489.22m^2
建築面積　122.28m^2
（建蔽率24.99%　許容50%）
延床面積　202.88m^2
（容積率41.47%　許容80%）
1階　113.88m^2　2階　89.00m^2

工程

設計期間　2015年10月～2017年5月
工事期間　2017年7月～2019年2月

敷地条件

地域地区　法第22条区域　第一種低層住居専用地域
道路幅員　西6m　　駐車台数　2台

外部仕上げ

屋根／改質アスファルト防水（日新工業）
外壁／シラスブロック積み t=300mm（ストーンワークス）防水モルタル 奄美赤土配合左官仕上げ t=30mm
開口部／ビル用アルミサッシ（YKK AP）
外構／テラス：土間コンクリート　エントランスアプローチ：シラスブロック敷き

内部仕上げ

キッチン

床／奄美土配合土間コンクリート 防塵塗装クリア
壁／シラスブロック積み現し
天井／コンクリートスラブ現し
厨房機器／
食洗器／ AEG F99705VI1P
ガスコンロ／マルゼン RGR-1265XC
換気扇／ VD-23ZV3×3連（三菱電機）
シェード／ステンレス制作
家具／ラワン合板 t=24mm OSCL
照明／薄型直付けダウンライト（コイズミ照明）
シンク水栓金物／ CERA KW0261002

浴室

床／ウレタン塗膜防水　奄美土配合モルタル仕上げ
壁／シラスブロック積み現し 撥水剤塗布
天井／コンクリートスラブ現し
照明／薄型直付けダウンライト
バスタブ／ウレタン塗膜防水 モルタル仕上げヒノキスノコ敷き
シャワー水栓金物／ Tform FHT73-3034
浴室暖房乾燥機／リンナイ RBH-W414K

トイレ　脱衣室

床／奄美土配合モルタル仕上げ 防塵塗装
壁／シラスブロック積み現し
天井／コンクリートスラブ現し
家具／ラワン合板 t=24mm コンクリート打放し UC塗装
洗面用水栓金物／ LIXIL LF-E345SYC

エントランス。

SHIRASU ／桜島

所在地／鹿児島県鹿児島市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供

設計

ASEI建築設計事務所　担当／鈴木亜生
構造　yAt構造設計事務所　担当／森部康司　須藤崇
設備・電気　アート総合設計宮崎事務所　担当／吉ノ薗和彦
ブロック製造開発協力　ストーンワークス　担当／上中誠
ブロック試験体制作協力　高山煉瓦建築デザイン　担当／高山登志彦
ブロック材料実験協力　鹿児島工業技術センター　担当／袖山研　プリンシプル　担当／東和朗

施工

ジーテック　担当／三島竜二　橋本誠
基礎　郷土開発　担当／谷元正一
組積　堀陶石　担当／上堀内精一
防水　鹿児島防水　担当／廻俊維
サッシ　システムタテヤマ　担当／玉利泉
建具・家具　南日本ホールディングス　担当／松元達朗
給排水　鹿工設備　担当／佐藤俊一
空調　サツマ酸素工業　担当／福元和彦
電気　日電　担当／原田里民
床暖房　サンウエルス　担当／池田宣章

構造・構法

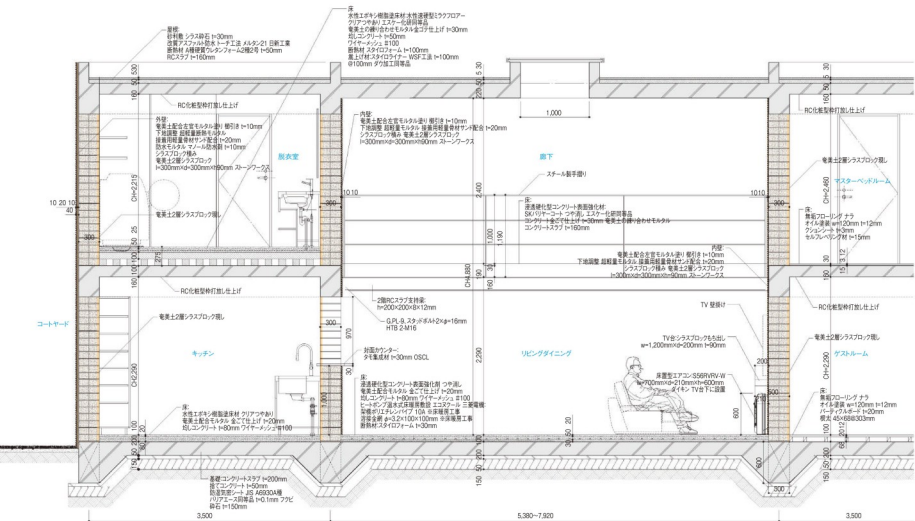
主体構造・構法　組積造
基礎　べた基礎

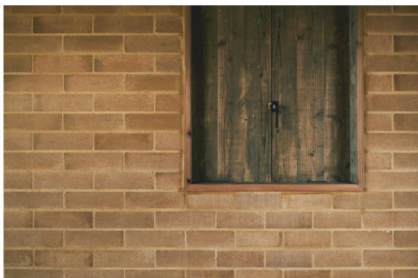
リビング　ダイニング
床／奄美土配合土間コンクリート 防塵塗装クリア
壁／シラスブロック積み　奄美赤土配合左官仕上げ t=20mm
天井／コンクリートスラブ現し
家具／ラワン合板 t=24mm OSCL
照明／スポットライト（コイズミ照明）
建具／足場再利用木製アウトセット引戸
エントランス　ゲストルーム　SOHO
マスターベッドルーム　キッズルーム
床／ナラ無垢フローリング（KODAMA）
壁／シラスブロック積み現し
天井／コンクリートスラブ現し
家具／ラワン合板 t=24mm OSCL
照明／薄型直付けダウンライト（コイズミ照明）
建具／足場再利用木製アウトセット引戸
ステンドグラス引戸・ペンダント／制作：ホワイトギャラリー 担当／三坂基文

設備システム

空調　冷暖房方式／床置きエアコン
　　　壁掛けエアコン
　　　換気方式／第三種換気
　　　床暖房／ガス温水式床暖房
　　　（三菱電機）
給排水　給水方式／直結給水
　　　排水方式／下水道放流
給湯　給湯方式／ガス給湯

撮影／阿野太一

東から高台に建つ「SHIRASU ／桜島」を見上げる。

部分断面詳細図　縮尺1：60

バスルーム。壁はシラスブロック積み現し。開口部はまぐさを兼ねるよう臥梁下端まで開けている。
マスターベッドルームの壁面の近景。

特集論考2

クリエイティブ・リソース

資源循環のための仕組みづくりへ

鈴木亜生（建築家）

建築家の資源循環における新たな役割

今日の世界規模で抱えている環境保全の問題に、建築家はどう関わっていくことができるか。省エネ・断熱も重要だが、建築をつくるマテリアルフローの影で建設産業は多くの廃材を生み出している。しかし、建築家は都合のよい材料を選択するに留まっている。環境を未来に繋げる建築家の新たな役割として、建築生産の上流まで遡って資源循環の仕組みの一例をつくり、社会に新しい道筋を照らし出すことができれば、より建設のサステナビリティを高めていけるはずである。そこで私は、さまざまな地域で未利用なまま活用されない資源の価値を見出し、地域の技術を利用して新たな材料の開発に取り組んできた。そして構法・構造の再編まで含めた環境建築を通して資源循環の仕組みをつくる活動を続けている。資源の循環は新たな地域ビジネスに繋がり、地域の新たな繋がりを生む媒体にも成り得る。新たな建築を生み出す可能性もある。これが私の目指す「クリエイティブ・リソース」である。

代替資源としてのシラスへの取り組み

最初に着目した資源は、南九州一帯に広く埋蔵しているシラスであった。20世紀に普遍化されたコンクリートは、実は骨材資源の問題を抱えている。日本のコンクリート用骨材は、バブルが崩壊した1990年をピークに減少を続け、現在では天然骨材の供給量は約1/3まで減少している。これまで大量搾取されてきた川砂利・陸砂利・山砂利・海砂利などの天然骨材資源が全国的に枯渇化したためである。環境破壊の問題からも採取を禁止する自治体も増え、10年以内には今後の骨材の安定供給が危ぶまれる状況である。再生骨材の利用も進むが、砕く際のCO_2の増大は否めず、サステナブルな骨材とはなり得ていない。そこで、鹿児島に眠っているシラスを骨材代替資源として資源循環を興すため、シラスの特性を生かした環境建築の可能性を追求している。

「SHIRASU」。この建築のために開発されたシラスブロックを積層している。耐火性、断熱性、調湿性、蓄熱性、軽量などの利点が生かされている。

「SHIRASU」（本誌1606）では、シラスとセメントを混ぜ、200tのプレス機で高圧縮しシラス自体に含まれる水分をにじみ出させ、シラスとセメントを密着硬化させるゼロスランプ加圧成型法という技術によってシラスブロックを開発し、はじめて建築に活用した。外周全体を中空層2重壁にして夏はひんやり涼しく冬は暖かく、年間を通して安定した温熱環境を実現した。

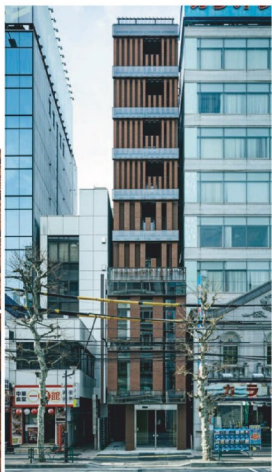
資源から構造へ

今回の「SHIRASU/桜島」（78頁）では、シラスブロックを構造材として生かした現代における組積造の可能性を追求した。もっとも大きな障壁は、過去の地震被害をベースにした「組積造は地震により崩れやすい」という誤解であった。組積造は、現在も建築基準法内に構造の一形式として規定されているが、コンクリート造や鉄骨造、木造に比べればわずか数ページの記載しかない。協議を進めた都内大手の民間検査機関でさえ、組積造の物件ははじめてであった。しかし、阪神淡路大震災の地震や東日本大震災の津波の中でも組積造の蔵や家の多くは崩壊を免れていた。組積造は剛な構造体であり、短周期構造物に分類される。地盤と建物の地震応答に対する動的相互作用があり、応答量が低減される逸散減衰効果を見込めると言われている。*1 この動的相互作用を活かし変形性能を抑えさえすれば組積造の価値は見直されるべきであろう。

シラスブロックの製造から組積の過程

1：シラスブロックを製造する加圧成型プレス機。　2：シラスと奄美赤土の配合や粒度を変えて、さまざまな表情のサンプルを製造した。　3：各ブロックに通筋を通して補強しながら積んでいく。
4：職人が1段ずつ積み上げていく。　5：1階の組積が完了。室内側に仕上げが施された奄美赤土の表情が見える。

本頁撮影：長谷川健太

「高田馬場ビル」（2020年）。6m弱の間口に建つ、10階建てのテナントビル。左2点：建設発生土である関東ロームと粘土を配合して「関東ローム煉瓦」を開発製造。　右：ファサードに関東ローム煉瓦を使用。早稲田通りの街並み景観に寄与する。

構造から環境へ

また、シラスブロックを構造材にした理由には、単に構造の安定性だけでなく、その物性を活かした温熱環境の安定性への期待もあった。シラスブロックは、コンクリートの約1/5、日干し煉瓦の約1/2の熱伝導率で、300mmの壁厚の間で断熱材がなくても高い断熱性能を保持している。さらに、シラスブロックは熱容量が断熱材の約80倍もあり、土の蓄熱性が内部の温熱環境を調整する大きな効果がある。この物性を活かすため、閉鎖的で熱容量の大きい居室棟の4棟で開放的な熱容量の小さい共用部を包み込む構成とし、リビングは桜島からの日射と風を取り込むバッファーゾーンとしている。リビングから各棟躯体への熱伝導のタイムラグ（熱の移動と人の移動の時間経過）が生活時間帯に合わせた効率的な温熱環境をつくる。この時構造としての土の厚さは、環境の側面からは空間を切り離すものではなく、熱を繋げるという効果に替わる。

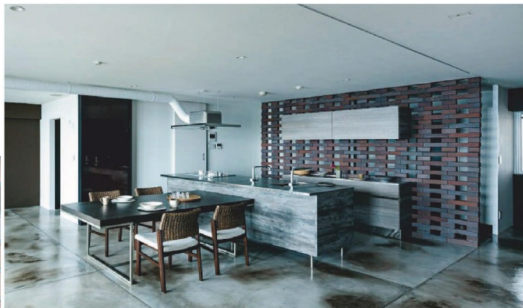
建設発生土としての関東ロームへの取組み

今、着目している資源は、関東地方全域に広がる「関東ローム」である。関東近郊の建設工事で地盤を掘削すれば、必ず出てくる関東ロームは、建設発生土でもある。国土交通省によると、建設工事現場から場外に搬出された建設発生土の量は年間で1億4,079万m³、そのうちの36％は工事間利用されている。しかし、残りの64％は土木工事での内陸受入地へ搬出され再利用されず、その一部は放置されるなど不適正に処理され、自然環境や生活環境に大きな影響を及ぼしている。そこで、再利用できていない建設発生土を用いて新しい建築材料をつくり、資源循環の仕組みをつくり出すことを目指している。関東ロームは、シラスと違い粘土質のため、コンクリートと同等に蓄熱性が高く、多孔質構造のため吸放湿性が高い特性をもっている。数年前からシラスブロックと同じ加圧成型技術を使ったブロックや、また別の製造業者との協働で関東ロームの煉瓦の開発を進めている。その最初として、今年2月に竣工した三浦海岸のマンションのリノベーションでの間仕切壁や高田馬場ビルのファサードに活かした。

仕組みの中にある環境組織体としての建築

こうした新しい素材による建築は、奇をてらった特殊解に見えてしまうかもしれないが、その背後にある資源循環を生む仕組みが軌道に乗れば一般解と成り得る。そしてこうした仕組みづくりの中にある環境組織体のような建築にこそ、人間の居場所があると考えている。環境建築とは、建築の内側で人間だけに快適な環境を担保すること以上に、建築の外側にある環境との連関の中に見出されるものではないだろうか。環境と共存するには人間の快適さの基準も変わらなければいけない時代になっている。建築が環境の一部であるならば、人は建築に頼りすぎてもいけないし、建築が人に媚びてもいけない。むしろ寄り添うように一緒に生きていくことに歓びを感じられるようでありたい。ただ、このような地域の未利用資源と向き合って建築をつくっていくには、大変な時間と労力を要することになる。しかし仕組みづくりに完成はなく、継続し続けなくてはならない。

＊1　建築討論：030|201904|　特集：組積造の可能性―組積造の思想と技術は現代に生かせるか？　「耐震から考える組積造の可能性」（花里利一）

関東ローム煉瓦を透かしながら積み上げた間仕切り壁の近景。

「三浦海岸のマンションのリノベーション」（2020年）。多孔質に仕上げた関東ローム煉瓦が、海からの風を取り込みつつ、塩害・結露を抑制する。床は関東ロームの粉末を振りまいた土間モルタル仕上げ。

特集：土間・縁側

3本の路地の奥のシェア住居

Shared House in Back of Three Alleys

京都府京都市

魚谷繁礼建築研究所
池井健建築設計事務所
Shigenori Uoya Architects and Associates
＋IKEI Takeshi Architects

2階バルコニーから裏庭方向を見る。3本の路地からアクセスできる旗竿敷地に建つ8室からなるシェアハウス。各室がそれぞれ玄関をもち、外から直接出入りできる。共有空間へは一度各室を介してアクセスする。

裏庭からキッチン方向を見る。中心の裏庭は、最高高さ約8mの大きな空間で、三和土のリビング、スギ板張りのキッチンが配される。網入りガラスの天井から光が差し込む。

バルコニー前から見る。4隅に配された2室を重ねたヴォリュームは、耐震壁としての役割を果たし、屋根を支えるツリー架構から荷重を受ける。個室の裏庭側は金属サイディング張り。

左：洗濯室から裏庭を見る。
中：室4から裏庭を見る。各室には洗面が設置されている。個室の天井高は1階が2,400mm、2階が2,707mm。
右：バルコニーから隣地の畑を望む。

Earth Floor & Roofed Terrace

個室を介して繋がる大きな気積

▽最高の高さ
▽軒高
▽裏庭側サイディング天端
▽2FL
▽1FL
▽設計GL

8,089
7,961
3,000
2,920
80

母屋現し 着色塗装
240
120

天井:
垂木回り下地組 珪酸カルシウム板 t=6mm EP

ツリー架構:枝120mm角 クリアオイル塗装

ツリー架構:
主幹150mm角
クリアオイル塗装

梁下レベルに構造用合板 t=12mm

天井:
グラスウール敷込み PB t=9.5mm
珪藻土クロス

700

棚板:ゴム集成材 t=40mm 着色塗装

カーテンレール埋込み

ハンガーパイプ φ=32mm

外壁:
金属サイディング張り(SFビレクト白／アイジー)
通気胴縁 t=15mm
透湿防水シート
構造用合板 t=9mm
柱間 グラスウール t=120mm
ポリエチレンフィルム t=0.2mm
※野地板まで外壁を立ち上げる

室5
2,707
1,900

壁:
構造用合板 t=12mm
PB t=12.5mm 珪藻土クロス

床:
構造用合板 t=24mm スギ板張り
一部ビニルタイル張り

517

珪藻土クロス貼り
PB t=9.5mm

棚板:
ゴム集成材 t=40mm 着色塗装

カーテンレール埋込み

ハンガーパイプ φ=32mm

珪藻土クロス貼り
PB t=12.5mm
胴縁 t=27mm
構造用合板 t=9mm

室1
2,400

床:
構造用合板 t=24mm スギ板張り
一部ビニルタイル貼り
プラ木レン @910mm
基礎スラブ グラスウール敷込み

1,000 | 1,000 | 1,500 | 1,000 | 1,000
3,500

断面詳細図　縮尺1：50

路地―住戸―裏庭―住戸―路地

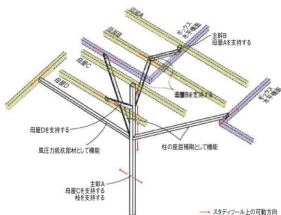
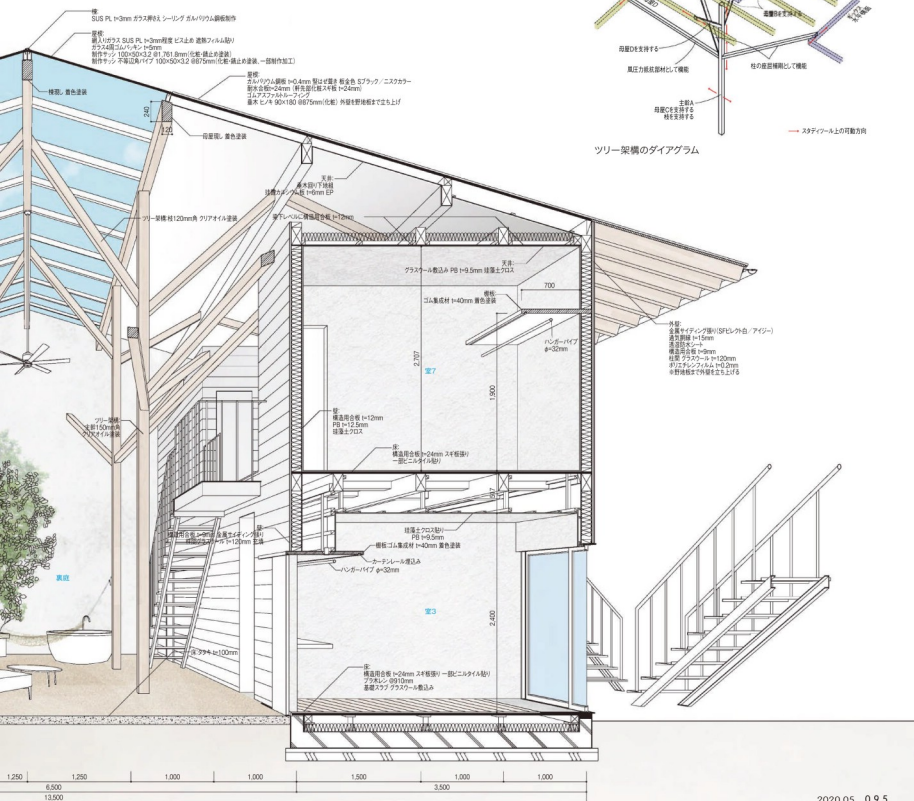
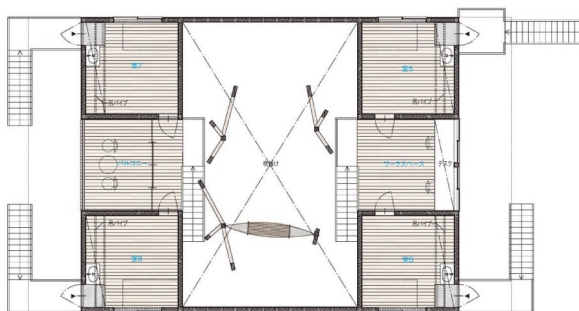
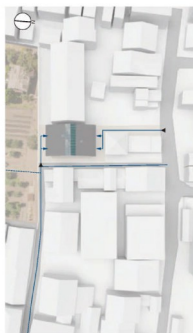
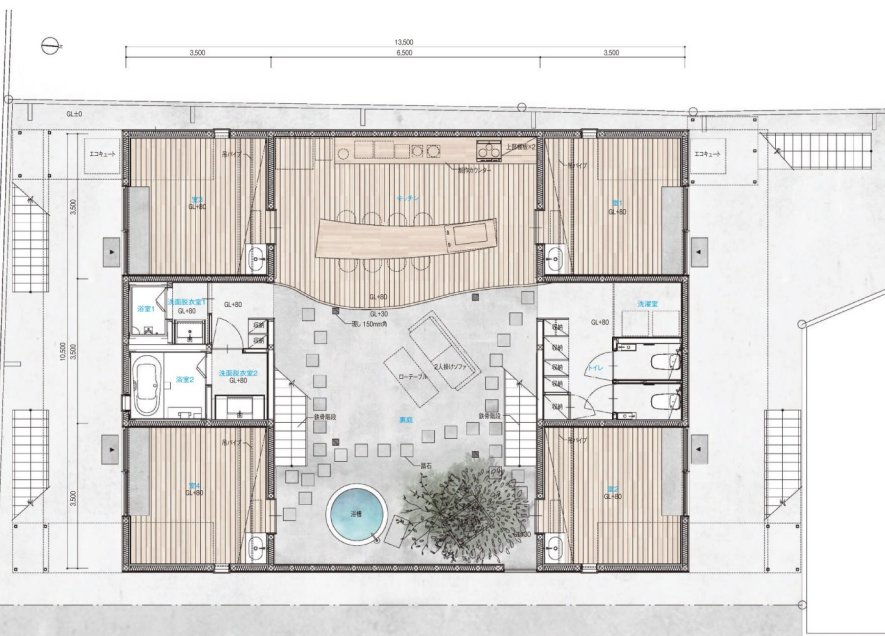
京都市右京区の旗竿敷地に建てられた、8室からなる女性専用のシェアハウス。北側（道路側）には小規模な寺院伽藍があり、その反対の南側には畑が広がる。建物のヴォリュームは、東西に隣接する建物とスケールを合わせつつ、寺院の伽藍配置を意識して計画した。建物へは、敷地の竿にあたる部分に加えて、周囲の2本の路地からもアプローチできる。居住者はそれぞれが都合のいい路地を通って、まず自分の部屋に帰宅する。そこから共用の裏庭や水回り、ワークスペース、バルコニーへアクセスする。

裏庭は、限られた予算の中でなるべく大きな気積を取るべく計画した。ほとんど屋外空間に屋根が架かっただけの設えである。基礎にかかるコストを抑えるために、ツリー状の柱を採用して柱梁の量を少なくした。裏庭を中心に東西方向、南北方向どちらともに線対称となるような平面形式を採用しているが、ツリー状の柱がこの空間に非均質性をもたらす。この裏庭にはキッチンやダイニングテーブル、ソファー、テレビ、浴槽などが設置されている。現在、裏庭にはハンモックが架けられ、そこここに洗濯物が干され、リビングというよりも裏庭らしい生活が繰り広げられている。（魚谷繁礼）

制約のデザインによる自由な架構

構造と施工の合理性は、意匠的には制約ととらえられてしまうことがあるが、手がかりのない状態で形を決めていくのも難しい。今回は、自然さが求められるツリー架構を、意匠、構造、施工共に、円滑にかつ確信をもちながら形状決定をしていける環境づくりに取り組んだ。

耐震性は、四隅にバランスよく耐震コアを配置することにより確保したうえで、大きなアトリウムの壁と屋根を小規模木造の部材寸法で成立させるためにツリー架構の設計を行った。

まずは、大局的な構造計画を行い、施工性も考慮して柱の本数、枝の数、枝の接続関係、仮定断面を決定し、ツリー架構の構造システムを構築した。次に、応力解析をリアルタイムに行える形状スタディツールを開発し、このツール上で意匠設計者が部材の安全率と部材の取り合い条件を確認しながら自由に形状を変化させる。こうして決定された形状データを、全体の解析モデルや設計図、施工の加工図へと変換して利用した。合理性を失わず自由な架構を獲得するための、制約のデザインである。（柳室純）

ツリー架構のダイアグラム

2階平面図　縮尺1：150

配置図　縮尺1：1,500

1階配置平面図　縮尺1：100

北西側俯瞰。

3本の路地の奥のシェア住居

所在地／京都府京都市
主要用途／シェアハウス
家族構成／ 8室

設計

魚谷繁礼建築研究所
　担当／魚谷繁礼
池井健建築設計事務所
　担当／池井健　奥村賢人
構造　柳室純構造設計　担当／柳室純
　林和希（設計協力）
企画　フラットエージェンシー
　担当／小島秀利

施工

株式会社　アムザ工務店　担当／東寛隆

構造・構法

主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

規模

階数　地上2階
軒高 7,961mm　最高高さ 8,089mm
敷地面積　307.77m^2
建築面積　173.65m^2
（建蔽率56.69％　許容60％）
延床面積　215.49m^2
（容積率70.01％　許容200％）
1階　141.75m^2　2階　73.74m^2

工程

設計期間　2018年3～9月
工事期間　2018年9月～2019年4月

敷地条件

地域地区　準工業地域　準防火地域
　20m第三種高度地区　町並み型建造物修景地区
道路幅員　北5.31m　東3.20m

外部仕上げ

屋根／カラーガルバリウム 竪はぜ葺き
外壁／金属サイディング張り アイジー工業
　SF-ビレクト Fネオホワイト
開口部／制作鋼製建具　既製アルミサッシ
外構／土間コンクリート

内部仕上げ

裏庭

床／タタキ t=100mm 一部スギ板張り t=15mm
壁／金属サイディング張り アイジー工業
　SF-ビレクト Fネオホワイト　一部リシン吹付け仕上げ
天井／構造材現し 着色塗装　一部EP塗装
置き型バスタブ／インクコーポレーション INK-0202014H
シャワー水栓／ BRAVAT F65051C-B3
厨房機器／
　IHコンロ／パナソニック KZ-G32AK
　レンジフード／サンワカンパニー 6038W

洗面脱衣室1・2　トイレ

床／土間コンクリート仕上げ
壁・天井／珪藻土クロス張り サンゲツ SGA-613

室1～8

床／スギ板張り t=15mm　一部ビニルタイル張り t=3mm
壁・天井／珪藻土クロス張り／サンゲツSGA-613
階段／踏板・蹴込：溝形鋼 縞鋼板 サビ止め塗装

設備システム

空調　冷暖房方式／エアコン
　換気方式／第三種換気
給排水　給水方式／上水道直結
　排水方式／下水道直結
給湯　給湯方式／エコキュート

撮影／笹の倉舎 笹倉洋平

東側路地。

北側アプローチ。正面が室1、階段上が室5。

小さな図書館のある家

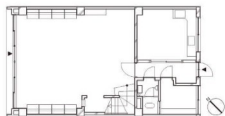
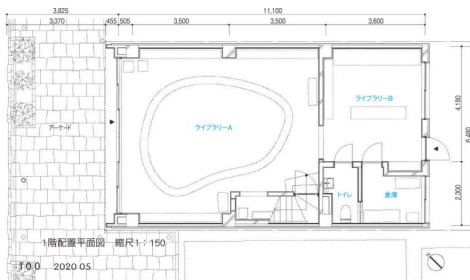
House with a Small Library

鳥取県鳥取市

キノシタヒロシ建築設計事務所
Hiroshi Kinoshita & Associates

左手にアーケード、右手にライブリー Aを見る。アーケード沿いに建つ鉄筋コンクリート造の元書店だった空き家を、住宅兼私設図書館にする計画。1階は既存の大きな部屋割りを活かしてライブラリー A・Bを配し、既存の引き違いアルミサッシを開けて街に開放できる空間としている。

上：ライブラリー BからAを見る。　下：ライブラリー Aの南西側。中央の新設の扉から2階に繋がる。天井は既存現し、壁はモルタル金ごて押さえにより補修しAEP塗装、床はコンクリート金ごて押さえ。

既存2階平面図

既存1階平面図　縮尺1：250

ライブラリー Aからアーケード側を見る。中央にカーブを描くベンチは、コンクリートブロックを積んだ上にモルタル金ごて押さえとし、家具よりも少し大きいスケールでつくり、その配置やかたちは、歩道との距離感や歩道への奥行きの与え方などを考えて決めている。

1階配置平面図　縮尺1：150

2階平面図

小さく変わっていくこと

建築が、周辺にある環境とどのように関係していくか。その間合いの取り方が重要だと考えている。小さな町の大きな通りに面して、2階建ての鉄筋コンクリート造の建物があった。たくさんの本をもち、その所蔵場所としてこの建物を選んだ建主に、私設図書館のようにして町に開いたらどうかと提案し計画が始まった。近所には町を横断する川があり、気持ちよく散歩のできる遊歩道や小さな公園が整備されている。そのような周辺施設と呼応する広場のような場所がアーケードの下にあって、そこでは自由に本が読める。そんなふうにひとつの場所が小さく変化すると、周辺のあり様や情景までもが小さく変わっていくことに期待した。アーケードに面した既存建物の入口は6枚のガラス戸で、奥には土間が配されていた。その単純な構成を活かし、建物全体を3つの大きな部屋でできた構成としながらも、それぞれが切り離された場所となるのではなく、互いに気配が感じられる設えとした。また、アーケード下に店舗のような間合いで空間が並列するとインテリアの性質が払拭できず、それが広場のイメージからは遠いような気がした。そのため、座って本が読めるベンチを家具よりももう少しだけ建築的にとらえ、アーケードとの間合いやその向こうにある町との連続性を意識した。町で暮らす人びとが建主の本と出会い、多様な価値観に触れることで町が小さく小さく変わっていく。この設計がその一助になればよいと思う。（キノシタヒロシ）

もともと3つの和室に仕切られていた居住スペースは、北西側の大きな既存開口部を活かして大きな気積をもつ一室空間としている。太陽光が差し、南北に気持ちよく風が抜ける。

Earth Floor & Roofed Terrace
商店街に開いた私設図書館

断面詳細図　縮尺1：75

昼間であってもアーケードの下では日差しが遮られるため、薄暗くなる。その色温度に近い4,000K程度の照明器具を選択し、明るさも内と外の境界が曖昧になるようにした。

アーケードからライブラリーAを見る。アーケードは北に500mほど続く。

小さな図書館のある家

所在地／鳥取県鳥取市
主要用途／私設図書館＋住宅
家族構成／夫婦

設計
キノシタヒロシ建築設計事務所
担当／キノシタヒロシ

施工
左官　井筒左官　担当／井筒龍三郎
内装　UKP　担当／内田拓郎
設備　林設備　担当／林宏祐
鳥取瓦斯　担当／梅本隆
電気　細川電気　担当／細川博伸

構造・構法
主体構造・構法　鉄筋コンクリート造（既存）

規模
階数　地上2階
延床面積　131.16m²
1階　71.93m²　2階　59.23m²

工程
設計期間　2018年11月～2019年2月
工事期間　2019年2～5月

敷地条件
地域地区　商業地域　準防火地域
道路幅員　北12m

外部仕上げ

居住スペース　ライブラリーA・B
床／コンクリート金ごて押さえ　表面硬化剤
壁／モルタル金ごて押さえ（補修）　AEP塗装
天井／既存コンクリート天井現し
照明／スポットライト（DAIKO）
ガスコンロ／リンナイ
換気扇（シェード）／富士工業
シンク水栓金物／TOTO

ホール
床／既存ビニル床タイル
壁／AEP塗装
天井／既存コンクリート天井現し
手摺／既存木製手摺り

洗面・浴室
床・壁／既存タイル　モルタル補修
シャワー水栓金物・便器／TOTO
洗面カウンター・水栓金物／LIXIL

設備システム
空調　暖房方式／ガスファンヒーター
空冷ヒートポンプエアコン
冷房方式／空冷ヒートポンプエアコン
換気方式／自然換気　機械換気
給排水　給水方式／上水道直結給水方式
排水方式／下水道放流方式
給湯　給湯方式／ガス給湯方式

撮影／キノシタヒロシ建築設計事務所

配置図　縮尺1：2,500

北西側夕景。

N邸

foret bois
三重県度会郡玉城町

米田雅樹／ヨネダ設計舎
Masaki Yoneda
／YONEDA architectural design

北側全景。周囲を田畑に囲まれ、遠くに山並みを望む敷地に建つ。地域に立ち並ぶ牛舎のように水平に伸びる佇まいとして1階を美容室とショップ、2階を住居としている。車通りの多い北側前面道路に対してプライバシーを確保するため、1階は基礎を延長した鉄筋コンクリート壁を高さ1,500mmまで立ち上げ、上部を開口部としている。2階ハイサイドライトの高さは260mm。北面は落ち着いた個の場をつくることを意図し開口を絞り、アウトセットして取り付けた連窓サッシは南風の抜け道となる。

南側夕景。景色に恵まれた南面は全面開口の開かれた空間としている。屋内から同仕上げで連続する天井の勾配は軒の角度を上げて視界を開いている。架構とガラス制作寸法の合理性で決めた等間隔の柱が、地域の風景をつくる牛舎と馴染む佇まいとしている。

風土環境の享受と構え

敷地は周囲を田園に囲まれたのどかな環境である。正面に里山を望む集落のメイン道路に面する。この場所に建主が故郷に里帰りして営む美容室と住居を計画した。

職住相互のプライバシーを確保するため、1階を美容室と店舗、2階を住居と明確に分離したプランとした。この風土の空気そのものを感じることができる場所を目指し、南面全面に開口を設えて外部と一体感のある構成とした。予算内に建築することと、用途上必要な面積を両立するために、建築はシンプルな角型とし、流通合理性のあるガラス面で多くの外皮を構築した。

住居には一様に明るさを求めず、適度な暗がりの場もほしいという要望と、前面道路の往来、車のヘッドライト、来客者の視線を考慮し、アプローチ側は開口を絞り、里山側に大きく開いた開口計画とし、場の階層をつくった。2階の広間と個室を隔てる土壁は天井と縁を切り、パレットのように濃淡をもちながら光、風、家族の空気がひとつに混ざる一室空間をつくった。土壁は住まいの背骨であると同時に、冬季は薪ストーブの蓄熱層としての役割も果たす。

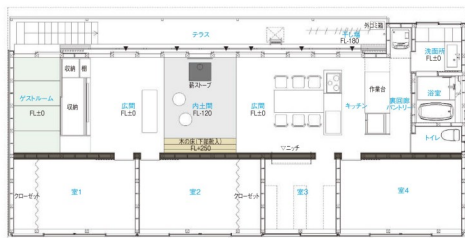
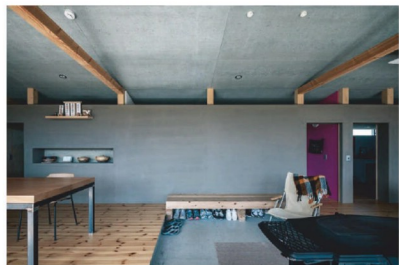
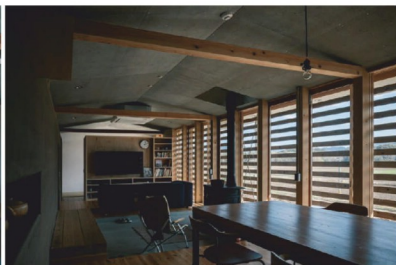
紀伊半島には毎年台風が来襲する。この風土と共存する地域の牛舎を参考に、台風時は最外周層の角パイプ柱に屋外広告用メッシュシートを転用した防風ネットを取り付けることで、この風土に参加した。（米田雅樹）

提供：ヨネダ設計舎

地域に建つ牛舎。

2階平面図

1階配置平面図　縮尺1：150

配置図　縮尺1：2,000

2階住居の広間から遠くの山並みまで見渡す。外部階段から南側のテラスにアクセスし、内土間が玄関を兼ねる。内土間はフレキシブルボード（t=6mm）仕上げ。床のレベル差は120mm。壁は土壁として暖炉使用時の蓄熱を期待している。天井は耐火野地板張り。

2階。内土間が広間（左右）と個室（正面壁奥）を隔てる。

2階キッチン側から広間と内土間を見渡す。天井高は2,342 〜 2,694mm。

左：南東側外観。台風への備えとして、2階は網戸を兼ねた木製横格子の建具を入れ、1階は干し場を支えるスチール柱（75×75mm）に屋外広告用メッシュシートを転用した防風ネットを設置できるようにしている。　右：1階に防風ネットを設置したところ。

N邸

所在地／三重県度会郡玉城町
主要用途／店舗併用住宅
家族構成／夫婦＋子供2人＋愛犬1匹

設計

ヨネダ設計舎　担当／米田雅樹
構造　WORKSHOP　担当／安江一平
プレカット　三重県木造住宅協同組合
　担当／笠原大樹

施工

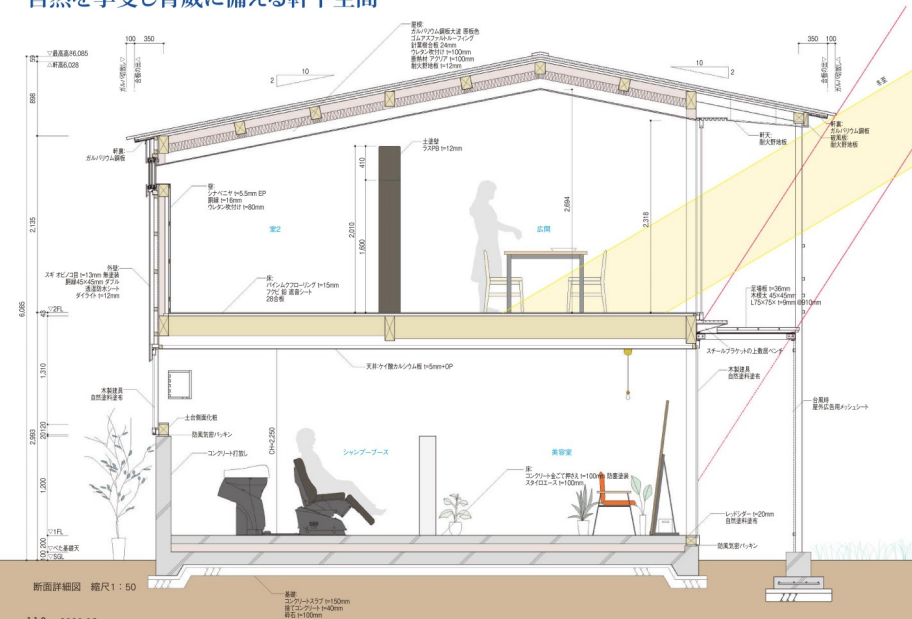
大勇建築　担当／中西勇史
大工　大勇建築　担当／中西勇史
足場　ナカヤ　担当／山川潤平
型枠　コジマ　担当／濱口健太郎
基礎　奥村業務店　担当／奥村満　長谷川勤
設備　ナカヤ設備工業　担当／小坂浩士
左官　工房カズ　担当／西川和也
電気　高岡電機　担当／高岡賢二
板金　オガワ　担当／小川勝己　西田昭夫
塗装　ナカモリペイント　担当／中森美孝
ガス　世古設備　担当／世古誠
建具　寺下建具店　担当／寺下健一
鉄工　丸辰鉄工　担当／柴原真
照明　玄関建具　nijiiro　担当／稲葉直也
　稲葉寛子

構造・構法

主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

規模

Earth Floor & Roofed Terrace
自然を享受し脅威に備える軒下空間

断面詳細図　縮尺1：50

1階美容室。南に開けた景色を取り込む。

階数　地上2階
軒高 6,028mm　最高高さ 6,085mm
敷地面積　906.83m^2
建築面積　125.05m^2
（建蔽率13.09%　許容60%）
延床面積　234.45m^2
（容積率25.85%　許容200%）
1階　122.85m^2　2階　111.60m^2

工程

設計期間　2017年5月〜2018年10月
工事期間　2018年10月〜2019年5月

敷地条件

地域地区　都市計画区域内（区域区分非設定区域）　法第22条区域
道路幅員　北4.7m　　駐車台数　8台

外部仕上げ

屋根／ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 大波 原版色
外壁／コンクリート打放し スギ粗挽き板 t=10mm（マルナカ）フレキシブルボード t=6mm 撥水材塗布
開口部／木製建具　アルミサッシ（LIXIL）
外構／砕石敷き

内部仕上げ

キッチン

床／パインムクフローリング t=15mm オスモクリア
壁／土塗壁
天井／耐火野地板 t=12mm
厨房機器／
食洗器／ Miele G4920Sci
ガスコンロ／ノーリツ N3WF2KJTKST
家具／制作
照明／コイズミ照明
シンク水栓金物／ステンレス制作　GROHE ミンタ

浴室

ユニットバス／ TOTO サザナ

トイレ　洗面所

床／長尺塩化ビニルシート
壁／シナベニヤ t=5.5mm オスモクリア　トイレのみ土塗壁
天井／耐火野地板 t=12mm
照明／コイズミ照明
洗面カウンター／ TOTO SK106
便器／ TOTO ピュアレスト
洗面用水栓金物／サンワカンパニー TA01729

1階（美容室・店舗）

床／コンクリート金ごて押さえ 防塵塗料塗布
壁／コンクリート打放し PB t=12.5mm 漆喰塗り　木材積上げ
天井／珪酸カルシウム板 t=5mm OP
家具／ラワン合板 t=24mm 制作
照明／コイズミ照明 nijiiro

内土間

床／針葉樹合板 t=28mm フレキシブルボード t=5mm
壁／土塗壁
天井／耐火野地板 t=12mm
照明／コイズミ照明

広間

床／パインムクフローリング t=15mm オスモクリア
壁／土塗り壁
天井／耐火野地板 t=12mm
家具／ラワン合板 t=30mm 制作
照明／コイズミ照明

ゲストルーム

床／縁無一畳タタミ
壁／土塗壁 シナベニヤ t=5.5mm オスモクリア
天井／耐火野地板 t=12mm
家具／ラワン合板 t=30mm 制作
照明／コイズミ照明

室1〜4

床／パインムクフローリング t=15mm オスモクリア
壁／土塗壁 シナベニヤ t=5.5mm オスモクリア EP
天井／耐火野地板 t=12mm
照明／コイズミ照明

設備システム

空調　暖房方式／薪ストーブ
冷房方式／エアコン・自然通風
換気方式／第三種換気
給排水　給水方式／上水道直結
排水方式／公共下水道
給湯　給湯方式／ガス温水器

撮影／新建築社写真部
*撮影／谷川ヒロシ

南西側外観。2階の木製ルーバーの建具を閉め1階の防風ネットを設置した様子。

1階美容室のエントランス回り。*

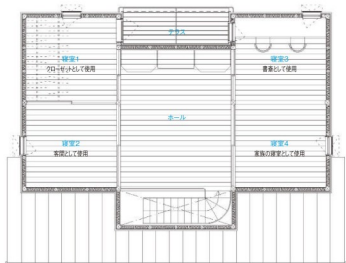
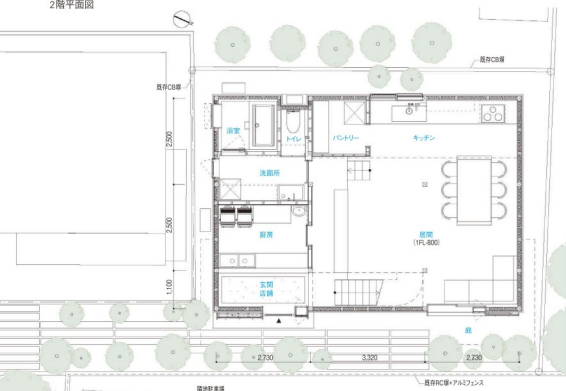
白鷺の家

House in Shirasagi
東京都中野区

村上譲＋菊田康平／ Buttondesign
Yuzuru Murakami＋Kohei Kikuta
／ Buttondesign

旗竿敷地に建つ小さな焼き菓子店を併設した住宅。1階の居間とキッチンを見る。1階はすべて土間仕上げとし、玄関と水回りの床レベルから800mm掘り込んだスペースを居間とキッチンにした。天井高は約3,500mm。

2階の寝室3・4からホール越しに南側を見る。軸組みに沿った障子で仕切ることで、将来の間取りの変化にも対応する。

Earth Floor & Roofed Terrace
掘り込まれた大きな土間

2階平面図

1階配置平面図　縮尺1：120

変化を受け入れる器

駅前の商店街を抜け住宅地に一歩踏み入れたところに、小さな焼き菓子店をもつ住宅を計画した。敷地は旗竿地であるが、東側の長い1辺は駐車場に面しているため、特有の閉塞感はなく、公園に面しているような開放感があった。しばらくは開けた環境を楽しむことができると考えたが、消えゆく公園や生産緑地のような空地と同等のものととらえ、東側は街との距離感を調整する庭とした。

長い雑木の庭を抜け、小さな店舗を通って住居に入る。家の玄関は店舗と同居させ、街との境界を滲ませながら繋いでいる。その先で出迎える半地下の大きな土間には、漆喰壁によって包み込む穴蔵のような静寂をもたせた。大きく開け放たれた窓から庭の緑を屋内へ取り込み高低差を可視化することで、ここが地中であることを感じさせる。また、この土間には大きなキッチンを据えて家の中心に「食」があることを印象付けている。近い将来、店主が調理のワークショップをすることで、この住宅の1階全体が街に解放されていく。

半地下の土間から柱で支えた2階は、がらんどうでありながら、軸組みに沿った可変性をもつ間取りになっている。空地を眺める大きな窓はなく、トップライトからの光が階下まで降り注ぐ。現しになった軸組みのほとんどはプレカットとしたが、機械でつくりきれない箇所は大工の手刻みで制作した。継手に打ち込まれた楔が、ところどころ可愛らしく顔を出している。

周囲の環境の中に素直に身を置き、家の成り立ちが内側から見えるような、できるだけ素っ気ない家をつくりたいと思った。住まい続ける中で家という形式を脱けて街に開かれ、この素っ気ない家はいかなるかたちにも変化していくだろう。　（村上譲）

店舗を兼ねた玄関から、土間仕上げを連続させた居間を見る。

居間から見返した店舗と玄関。床レベルの差は800mm。カウンター式の店舗の右手は専用の厨房。

居間から庭方向を見る。2階のトップライトから光が降り注ぐ。

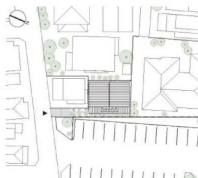
配置図　縮尺1：1,000

白鷺の家

所在地／東京都中野区
主要用途／店舗併用住宅
家族構成／夫婦＋子供2人

設計

Buttondesign　担当／村上譲　菊田康平
構造アドバイス　担当／丸山康太郎
不動産コンサルタント　創造系不動産
　担当／高橋寿太郎　須永則明

施工

KICHI&Associates Inc.　担当／吉岡雄太
大工　村上建築工舎　担当／村上聡
基礎　日建興業　担当／世良直樹
設備　ユーアイ設備　担当／篠崎典之
電気　山同電気　担当／山同友孝
板金　サトウ板金　担当／佐藤祐介
金属　ユニテク　担当／松木学
左官　福とんぼ　担当／福井邦彦
家具　retrograde　担当／三村悠
造園　草鞋　担当／川崎慎之介　川崎智恵

構造・構法

主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

規模

階数　地上2階
軒高 4,950mm　最高高さ 6,315mm
敷地面積　107.47m²
建築面積　53.56m²
（建蔽率49.83%　許容50%）
延床面積　99.20m²
（容積率92.30%　許容150%）
1階　45.89m²　2階　53.31m²

工程

設計期間　2018年5月〜12月
工事期間　2019年1〜6月

敷地条件

地域地区　第一種低層住居専門地域　準防火地域　第一種高度地区
道路幅員　南4m

居間の西側に設えたキッチン。左手のパントリー上部から引き延ばしたロフトスペースは将来書斎として使うことを想定している。ロフトの床は梁を吊り下げて構成した。

外部仕上げ

屋根／ガルバリウム鋼板 t=0.35mm 竪はぜ葺き
外壁／鉄鋼モルタル左官塗り 水性系シリコン塗装　ガルバリウム鋼板 t=0.35mm 竪はぜ葺き
開口部／アルミサッシ　木製建具
外構／枕木敷き

内部仕上げ

店舗　玄関
床／モルタル洗い出し
壁／漆喰左官仕上げ　スギ板縦張り
天井／スギ厚板 t=38mm

厨房
床／モルタル金ごて仕上げ
壁／漆喰左官仕上げ
天井／左官仕上げ

居間　キッチン
床／モルタル金ごて仕上げ
壁／漆喰左官仕上げ　スギ板 t=15mm縦張り
天井／スギ厚板 t=38mm
家具／制作

浴室
ユニットバス

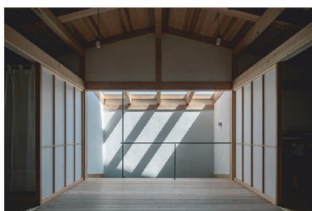
洗面所　トイレ
床／モルタル金ごて仕上げ
壁／漆喰左官仕上げ　スギ板縦張り
天井／左官仕上げ

寝室
床／スギ厚板 t=38mm
壁／漆喰左官仕上げ
天井／スギ厚板 t=30mm

設備システム

空調　暖房方式／ガスファンヒーター
冷房方式／ルームエアコン
換気方式／第三種換気
給排水　給水方式／水道直結方式
排水方式／下水道直放流方式
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部

旗竿敷地を活かして庭をつくった玄関アプローチ。右手奥の引き戸が店舗と共有する玄関。手前の大きな開口からGLから700mm下がった居間が見える。

階段上のトップライトを2階ホールから見る。

東側外観。駐車場に面して建つ。

屋根:
ガルバリウム鋼板 竪はぜ葺き
ゴムアスファルトルーフィング 22K t=1mm
シージングボード t=12mm
通気垂木 15×45mm 通気層 15mm
ポリエチレン系樹脂製気泡シート（アストロE） t=4mm
野垂木 60×45mm
ネオマフォーム t=60mm
透湿防水シート
野地板:スギ厚板 t=30mm
登り梁 120×150mm

寝室1　ホール　寝室3

壁:
PB t=12.5mm
漆喰左官上げ t=2.5mm

床:
スギ厚板 t=38mm

外壁:
水性系シリコン塗装仕上げ
通気ラス
モルタル左官 t=30mm
通気胴縁 t=18mm
透湿防水シート
構造用合板 t=9mm
アクリアウールα 20K t=89mm

床:
スギ厚板 t=38mm

丸鋼φ=12mm

ロフト

洗面所

壁・キッチン天板:
樹脂モルタル系左官材

キッチンキャビネット:
ナラ突き板

キッチン

床:
モルタル金ごて仕上げ

床:
モルタル金ごて仕上げ
基礎断熱ネオマフォーム t=50mm

断面詳細図　縮尺1：60

つくばの住まい

Tsukuba House
茨城県つくば市

服部信康建築設計事務所
Nobuyasu Hattori

中庭から北西側を見る。南東側の前面道路に対して大きくセットバックして建て、プライバシーを確保しながらも外に開いた暮らしができるように、GL＋3,860mmのL字壁の内側に大きな中庭を設けている。アプローチから中庭を介して玄関までレンガ敷きで繋がり、中庭は1、2階のデッキと共に立体的な庭をつくり出している。

玄関。中心の階段をコアとして回遊できる動線となっている。1階は個室や水回りを設け、個室がそれぞれレンガ敷きの外部空間に開けるように配置。客間は中庭に面しデッキに出ることができる。回遊部分（玄関、洗面室、フリースペース）の床は、土間コンクリート金ごて押さえ。

リビングからデッキ側を見る。屋根の軒は開口から眺める景色には入らないが、柱やデッキに軒の影が落ちることで、大木の下に腰を下ろしているかのような目には見えない落ち着き感が生まれる。

キッチンの開口から2階デッキの様子が見れる。子供も参加できるように、中央に作業台を設えることで家族みんなで楽しむきっかけをつくった。

リビングからダイニング方向を見る。2階は階段を中心にリビング、ダイニング、フリースペースが緩やかに繋がることで、ワンルームの中にさまざまな居場所をつくっている。梁天端までの高さは2,960mm。

2階フリースペース。出窓にデスクが設えられる。

Earth Floor & Roofed Terrace
生活の幅を広げる立体庭

7,400
700 1,700 5,000

▽最高高さ
屋根:
耐摩カラーGL t=0.35mm 竪はぜ葺き
高級ゴムアスファルトルーフィング 22kg
シージングボード t=12mm
耐水構造用合板(本実) t=12mm(千鳥貼)
垂木 45×45 @303mm
(断熱材:スタイロエース t=40mm)

集成材:120×210mm

断熱材:
グラスウール24K t=100mm

構造用合板 t=24mm
105×180 @910mm

断熱材:
グラスウール24K t=200mm(100+100)

軒樋:ガルバリウム半丸 105
鼻隠し:ベイスギ 上小 キシラデコール塗布

▽梁天端
△梁下端

軒天:
サイディング 木目調
(一部:木目調 有孔板使用)

構造用合板 t=24mm
天井:ラワン合板 t=9.0mm
化粧梁:ベイマツ 1等材 105×210 @303mm
PB t=12.5mm
壁:砂漆喰木ごて押さえ t=6mm

ジョリパット吹付け
モエンパネル大壁工法 t=14mm
タイベックシルバーシート
通気胴縁 t=21mm

デッキ:ウリン材 30×105mm キシラデコール塗布
大引:ウリン材 90×90mm キシラデコール塗布
鋼製束

リビング

防水:FRP防水
耐水合板 t=12mm×2枚貼り

床:フローリング t=14mm
床暖パネル t=12mm
構造用合板 t=24mm

▽2FL±0
△梁天端

外壁:ベイスギ 本実 t=12mm w=90mm キシラデコール塗布
胴縁
サイディング t=14mm
タイベックシルバーシート
ダイライト t=12mm

軒天:
ベイヒバ ≒90×12mm
キシラデコール塗布

断熱材:グラスウール16K t=60mm
天井:ベイヒバ ≒90×12mm ウッドワックス

壁:PB t=12.5mm
和紙貼り(建主施工)

断熱材:
グラスウール16K t=60mm
天井:PB t=9.5mm AEP

中庭

客間

子供部屋

床:フローリング t=14mm(支給品)
下地合板 t=12mm
ころがし根太:45×45 @303mm
(断熱材:スタイロエース t=40mm)

床:
ベイヒバ t=12mm w=90mm ウッドワックス
下地合板 t=24mm
断熱材 ころがし根太:90×90 @900mm
(断熱材:スタイロエース t=40mm)

断熱材

支給品レンガ敷き(建主施工)
真土 t=100mm プレート転圧

△土台天端
△基礎天端
1FL±0
△GL±0
△基礎底盤

基礎巾木:
モルタル金ごて押さえ ジョリパット吹付け

デッキ:米ヒバ ≒90×30mm キシラデコール塗布
大引:ヒノキ 90×90mm キシラデコール塗布
鋼製束
土間コンクリート 塗布防水

止水:クニシール

防湿フィルム t=0.15mm(2枚敷き)
断熱材:スタイロエース t=100mm
捨てコンクリート t=50mm
砕石 t=100mm プレート転圧

断面詳細図 縮尺1:50

3,700 750 950 1,600 3,400 6,700

生活を愉しむ場

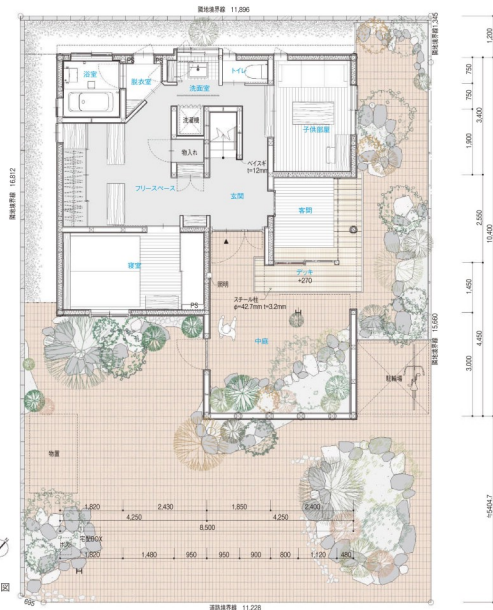
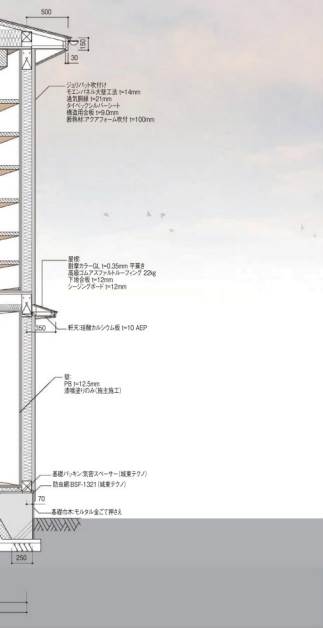
敷地は広大な田畑を開発した住宅地の一画で、周りには古い民家がなく、新しく移り住んできた人びとの新しい街である。建主は夫妻とも多趣味で、インテリアや家具、カメラ、料理、観葉植物、土いじりなど、日々の生活を愉しむことに関心が深く、それらの趣味をゆっくりと楽しめるコートハウスを希望していた。コストや周囲の街並みなどを考慮した結果、木造2階建てを軸としながらも、そこに生活を豊かにする愉しみの種を足していくようにプランニングを進めた。

現代人の生活は仕事とプライベートに追われ、日々慌ただしく物事を処理しているためか、多くの住宅が機能性を重視したLDK中心の家づくりとなっている。この住宅では、アクティブな仕事モードの時間と、ゆったりとしたリフレッシュモードの時間を分けてとらえることで、それぞれの愉しみを最大限引き出せるよう計画した。

まず2階には、対称なリビングとダイニングを中心に書斎や独立したキッチン、テラスなどを加えて、食事や勉強、家での仕事など刺激に溢れた活動的な時間を過ごせるような空間を整えた。それに対して1階には、落ち着いた時間を過ごせるよう、身体スケールにフィットした寝室、個室、客間などを配し、回遊するコンパクトな廊下では家具や小物などを並べて小さな家族のギャラリーとしても楽しめる空間とした。また、上下階を繋ぐ役割をもつ中庭は、玄関や客間、リビングの拡張として配置することで、鑑賞のための愛でる庭ではなく、気軽に出入りして草花や土いじりを愉しむ生活感のある土間として設えている。

すっと腰を下ろすと会話が始まりそうな縁や、ふらっと息抜きしたくなるテラスなど、暮らしを整えたり、家族の時間を豊かにする土間は、生活の愉しみの幅を広げる場として大切な役割をもっている。建主にはそれを柔軟に、自由に使って、ここに家族の思い出を深く刻んでいってほしい。

（服部信康）

2階平面図

1階配置平面図
縮尺1：120

南東側全景。レンガ敷きの床と植栽が中庭へと誘い込む。外構は建主と設計者によるもの。*

寝室。天井をアールにすることで包まれるような感覚になる。

つくばの住まい

所在地／茨城県つくば市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供1人

設計

服部信康建築設計事務所
　担当／服部信康
構造　ワークショップ　担当／安江一平

施工

冨祥工務店　担当／寺田幸夫
大工　八木秀一郎
設備　茨大工業　担当／大久保静
電気　高橋電機商会　担当／高橋孝夫
外構・造園　担当／建主　服部信康
屋根　岡正板金　担当／岡田正治
左官　坂本建美装　担当／加園三成
木製建具　藤沢木工所　担当／藤沢幸男

構造・構法

主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

規模

階数　地上2階
軒高 5,670mm　最高高さ 6,940mm
敷地面積　202.22m²
建築面積　64.37m²
（建蔽率31.83%　許容40%）
延床面積　112.20m²
（容積率55.48%　許容80%）
1階　53.95m²　2階　58.25m²

工程

設計期間　2016年12月〜2017年10月
工事期間　2017年10月〜2018年7月

敷地条件

地域地区　第一種低層住居専用地域
　法第22条区域
道路幅員　南6.0m　駐車台数　2台

外部仕上げ

屋根／耐摩カラー GL t=0.35mm 竪はぜ葺き
（日鉄鋼板）
外壁／アイカ工業 ジョリパットネオ JQ-650
中庭外壁／ベイスギ本実 t=12mm キシラデコール塗布
開口部／木製サッシ　アルミサッシ（LIXIL）
外構／レンガ敷き

内部仕上げ

キッチン

床／タイル貼り 300×300mm コテージ 平田タイル COT-303R
壁／PB t=12.5mm 砂漆喰木ごて押さえ t=6mm
天井／ラワン合板t=9mm 構造用合板t=24mm
化粧梁／ベイマツ1等級材 105×210@303mm
厨房機器／
　ガスコンロ／リンナイ RD640STS
　換気扇（シェード）／建主支給品
家具／シナ合板フラッシュ　ベイマツ t=30mm
　1等材　ベイスギ突板フラッシュ
照明／パナソニック LGB58078K
シンク水栓金物／ GROHE コスタ 31-831-10J

浴室

ユニットバス（TOTO）

トイレ

床／フローリング t=14mm
壁／ PB t=12.5mm
　砂漆喰木ごて押さえ t=6mm
天井／ラワン合板 t=5.5mm ウッドワックス
照明／特注品（TAIGA）

玄関　洗面室　1階フリースペース

床／土間コンクリート 金ごて押さえ 防塵塗装
壁／ PB t=12.5mm 漆喰塗り
天井／ラワン合板 t=5.5mm OP（@303 3mm目透かし）
照明／パナソニック LGB73005LE1

寝室

床／フローリング t=14mm（建主支給品）
壁／ PB t=12.5mm 漆喰塗り
天井／ラワン合板 t=5.5mm ウッドワックス仕上げ（アール天井）
照明／特注品（TAIGA）

客間

床／ベイヒバ t=12mm w=90mm ウッドワックス仕上げ
壁／ PB t=12.5mm 和紙貼り
天井／ベイヒバ ≒90×12mm ウッドワックス仕上げ

脱衣室　子供部屋

床／フローリング t=14mm（建主支給品）
壁／ PB t=12.5mm 漆喰塗り
天井／ PB t=9.5mm AEP
照明／ LGB73005LE1（パナソニック）

階段ホール

踏面・蹴込／ベイスギ練付合板 ウッドワックス仕上げ
最上段床／ベイスギ集成材 t=30mm ウッドワックス仕上げ
壁／ PB t=12.5mm 砂漆喰木ごて押さえ t=6mm
天井／PB t=9.5mm 砂漆喰木ごて押さえ t=6mm
照明／特注品（TAIGA）

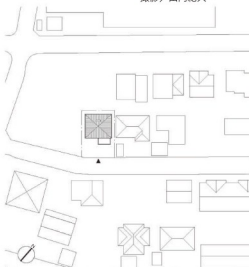
リビング　ダイニング　2階フリースペース　書斎

床／フローリング t=14mm（建主支給品）
壁／ PB t=12.5mm 砂漆喰木ごて押さえ t=6mm
天井／ラワン合板 t=9mm 構造用合板 t=24mm
化粧梁／ベイマツ 1等材 105×210@303mm
照明／特注品（TAIGA）　voile brass（flame）

設備システム

空調　冷暖房方式／ルームエアコン
　換気方式／第三種換気
　その他／床暖房
給排水　給水方式／上水道直結方式
　排水方式／下水道直結方式
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部
*撮影／山内紀人

中庭へのアプローチは、スチールのドアのところで70mm上げることで中庭に向かってくぐるという意識を誘発している。

配置図　縮尺1：1,500

1、2階を繋ぐデッキ。1階のデッキは高さ320mm、奥行き750mmとして、外から腰を掛けることができ、客間の延長としても使うことができるようにしている。

工場が複数建つ地域に計画した木造2階建て。2層分の吹抜けとした内庭を見下ろす。内庭は網戸によって外部と仕切られており、右手で土間リビングと繋がる。

一ツ木の住宅

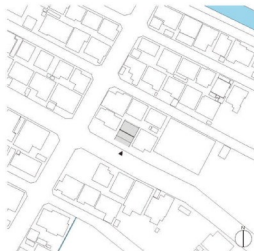
House in Hitotsugi
愛知県刈谷市

諸江一紀建築設計事務所
Kazuki Moroe Architects

西側近景。内庭の開口には網戸が入っており外部からの視線を調整すると共に、通風と日射を確保した。東側がガレージと玄関ポーチ。*

土間リビング。右手の内庭から左手のダイニングに向かって徐々に床レベルを上げ、さらに壁と天井の仕上げ材を肌理細かい質感の素材に変化させることで、外部の雰囲気をグラデーショナルに引き込んでいる。

リビング越しに北方向を見る。裏庭に続くキッチンの開口や、吹抜けのスリットから視線が抜ける。

前面道路から見た東側外観。車の往来が多い環境を考慮して網戸で仕切り緩衝帯とし、外部と室内の距離を調整している。

配置図　縮尺1：2,000

居室化された通り土間と終わらない家づくり

伝統的な土間は、靴を脱ぐという私的な行為をせずに出入りできるため、社会との接続面となり、炊事や厩など生産行為の場でもあった。現代の郊外都市では、職住分離が徹底され、防犯が第一に求められている。敷地面積が広くなく前面道路に車の往来が多いこの住宅を、塀や生垣で閉ざすのではなく、街と距離を保ちながら繋がることができるフィルターとして、内庭と土間を用いた。

この住宅の西側の前面では、ガラス戸から網戸を引き離し、その空間を吹抜けの内庭としている。植物やベンチが設えられ、自転車が飾られるこの内庭は、私的行為をぼかしながら見せるショーケースのようでもある。内庭の先は土間コンクリートで仕上げたリビングとし、通り土間のように奥へ繋げた。内庭からリビング、ダイニングの各居室は小さな段差を付けて区切り、仕上げの肌理を少しずつ細かくすることで、層を重ねながら染み入るように内部化した。土間の雰囲気はふたつの吹抜けを通して、上階にも伝わっていく。

この住宅は事情により設計施工に5年掛かり、夫婦の居住は20年の予定である。数カ月でつくり、長期にわたり性能が担保されることを売りにする住宅とは正反対である。とはいえ、仮設的につくれるような短さでもないため、住宅をつくる行為と住む行為を一体化できないか考えた。仕上げない部分をつくり、家づくりを完成させず、手を入れる余地を残した。囲われた半外部空間や経路の選択性は、将来のプラン変更に自由度を与える。家をつくり続けることが、家族同士の関係性を更新し続ける。　　　　（諸江一紀）

両側に吹抜けに面する開口をもつ2階寝室。ベッドの寸法に合わせコンパクトな居室とした。**

Earth Floor & Roofed Terrace
内庭と土間で街と緩やかな距離をつくる

▽最高高さ GL+6690
▽棟高 GL+6470
▽軒高 GL+4900
▽梁天端 GL+2900
▽土台天端 GL+430
▽設計GL±0

220
1,570
2,000
6,690
2,470
430
400

ガルバリウム鋼板小波板 t=0.4mm
アスファルトルーフィング940
合板特類 t=12mm
上垂木45×45mm@455
垂木45×80mm@955
フェノールフォーム保温板 t=80mm
構造用合板 t=24mm
垂木45×90mm@455

ガルバリウム鋼板小波板 t=0.4mm
アスファルトルーフィング940

構造用合板 t=24mm
キシラデコール

構造用合板 t=24mm
キシラデコール
垂木現し SPF キシラデコール

野縁
PB t=9.5mm
クロス
垂木現し SPF オスモ

内庭
寝室
子供室1

2,486
2,830

PB t=12.5mm クロス
胴縁
高性能グラスウール16K t=100mm

珪酸カルシウム板
t=6mm NAD

平織り金網 20メッシュ
網目0.98mm

ラーチ合板 t=9mm
キシラデコール
PB t=12.5mm
胴縁
構造用合板 t=12mm
透湿防水シート

ラワン合板 t=9mm オスモ
胴縁
構造用合板 t=12mm
高性能グラスウール16K t=100mm

シナ合板 t=5.5mm オスモ
構造用ラワン合板 t=12mm

無垢フローリング t=15mm
構造用合板 t=24mm

5,300
389
330

浸透性吸水防止剤
硬質木片セメント板t=12mm
通気胴縁
透湿防水シートPB t=9.5mm
構造用合板 t=12mm

野縁 30×40mm@300
PB t=12.5mm クロス

前庭
リビング
ダイニング
キッチン
裏庭

2,350
2,140

モルタル金ゴテ押さえ t=70mm
防塵塗装
溶接金網
構造用合板 t=12mm
電気式床暖房システム
構造用合板 t=12mm
フェノールフォーム保温板 t=45mm

無垢フローリング t=15mm
構造用合板 t=24mm
フェノールフォーム保温板 t=45mm
大引
鋼製束

Pタイルt=2mm
下地合板 t=12mm
構造用合板 t=24mm
フェノールフォーム保温板 t=45mm
大引
鋼製束

三和土
三和土

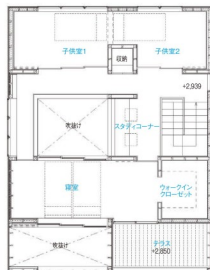
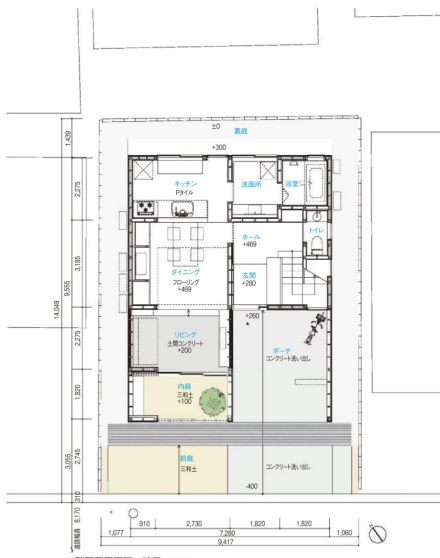
土間コンクリート t=150mm
防湿シート t=0.15mm
砕石転圧 t=60mm

断面詳細図　縮尺1：60

2階の子供室から南側に見通す。1階の土間に反射した光が2階天井まで届く。*

一ツ木の住宅
所在地／愛知県刈谷市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦+子供3人

設計
諸江一紀建築設計事務所
　担当／諸江一紀　武内爽
構造　ハシゴタカ建築設計事務所
　担当／髙見澤孝志
外構・造園　櫻井造景舎　担当／櫻井靖敏
施工
誠和建設　担当／林康広　長縄勝治
設備　三幸工業　担当／黒部一友
外構・造園　櫻井造景舎　担当／櫻井靖敏
構造・構法
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　鉄筋コンクリート造布基礎
規模
階数　地上2階
軒高 5,200mm　最高高さ 6,720mm
敷地面積　132.42m²
建築面積　69.56m²
（建蔽率52.53%　許容60%）
延床面積　119.26m²
（容積率90.06%　許容200%）
1階　62.94m²　2階　56.32m²
工程
設計期間　2011年9月～2015年8月
工事期間　2015年9月～2016年3月
敷地条件
地域地区　市街化調整区域　法第22条区域
道路幅員　南8.8m　駐車台数　1台
工事費
建築　15,980,000円
電気　1,110,000円
空調　440,000円
外構・造園　1,300,000円
衛生　2,690,000円
家具・什器　830,000円
その他　2,330,000円
総工費　24,680,000円
坪単価　684,000円
外部仕上げ
屋根／ガルバリウム鋼板小波板 t=0.4mm
外壁／硬質木片セメント板 t=12mm（ニチハ）
　浸透性吸水防止剤
開口部／木製建具　アルミ製サッシ
外構／三和土　コンクリート洗い出し
内部仕上げ
キッチン
床／塩化ビニルタイル t=2mm
壁・天井／ PB t=12.5mm クロス
厨房機器／
　食洗器／パナソニック
　ガスコンロ／ Harman

2階は吹抜けを中心とした回遊プラン。手摺り壁回りにスタディコーナーを設け居場所をつくった。

2階平面図

1階配置平面図　縮尺1：150

換気扇（シェード）／富士重工

トイレ　洗面所

床／塩化ビニルタイル t=2mm

壁・天井／PB t=12.5mm・9.5mm クロス

内庭

床／三和土

壁・天井／構造用ラーチ合板 t=12mm・t=24mm キシラデコール（大阪ガスケミカル）

リビング

床／モルタル金ごて仕上げ　防塵塗装

壁／ラワン合板 t=9mm オスモカラー（オスモ&エーデル）

天井／PB t=12.5mm クロス

ダイニング

床／ナラ無垢フローリング t=15mm

壁・天井／PB t=12.5mm クロス

家具／シナ合板

設備システム

空調　冷暖房方式／ヒートポンプ式エアコン

その他／床暖房　電気式床暖房

給排水　給水方式／上水道直結方式

排水方式／汚水・雑排水合流、雨水分流式

給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部

*撮影／上田宏

**撮影／谷川ヒロシ

浦和のハウス

House in Urawa
埼玉県さいたま市

齋藤和哉建築設計事務所
Kazuya Saito Architects

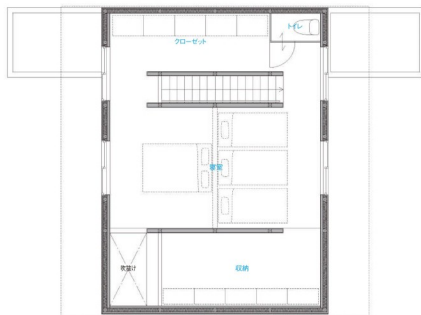
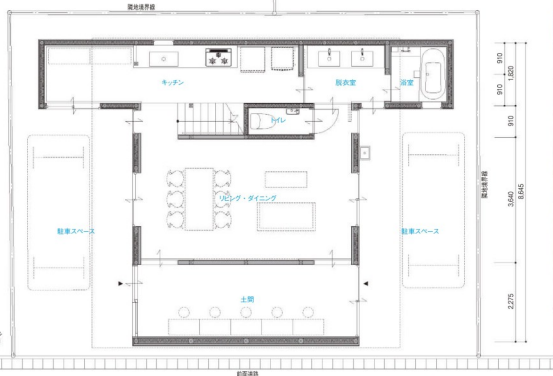
南東側全景。背後の北西側には2軒の住宅が境界ぎりぎりに迫り建ち、その住宅の旗竿敷地が南西と北東側に隣接する。幅13.5m、奥行き10mの敷地に、両隣の旗竿敷地に合わせ北東と南西側を駐車スペースとしてセットバックして建てた。南東側は、前面道路から2.1mの高さに開口を設け、プライバシーを遮りつつ採光を確保している。

土間を見下ろす。左右の駐車スペースから土間に入る。前面道路から敷地奥に向かって耐力壁となる間仕切り壁を並べて立て、水平剛性をブレースで確保。南東と北西側を土間コンクリート仕上げとし、南東側は子供の遊び場や日曜大工をする場、北西側は水回りを配している。

Earth Floor & Roofed Terrace
立体的な繋がりをつくる土間と大開口

2階平面図

1階配置平面図　縮尺1：120

右手に土間、左手にリビング・ダイニングを見る。境界に立てた構造壁は、立った時は開放的に、座った時は囲われているように感じられる高さ（1FL＋1,500mm）にしている。

5枚の構造壁

図面上では1本の線で距離感をコントロールできるのが建築である。若い夫婦と3人の子供が生活するうえで、周りから覗かれずに自然や家族の気配をどこにいても感じることができる住まいをローコストでつくりたいというのが建主の要望だった。そこで、最小限の床と壁で建築的に成立する住まいを模索した。

敷地は、浦和駅から車で15分ほどの住宅地にある。幅が13.5m、奥行きが10m。南東に6mの前面道路、北東と南西にそれぞれ2mの旗竿状の隣地があり、北西には2軒の住宅が敷地境界間際まで迫っている。

敷地を取り巻くさまざまな目線は切りつつも、家族同士の雰囲気を感じながら、周囲の空や緑を光と風と共に室内へ取り込むことができるよう床と壁の高さを設定すると、立体的な一室空間となった。

1階に南東から天井の高い土間、リビング・ダイニング、階段、水回りの順で部屋を配置し、それぞれの間に高さの違う5枚の構造壁を立てた。さらに、北東と南西に駐車スペースを取ることで4周にバッファーをもつ構成とした。2階に屋根裏のような寝室を設け、吹抜けで土間と繋げた。1階と2階の途中には視線と光と風が一気に抜けるロフト層がある。

居心地のよい距離感を突き詰めた結果、守られていながらも開放感がある、森の中で佇んでいるような住まいを実現できたのではないかと思っている。（齋藤和哉）

リビング・ダイニングから土間方向を見る。土間とリビング・ダイニングの間は引き戸で仕切ることができる。

キッチンからリビング・ダイニングを介して土間を見る。

キッチンから脱衣室、浴室側を見る。水回りはリビング・ダイニングより150mm下げた場所に配置。リビング・ダイニングよりも北東・東西方向に2,730mmずつせり出している。

浦和のハウス

所在地／埼玉県さいたま市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供3人

設計
齋藤和哉建築設計事務所　担当／齋藤和哉
構造　yAt構造設計事務所　担当／中畠敦広

施工
大工　佐藤美建　担当／佐藤健三
基礎　谷古宇工業　担当／谷古宇一徳
設備　リスイ工業　担当／白石利光
電気　デンカ　担当／小川博勝
屋根　信和板金工業　担当／志水宏之
左官　OK-CRAFTS　担当／中野渡博美
建具　カネコ　担当／金子政明
内装　インテリア唐沢　担当／唐沢秀幸
塗装　富士武美建　担当／林武志

構造・構法
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

規模
階数　地上2階
軒高 6,319mm　最高高さ 7,849mm
敷地面積　134.53m²
建築面積　68.80m²
（建蔽率51.14%　許容60%）
延床面積　117.33m²
（容積率87.22%　許容200%）
1階　65.00m²　2階　52.33m²

工程
設計期間　2018年1月〜2018年6月
工事期間　2019年2〜8月

敷地条件
地域地区　市街化区域　第一種中高層住居専用地域　法築22条地域　高度地区（15m地区）
道路幅員　南5.99m　　駐車台数　2台

外部仕上げ
屋根／ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 立平葺き　シート防水 t=2mm
外壁／左官塗り（エクセルジョイント）t=2mm　撥水剤塗布
開口部／樹脂サッシ　木製サッシ
外構／土間コンクリート 刷毛引き仕上げ

内部仕上げ
土間
床／土間コンクリート t=100mm 金ごて仕上げ
壁／左官塗り（エクセルジョイント）t=2mm 撥水剤塗布　一部ラワン合板 t=5.5mm

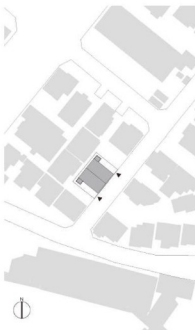
浦和のハウスにおける構造計画

地上2階建ての木造在来工法で計画された住宅である。空間を遮る間仕切り壁をなるべく最小限にするために、透過性の高いステンレスブレースを積極的に耐震要素に用いる計画とした。ただ本計画は階高が4mほどで比較的大きく、耐震要素がブレースのみだと水平剛性がやや不足するという懸念があった。そこで階高の中間までは両面構造用合板の耐震壁とし、その上部からブレースを配して縦横比をなるべく小さくすることにより、十分な水平剛性を確保できるよう工夫を行った。結果的に階の下から上まで空間を遮る壁はひとつもなく、内部空間は天井や壁の仕上げを貼らずに柱や梁の大部分を現しとしているため、木の暖かみを感じられる開放的で透過性の高い立体的な一室空間を実現することができた。　（中畠敦広／yAt構造設計事務所）

断面詳細図
縮尺1：60

天井／構造躯体現し
照明／コイズミ照明 ASE640550
リビング・ダイニング
床／塗装済み無垢フローリング t=15mm
壁／ PB t=12.5mm クロス張り　一部ラワン合板 t=5.5mm
天井／構造躯体現し
照明／コイズミ照明 ASE640550
キッチン　脱衣室
床／土間コンクリート t=70mm 金ごて仕上げ
壁／ PB t=12.5mm クロス張り　一部ラワン合板 t=5.5mm
天井／構造躯体現し
照明／コイズミ照明 AS38292L
厨房機器／
レンジフード／富士工業 MKR-3B
ガスコンロ／リンナイ RHS71W22E2V2D
オーブン／リンナイ RSR-S51E
食洗器／ Miele G6620SCi
キッチンシンク／シゲル工業 JS15L-K3FFS
キッチン水栓／ TOTO TKWC35ES
ガス衣類乾燥機／リンナイ RDT-52S
洗面器／ TOTO SK7
洗面水栓／ KVK KM708G
トイレ
床／塗装済み無垢フローリング t=15mm
壁／ PB t=12.5mm クロス張り
天井／ PB t=9.5 mmクロス張り
照明／ミツバ電陶製作所 E26モーガルソケット
便器／ TOTO ネオレスト
手洗器／ TOTO LSH50BS
ロフト
床／グレーチング
壁／ PB t=12.5mm クロス張り
天井／構造躯体現し
照明／コイズミ照明 ASE640550

寝室　クローゼット　収納
床／塗装済み無垢フローリング t=15mm
壁／ PB t=12.5mm クロス張り　一部ラワン合板 t=5.5mm
天井／構造躯体現し
照明／ミツバ電陶製作所 E26モーガルソケット
設備システム
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
換気方式／第三種換気
給排水　給水方式／上水道直結
排水方式／分流式下水道
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部

配置図　縮尺1：1,500

上：収納から寝室側を見る。収納と寝室の間に926mmの段差を設け、その隙間から南東側のファサードからの光を取り込む。　下：2階から階段を見下ろす。右手はグレーチングのロフト。

南側夕景。周辺から中の様子は直接見えないが、住まい手の生活が何となく滲み出るように考えられた開口部。

神戸の住宅

House of Kando

静岡県榛原郡吉田町

町秋人建築設計事務所
Akito Machi Architects

南西側夕景。西側に小川が流れる2面接道のゆったりとした敷地に建つ。敷地の東から西側にかけて築山や土壁で高さを与えた庭を設え、庭に面して高テラスをL字に配すことで、庭の緑やその先の景色を眺める場所をつくっている。土間の高さはGL＋1,000mm。

リビング、ダイニングから高テラス方向を見る。リビングやダイニングは高テラスから500mm下げて配置。1FLからは空へ視線が抜けていく。

Earth Floor & Roofed Terrace

遠くの風景と暮らしを繋ぐテラス

棟換気

外壁:
ラスモル t=20mm+撥水材塗布
構造用合板 t=9mm
縦胴縁 45×15mm(スギ)
透湿防水シート
構造用合板 t=9mm
断熱材吹付け

屋根:
カラーGL鋼板 竪はぜ葺き
アスファルトルーフィング
構造用合板 t=12mm
断熱材スタイロフォーム(通気層確保)
垂木 ベイマツKD 90×45mm
構造用合板 t=12mm

登り梁・天井:
ベイマツKD 現し
構造用合板 現し

軒先野地板:
ベイマツ羽目板 180×12mm 実OF

フリースペース

床:
フローリング(パイン無垢) t=15mm
構造用合板 t=24mm

壁:
ビニルクロス
PB t=12mm
胴縁 45×15mm(スギ)

屋根:
カラーGL鋼板 竪はぜ葺き
アスファルトルーフィング
構造用合板 t=12mm
断熱材 吹付け
天井:ラワン合板 t=5.5mm OF

キッチン

ダイニング

高テラス

キッチン作業台制作(チェリー)

階段:ラワン合板OF

床:
モルタルタイル 200mm角
(制作)

床:
複層フローリング(チェリー) t=15mm
電気式床暖房パネル t=12mm
構造用合板 t=24mm
ヒノキ KD土台 105×105mm

▽最高高さ ▽軒高 ▽2F梁天端 ▽1FL ▽基礎天端 ▽GL

▽テラス桁天端 ▽テラスFL ▽テラス基礎天端

1,528 2,330 7,258 3,000 400 2,036 6,222 CH=2,350 1,850 500 CH=2,100 2,320 900

2,130 3,330 1,820 7,280

断面詳細図　縮尺1：60

高テラスから右手にリビング、正面に庭を見る。築山や土壁は高テラスのフロアラインとの高さを揃えることで、敷地と小川の間の道路からの視線を遮り、遠くの景色に繋ぐための手がかりとしている。

高テラスと連なる風景

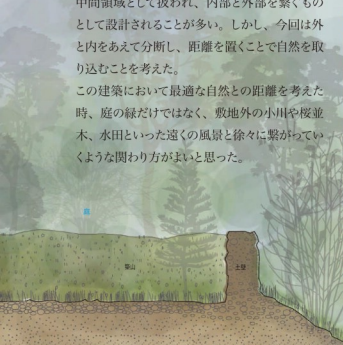
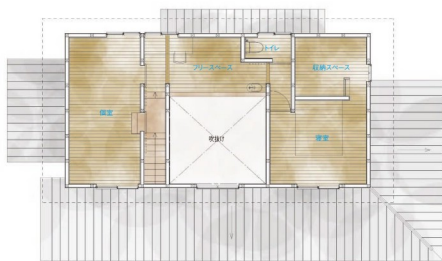
建築をつくる時、その場にもともとある環境や社会を含めた自然に対して心地よい距離感をつくることを意識している。今回はその距離感を「高テラス」という空間を通して考えた。

この住宅はGLからおよそ1m上がった高テラスが居住空間をグルっと囲む構成になっている。一般的に、縁側や土間は庭や外部を近づける中間領域として扱われ、内部と外部を繋ぐものとして設計されることが多い。しかし、今回は外と内をあえて分断し、距離を置くことで自然を取り込むことを考えた。

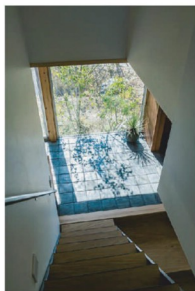
この建築において最適な自然との距離を考えた時、庭の緑だけではなく、敷地外の小川や桜並木、水田といった遠くの風景と徐々に繋がっていくような関わり方がよいと思った。

建主は共働きで日々忙しい。日常的に土や緑と触れ合うことよりも、生活の中のふとした瞬間に自然を感じるような、自然と適度な距離感を保てるような過ごし方が適しているのではないか。

実際に「高テラス」で過ごすと、地面から距離があるため遠くの景色に意識が向く。同時に木々の葉との距離が近くなり、日常生活の中で無意識のうちに緑の中へ入っていくような感覚を覚える。庭も高テラスのフロアレベルと同じ高さに土を盛ることでフェンス代わりの土壁とし、より外との繋がりをもたせた。

気持ちを内に向けたい時は、高テラスに囲まれた室内へ数段の階段を下りて戻れる。意識の切り替えを、無理することなく感覚的に自然な状態で居場所を選択できることは、暮らしの豊かさに繋がる。（町秋人）

高テラスの北側を見る。床は制作のモルタルタイル。突き当たりは書斎。

2階平面図

個室。個室の先のフリースペースからは1階を見下ろせる。
個室は中心で仕切ることを想定し、動線をふたつ設けている。

1階配置平面図　縮尺1：150

上：階段から高テラスを見下ろす。
右：リビングからダイニング、高テラスを見る。

神戸の住宅

所在地／静岡県榛原郡吉田町
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供2人

設計
町秋人建築設計事務所　担当／町秋人
構造　ウッドプランニング　担当／宇佐美徹

施工
ファンコレクティブ　担当／山本智久
家具　イワカグ　担当／岩崎翔
木材・プレカット　北斗製材工業
　担当／重坂道行
左官　左官屋朝丸　担当／朝倉伸吾
木製建具　松山建具　担当／松山進
設備　マスダ　担当／増田修
電気　南電設　担当／暮林太
外構・造園　伊右衛門　担当/平川了一

構造・構法
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

規模
階数　地上2階
軒高 5,730mm　最高高さ 7,258mm
敷地面積　446.53m^2
建築面積　95.59m^2
（建蔽率21.41％　許容60％）
延床面積　137.19m^2
（容積率30.73％　許容200％）
1階　89.69m^2　2階　47.50m^2

工程
設計期間　2017年1月〜2018年3月
工事期間　2018年3月〜2019年3月

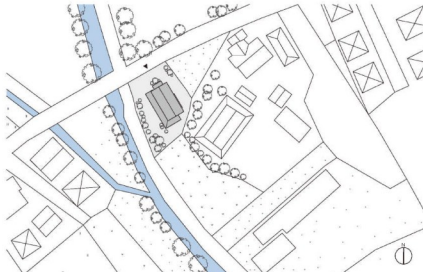
敷地条件
地域地区　法第22条区域
道路幅員　北6m　　駐車台数　3台

外部仕上げ
屋根／ガルバニウム鋼板 竪はぜ葺き
外壁／ラスモルタル t=20mm
開口部／木製建具　アルミサッシ
外構／砂利敷き

内部仕上げ
リビング　ダイニング　キッチン
床／チェリー複層フローリング t=15mm
壁／ビニルクロス
天井／登り梁 構造用合板現し ビニルクロス
厨房機器／制作（チェリー）　SUS天板
照明／ flame mousse　磁器ソケット（青山電陶）
シンク水栓金物／ GROHE ミンタ
浴室
ユニットバス（TOTO）
トイレ　洗面室
床／チェリー複層フローリング t=15mm
壁・天井／ビニルクロス
家具／ラワンランバーコアOF
照明／ダウンライト（パナソニック）
　磁器ソケット（青山電陶）
便器／ TOTO ネオレストAH
洗面カウンター／制作（チェリー）　SUS天板
洗面用水栓金物／サンワカンパニー TA05019
高テラス　書斎
床／モルタルタイル（制作）
壁・天井／ラワン合板 t=5.5mm OF
家具／ラワンランバーコア OF
照明／ダウンライト（パナソニック）
寝室　個室
床／パイン無垢フローリング t=15mm
壁／ビニルクロス
天井／登り梁 構造用合板現し
家具／ラワンランバーコアOF
照明／ペンダント照明（BOLTS HARDWARE）

設備システム
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
　換気方式／第三種換気方式
　その他／床暖房
給排水　給水方式／上水道直結
　排水方式／浄化槽方式
給湯　給湯方式／エコキュート

撮影／新建築社写真部

南側全景。左手に小川が流れる。外壁はラスモルタル仕上げ。

配置図　縮尺1：1,500

鎌倉浄明寺の家

Jomyoji House
神奈川県鎌倉市

森清敏＋川村奈津子／ MDS
Kiyotoshi Mori＋Natsuko Kawamura
／ MDS

景色に呼応する方形屋根

鎌倉の谷戸に挟まれた小高い丘の頂。岩盤の表層を柔らかい土が覆う、この地域特有の地層が形成されている。敷地レベルは入口道路面より表層土分上がっている状態であったが、建物の部分のみ表層土を払い、基礎底盤を直接岩盤に置いた。入口道路から建物までのアプローチも、表層土をかき分け緩やかに建物内の土間へと続く。単純な正方形の平面形状に構造的に安定した方形の屋根を架け、無柱の大屋根空間をつくった。

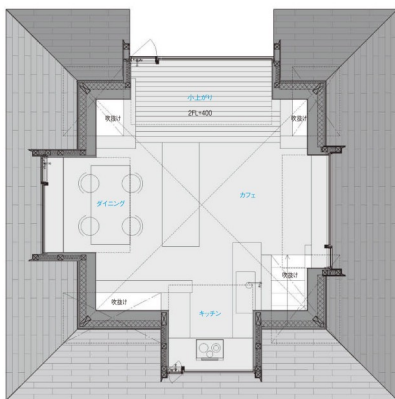
考えの原点は「竪穴式住居」。さらに土間の上に床を1枚加えて屋根を大地より少しもち上げ、立体的な空間へと変化させた。2層部分は軒先側にいくほど天井が迫り、反対に中央は遥かに高い。方形屋根の架かる4辺それぞれは、山と谷、集落、そして空が広がる恵まれた環境で、それに呼応するように軒先をめくり上げ、景色の違う4つの間をつくった。めくり残した軒先四隅は、床を切り欠いて土間からの吹抜けとし、上下階を繋いでいる。

夫婦ふたりと猫2匹。人のためだけ猫のためだけの偏重した設えではなく、小さな箱の中に気配をも回遊する、それぞれが思い思いに過ごし共存できる空間を目指した。

（森清敏＋川村奈津子）

配置図　縮尺1：2,000

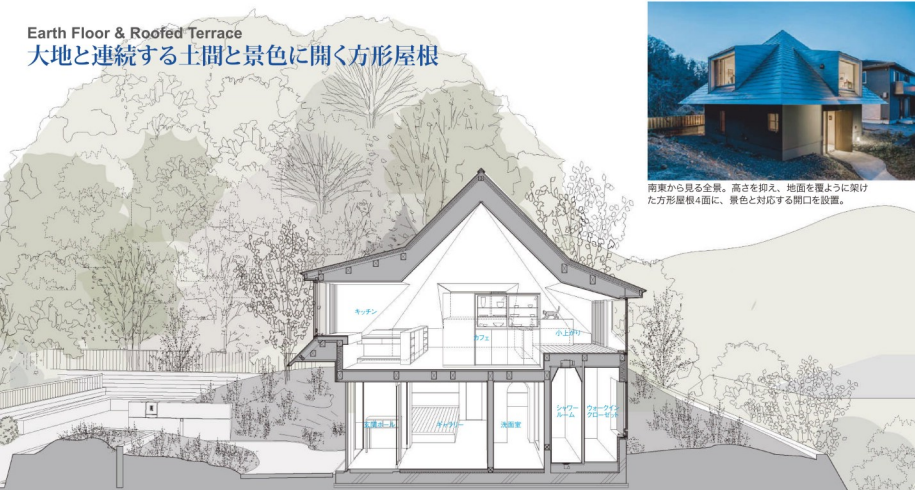
2階小上がりからキッチン越しに東側の家並みと遠くの山まで連続する緑を望む。鎌倉の小高い丘の頂に建ち、方形屋根の中に納まるかのような2階は4方にそれぞれ特徴的な景色に合わせた開口を設置。中央の収納のコアが緩やかに場を仕切る。天井高は700～4,040mm。

階段より右下にライブラリーを、左上に小上がり越しに西に広がる谷の景色を望む。

2階平面図

1階配置平面図　縮尺1：100

1階アトリエから玄関ホールを見る。右隣のベッドスペースを除き、1階は全面土間とし、着彩された間仕切り壁と共に建主が蒐集する美術品の背景となる。玄関ホールは玄関扉の内側にガラス壁とガラス戸を設置し、内外を繋ぐバッファーとしている。

2階小上がり。床を400mm上げ天井高を抑えた床座とし、右手に広がる谷の景色に大きく開いている。正面収納の奥は1階アトリエと吹抜けを介して繋がる。*

Earth Floor & Roofed Terrace
大地と連続する土間と景色に開く方形屋根

南東から見る全景。高さを抑え、地面を覆うように架けた方形屋根4面に、景色と対応する開口を設置。

AA'断面パース　詳細縮尺1：100

左：1階のアトリエ。人が立てないほど天井が低く迫る4隅は吹抜けとして、上下階を繋ぐ。
右：ダイニングから1階アトリエを見下ろす。左手の壁との間のスリットは猫の動線を考慮したもの。

鎌倉浄明寺の家

所在地／神奈川県鎌倉市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋猫2匹

設計

MDS　担当／森清敏　川村奈津子
構造　大賀建築構造設計事務所
　担当／大賀成典
プロデュース　ザ・ハウス　担当／川村利恵

施工

栄港建設　担当／中原一芳
大工　本間工務店　担当／本間馨
板金　カズマサ　担当／和田正明
タイル　ヤザワ　担当／矢澤保政
家具　松本家具製作所　担当／松本勝一
設備　須藤設備工業　担当／原田信泉
電気　ミドリ電工　担当／川崎健一
外構　飯沼工務店　担当／飯沼翼

構造・構法

主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

規模

階数　地上2階
軒高 3,220mm　最高高さ 6,970mm
敷地面積　738.79m²
建築面積　56.55m²
　（建蔽率7.65%　許容40%）
延床面積　86.31m²
　（容積率11.68%　許容80%）
1階　46.58m²　2階　39.73m²

工程

設計期間　2017年10月～2018年8月
工事期間　2018年9月～2019年5月

敷地条件

地域地区　第一種低層住居専用地域　法第22条地域　第二種風致地区　宅地造成工事規制区域　周知の埋蔵文化財包蔵地（87鎌倉城）
道路幅員　東4m

外部仕上げ

屋根／ガルバリウム鋼板 t=0.35mm 平葺き
外壁／弾性リシン吹付け
開口部／アルミサッシ
外構／コンクリート砕石洗い出し

内部仕上げ

小上がり

床／スギ無垢フローリング t=15mm
壁／ビニルクロス PB t=12.5mm
天井／ビニルクロス PB t=9.5mm
家具／タモ練付
照明／ DAIKO

カフェ　ダイニング　キッチン

床／磁器質タイル t=10.5mm
壁／ビニルクロス PB t=12.5mm
天井／ビニルクロス PB t=9.5mm
家具／タモ練付
照明／ DAIKO　森山産業
厨房機器／
　IHヒーター／三菱電機
　家具／タモ練付　メラミン化粧板
照明／ DAIKO
水栓金物／ KOHLER
シンク／松岡製作所

ギャラリー　アトリエ　ライブラリー

床／水性アクリルシリコン系塗装 モルタル金ごて押さえ
壁／ビニルクロス PB t=12.5mm アクリル樹脂系塗装　PB t=12.5mm OSCL塗装　ラワン合板 t=5mm
天井／ビニルクロス PB t=9.5mm
照明／マックスレイ　DAIKO

ベッドスペース

床／スギ無垢フローリング t=15mm
壁／ビニルクロス PB t=12.5mm　アクリル樹脂系塗装 PB t=12.5mm OSCL塗装 ラワン合板 t=5mm
天井／ビニルクロス PB t=9.5mm
照明／マックスレイ

設備システム

空調　冷暖房方式／ルームエアコン
　換気方式／第三種換気
　その他／電気式床暖房
給排水　給水方式／貯水槽水道
　排水方式／下水道直結
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部
*撮影／藤井浩司

敷地境界線

天井:
ビニルクロス
PB t=9.5mm
壁:
ビニルクロス
PB t=12.5mm
床:
磁器質タイル t=10.5mm
下地合板 t=12mm
構造用合板 t=24mm
壁:
ビニルクロス
PB t=12.5mm
ダイニング
天井:
ビニルクロス
PB t=9.5mm
壁:
OSCL塗装
ラワン合板 t=5mm
PB t=12.5mm
断熱材 t=30mm
床:
ウレタン塗装
モルタル金ごて押さえ
床暖房パネル
断熱材 t=50mm
アトリエ
ベッドスペース
壁:
ビニルクロス
PB t=12.5mm
屋根:
ガルバリウム鋼板 t=0.35mm
平葺き アスファルトルーフィング
耐水合板 t=12mm
通気胴縁 t=18mm
透湿防水シート
構造用合板 t=24mm
断熱材 t=75mm
屋根:
ガルバリウム鋼板 t=0.35mm
平葺き アスファルトルーフィング
耐水合板 t=12mm
通気胴縁 t=18mm
透湿防水シート
構造用合板 t=24mm
断熱材 t=75mm
軒裏:
EP塗装
SiB t=6mm
防湿シート
耐水合板 t=12mm
外壁1:
弾性リシン吹付
ラスモルタル t=15mm
アスファルトフェルト
耐水合板 t=12mm
通気胴縁 t=18mm
透湿防水シート
構造用合板 t=12mm
断熱材 t=100mm
3,750
6,970
420
300
400
1,120
3,220
2,050
2,400
350
450
750

BB'断面パース

始良の家

House in Aira
鹿児島県始良市

西岡梨夏／ソルト建築設計事務所
Rinatsu Nishioka
／ Salt Architect Atelier

北東の庭から見る夕景。地方都市の郊外に建つ平屋。隣接する田んぼの景色と繋がるように、緩やかな段差で庭からテラス、室内土間を連続させている。大開口に面するのはダイニングキッチン。

配置図　縮尺1：1,500

左：洗面横の坪庭からダイニング越しに庭を見通す。　右：ダイニングからリビングを見る。リビングは140mm床レベルを下げ、天井高を2,340mm（奥の下がった部分は1,820mm）に抑えた掘り込まれたスペース。

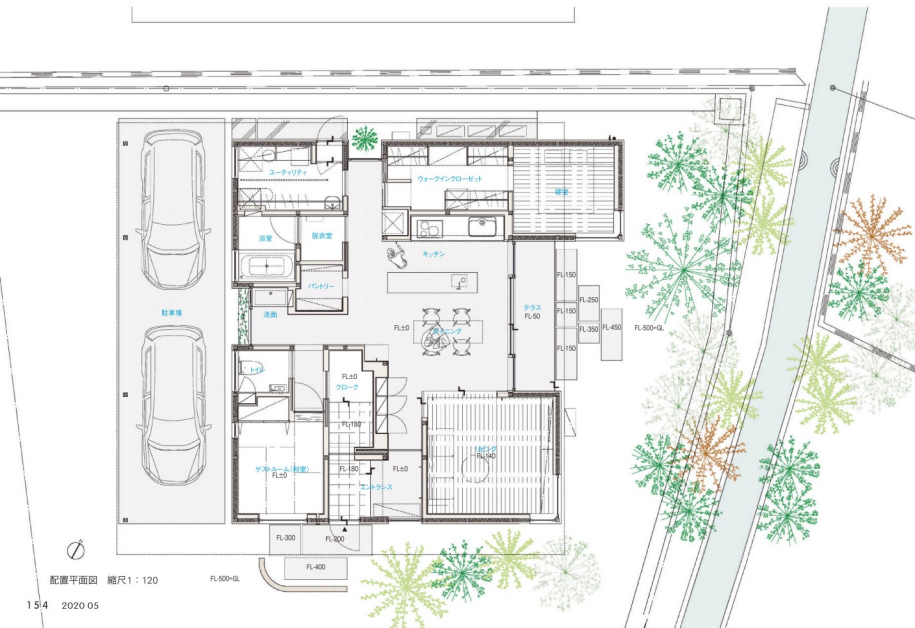
モノから建築を等価にとらえる

夫婦と猫の暮らしのための住宅。建主の仕事は、アクセサリーから食器、衣類、椅子などの家具に至る雑貨をセレクトして販売することである。住まいにも雑貨や家具を数多く配置することが予定されていた。そこで、数多く配置されるモノに対して、建築、さらにその先の自然がその延長に感じられるあり方を考えた。テーブルの上に存在する小皿も、それを置くテーブルも、建築の建具も造作家具も、建築の壁も、同じあり方として、スケールが徐々に大きくなっていく。その延長には自然といういちばん大きな存在があり、四方に開いた土間から、自然と繋がる感覚を得られないかと考えた。

そのため、キッチンはそこに置かれた大きな家具のような存在として制作し、建築は大きくなり過ぎず、あくまで家具のもう一段階上のスケールと感じられるよう、4つの箱状のヴォリュームに細分化した。4つの箱は、外部と繋がる開放的な土間とは対照的に、落ち着いて籠れる空間とした。土間より1段床を下げ、光の陰影を絞り、天井高さも極力抑えている。

これらの考えによってできた、4つの箱状の空間と、箱同士の隙間から四方に開いた外部と繋がる土間空間に、東側の風景に対して開く大きな片流れの屋根を架けて棲み処とした。

（西岡梨夏）

ユーティリティ
ウォークインクローゼット
寝室
浴室
脱衣室
キッチン
パントリー
洗面
駐車場
テラス FL-50
FL-150
FL-250
FL-150
FL-350
FL-450
FL-150
FL-500=GL
FL±0
ダイニング
トイレ
FL±0
クローク
FL-180
リビング FL-140
ゲストルーム（和室） FL±0
FL-180
FL±0
エントランス
FL-300
FL-200
FL-400
FL-500=GL

配置平面図　縮尺1：120

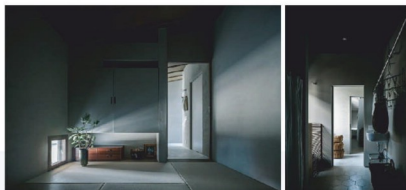
ダイニングキッチンから庭を見る。室内は機能を納めた4つの箱に大屋根を架ける構成で、箱の周囲を土間とし、外部を引き込む場としている。モルタル仕上げのアイランドキッチンは制作で、 寸法は600×2,600×870mm。コンロや水栓のある壁側から950mm離して独立して置かれる家具のような設えとしている。天井高は1,900 ～ 3,350mm。

リビングからダイニングキッチンを見返す。

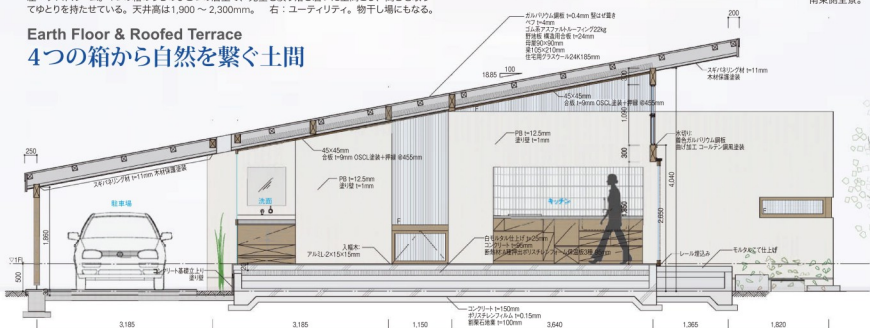
ウォークインクローゼット横の廊下からエントランス方向を見る。
土間は外周部と接する部分を開口として、視線が抜け光と風が入る。

始良の家
所在地／鹿児島県始良市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋猫1匹

設計
ソルト建築設計事務所　担当／西岡梨夏
施工
丸玉　担当／玉島大和
構造・構法
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎
規模
階数　地上1階
軒高 4,040mm　最高高さ 4,640mm
敷地面積　487.57m²
建築面積　141.74m²
（建蔽率29.08%　許容60%）
延床面積　135.00m²
（容積率22.16%　許容200%）
工程
設計期間　2016年11月〜2017年12月
工事期間　2017年7月〜2018年6月
敷地条件
地域地区　第二種住居地域
道路幅員　南西8.75m　　駐車台数　2台
外部仕上げ
屋根／着色ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 竪はぜ葺き
外壁／富士川建材 ラスモルノンクラックII　下地マジックコート（左官）　フッコー HMS
開口部／木製サッシ
外構／土間コンクリート 砂利敷き
内部仕上げ
キッチン　洗面
床／白モルタル仕上げ
壁／PB t=12.5mm　マヂックコート（左官）HMSS
天井／シナ合板染色 t=4mm 木押縁
厨房機器／ガスコンロ／ビルトインコンロ（ハーマン）　レンジフード（富士工業）
家具／制作家具　建主支給アンティーク品
照明／DAIKO　建主支給アンティーク品
シンク水栓金物／GROHE　制作シンク
リビング　寝室
床／ミモザ無垢フローリング t=15mm（ニッシンイクス）
壁・天井／キッチンと同様
家具／制作　制作洗面カウンター　モールテックス仕上げ
照明／DAIKO　建主支給アンティーク
ゲストルーム（和室）
床／畳敷き
壁・天井／キッチンと同様
照明／DAIKO　建主支給アンティーク品
浴室
床／モールテックス　（モールテックスジャパン）
壁／タイル（平田タイル テンサーティー）
天井／珪酸カルシウム板 t=6mm 塗装
バスタブ／ホーロー浴槽（ダイワ重工）
トイレ
床／タイル（タイルパーク ニューヨークヘキサゴン）
壁／マジックコート フラット仕上げ
天井／シナ合板染色 t=15mm 木押縁
便器／TOTO
設備システム
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
　換気方式／第三種換気
給排水　給水方式／上水道直結
　排水方式／下水道直結
給湯　給湯方式／ガス給湯器
撮影／新建築社写真部

キッチンからリビングと玄関方向を見る。

左：ゲストルーム。4つの箱のうちのひとつの居室で、光量を絞り落ち着いた空間とし、高さを取ってゆとりを持たせている。天井高は1,900〜2,300mm。　右：ユーティリティ。物干し場にもなる。

南東側全景。

Earth Floor & Roofed Terrace
4つの箱から自然を繋ぐ土間

断面詳細図　縮尺1：75

2019年度JIA建築大賞に「古澤邸」

去る3月8日、日本建築家協会（JIA、会長：六鹿正治）はJIA日本建築大賞・JIA優秀建築賞審査を実施し、JIA日本建築大賞に古澤大輔氏の「古澤邸」（本誌1905）が選ばれた。審査委員長は淺石優、木下庸子、ヨコミゾマコト、後藤治、橋本純の5氏。また、JIA新人賞（審査委員：青木淳、宮本佳明、武井誠の3氏）に中山英之氏の「弦と弧」（本誌1706）が選ばれた。詳細は以下の通り。

【JIA日本建築大賞】
▷「古澤邸」＝古澤大輔／リライト_D、日本大学理工学部建築学科

【JIA優秀建築賞】
▷「新潟の集合住宅Ⅲ／ザ・パーク一番堀」＝細海拓也／細海拓也一級建築士事務所、江尻憲泰／江尻建築構造設計事務所　▷「コート・ハウス」（本誌1812）＝松岡聡＋田村裕希／松岡聡田村裕希　▷「須賀川市民交流センター tette」（『新建築』1903）＝佐藤維＋十河一樹／石本建築事務所、畝森泰行／畝森泰行建築設計事務所

【JIA新人賞2019】
▷「弦と弧」＝中山英之／中山英之建築設計事務所

左：「古澤邸」。　右上「コート・ハウス」。　右下：「弦と弧」。
＊3点撮影：新建築社写真部

第23回木材活用コンクール発表

日本木材青壮年団体連合会が主催する、第23回木材活用コンクールの入賞作品が決定した。今年は応募総数173作品の中から、21作品が選定された。審査委員は深尾精一氏（審査委員長）のほか専門家10氏が務めた。

【最優秀賞】［農林水産大臣賞］▷「昭和電工武道スポーツセンター（大分県立武道スポーツセンター）」（『新建築』1910）＝石本建築事務所＋山田憲明構造設計事務所　［国土交通大臣賞］▷「住友林業筑波研究所　新研究棟」（『新建築』1910）＝住友林業

【優秀賞】［林野庁長官賞］▷「有明体操競技場」（『新建築』1909）＝日建設計＋清水建設＋公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会＋東京都　［日本住宅・木材技術センター理事長賞］▷「Hokkaido CLT Pavilion」＝北海道立総合研究機構 林産試験場＋遠藤建築アトリエ　［全国木材組合連合会会長賞］▷「北海道大学医学部百年記念館」（『新建築』2004）＝北海道大学医学部＋北海道大学工学研究院建築デザイン学研究室＋都市地域デザイン学研究室＋北海道大学施設部　［日本インテリアプランナー協会賞］▷「Bar 余白」＝環境デザインワークス　［日本木材青壮年団体連合会会長賞］▷「砂川印刷株式会社新社屋」＝ マウントフジアーキテクツスタジオ

【特別賞】［SDGs賞］▷「屋久島町庁舎」（『新建築』1910）＝屋久島町＋アルセッド建築研究所＋ホルツストラ＋坂田涼太郎構造設計事務所＋ウッディファーム＋ヒラウチ建設

【木材活用賞】▷「方眼の間」（本誌1903）＝古森弘一建築設計事務所

詳細は下記ウェブサイト参照。
https://mokusei.net/mkc

左：「昭和電工武道スポーツセンター（大分県立武道スポーツセンター）」。*
右：「方眼の間」。**
*撮影：永石写真事務所　**撮影：大森今日子

2019年度日本芸術院賞に藤森照信

日本芸術院は、2019年度（第76回）日本芸術院賞を発表し、藤森照信氏が受賞した。藤森氏の受賞は「ラ・コリーナ近江八幡　草屋根」（本誌1507）の設計に対して授与された。同賞は、卓越された芸術作品と認められるものを制作した者、および芸術の進歩に貢献する顕著な業績があると認められる者に対して毎年贈られる。今回は、藤森氏のほかに4名が受賞した。「ラ・コリーナ近江八幡　草屋根」はたねやグループの施設内に建つメイン店舗。クマザサが敷き詰められたアプローチの奥に建つ、一面シバに覆われた大屋根が特徴。

鷲田めるろ氏が十和田市現代美術館新館長に就任へ

去る4月1日より、十和田市現代美術館館長に鷲田めるろ氏が就任した。鷲田氏は金沢21世紀美術館の立ち上げから関わり常設作品の設置などを担当。そのほか2017年第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館のキュレーターなど、数々の展覧会、国際展でキュレーションを手がけている。

新型コロナウイルス感染症の影響により次世代住宅ポイント制度の申請受付期間を延期

国土交通省は去る4月7日、新型コロナウイルス感染症の影響により事業者から受注や契約を断られるなど令和元年度末までに契約できず、令和2年4月7日から8月31日までに契約を行った場合、ポイントの申請が可能となると発表した。ポイント発行申請受付期間は令和2年6月1日～8月31日の予定。詳細は下記ウェブサイト参照。
http://www.mlit.go.jp/report/press/house04_hh_000930.html

構築の人、ジャン・プルーヴェ

ジャン・プルーヴェ 著
早間玲子 編訳

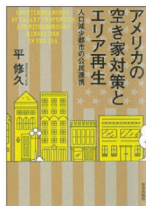
(B5変型判／336頁／9,350円／みすず書房)

1969〜75年にジャン・プルーヴェのもとで勤務した建築家の早間玲子が、欧米で出版された彼に関する書物の中で、プルーヴェ自らが語り、筆を執った2冊を選び編訳した本書。I部は、プルーヴェが逝去する約1年前、81歳の時のインタビューを収録。アール・ヌーヴォー発祥地での幼少期から鋳鉄職人としての歩み、ル・コルビュジエとの出会い、建築家との協働、さらには当時全盛だった建築家たちの批評まで、自身の生涯を回想しながら、時に話題が逸れながらもリアルに語っている。II部は、プルーヴェが構築家（構想し、同時に建設する人）として、1923〜68年までに実現した作品を、写真やスケッチ、設計図、講演と講義、手書きの文書によってまとめる。建築技術が発展した20世紀の工業化による大量生産時代を鋳鉄職人、経営者、芸術家として生き抜いたプルーヴェの思想に触れられる。(soy)

ファブラボのすべて
イノベーションが生まれる場所

マッシモ・メニキネッリ 編
田中浩也 監修
高崎拓哉 訳

(B5判変型／288頁／4,950円／ビー・エヌ・エヌ新社)

3Dプリンターなどの多様な工作機械を備え、一般に開かれた工房であるFabrication Laboratory（ファブラボ）。現在128カ所の拠点をもつフランス、118カ所をもつイタリアを筆頭に、世界各地に1,000以上のラボが存在する。本書は、アメリカ・ボストンで2003年に第1号が誕生してから今日まで、ファブラボがどのように運営され、ものづくりの場として活用されたのか、その展開を解説する。前半はファブラボ誕生の経緯や、活用されているツールやテクノロジーを詳細に紹介。後半の第6章では、オープンソースのニッティングマシンやパスタづくり用の道具など、各地のラボで生まれた代表的なプロジェクトを総覧できる。デジタルファブリケーション技術を人びとへ開く場だけに留まらず、イノベーションへの意思というシンプルな理念を共有し、縦横にネットワークを形成してきた様子が読み取れる。(km)

アメリカの空き家対策とエリア再生
人口減少都市の公民連携

平修久 著

(四六判／288頁／2,750円／学芸出版社)

近年、日本の空き家問題はますます深刻で、1958年の36万戸から増加の一途を辿っている。2018年には846万戸まで増加し、空き家率は13.6%となった。そこで、製造業の衰退やサブプライムローン利用者の返済の滞りなどがきっかけとなり、日本より一足早く空き家問題に直面したアメリカに目を向けて、自治体だけでなく、ランドバンクや財産管理人制度を適用した迅速で効率的な取り組みを紹介する。空き家がもたらす問題について「ニューサンス」（一般的生活妨害）という概念を取り入れ、借り手や貸し手、近隣住民の立場から詳細に分類・分析し、強制力を持った対処法や再生に向けた取り組みが事例と共に紹介される。どこまで公権で踏み込めるのか、また行政措置にかかる費用の回収など、現在の日本が抱える問題に対しても、多様な回答を見出すことができる。(yt)

京都のモダニズム建築

河野良平 著

(四六判／232頁／2,200円／美学出版)

著者が取材した、戦前から1970年代に建てられた京都のモダニズム建築23作品を紹介する本書。山田守の「京都タワービル」や前川國男の「京都会館」（『新建築6007』）といった公共施設や、宗教施設、アトリエ、個人住宅など、建築の規模や用途は多岐に渡る。モダン・ムーブメントと共に、京都の伝統的な街並みの中にも建てられたモダニズム建築。時間を経て周辺環境が変化しても魅力的に映る理由は、京都のモダニズム建築が、新奇的な目新しさではない普遍的な美しさを有しているからだと著者は語る。取材で得た体験談と、建設時の風景や時代背景、図面などの分析により、当時の設計者が、近代合理主義と伝統文化の両面からこれからの建築を創造しようと試みていたことが読み取れる。京都という街でのモダニズム建築のあり方を示唆する1冊。(noc)

UMA / design farm展

Tomorrow is Today：Farming the Possible Fields

2020年2月25日〜3月28日
クリエイションギャラリー G8（東京都中央区）　http://rcc.recruit.co.jp/g8

寄り添う状況から未来のタネを掬う

グラフィックデザインのみならず文化や福祉、地域に関わるプロジェクトを日本全国で展開する原田祐馬によるUMA / design farmの、これまでの歩みを紹介する展覧会が開催された。

会場はそれぞれ性格が特徴づけられた3つの部屋から構成されている。Room Aは、ポスターや書籍、サインやピクトグラム、パッケージデザインといったモノの展示である。サインは実際の使われ方が想像しやすい形で展示され、対してポスターは什器にフレーミングされ絵画のようである。あるものは貼られ、あるいは置かれ、手に取られ、覗き込まれる。それぞれの展示空間での現れが、2.5mmのベニヤでつくられた紙のように薄い什器との関係や、身体との立体的な関係を通して多様にデザインされ、膨大な量の情報がリズミカルに整理されている。モノが纏う空気感が漂う、そこにすべてを語らせる気概を感じる。

Room Bは、プロセスをテーマとする饒舌な空間になる。大きな誌面のような壁に場所づくりの3つのプロジェクトが紹介され、部屋の中央には進行中のプロジェクトが並ぶ。マンガや写真やテキスト、映像や刊行物、年表、小道具や模型に至るまで、情報の階層が絶妙にコントロールされており、1枚の壁に多層的な奥行きが生じている。Room Aでは分けられていた多元的なメディアが混じり合い、プロジェクトに流れていた時間の息づかいまでもが感じられる。そこに私たちが見るのは、緻密な計画者としてのデザイナーの姿ではなく、人と人、誰かと何かが出会うフィールドに足を運び、間に生じる偶然的な物事に眼差しを向け続け、状況を好転させるタネを掬いとり、育てる土壌をデザインの力で耕していく実践者の姿である。

Room Cでは、UR都市機構と協働する団地の色彩計画のプロジェクトが紹介される。誰かの日常におけるデザインの現れを、高野ユリカの写真がその質感を丁寧に切り取っている。

本展の開催期間は、新型コロナウイルス感染症が地球を覆う危機と並走していた。初日には5万人程度であった世界の感染者数は最終日には43万人に達し、期間も1日短縮された。それでも、人が集まるイベントが実施できない逆境から「ラジオ」を通してギャラリートークを発信し、展覧会というメディア体験に奥行きを与え続けている。この柔軟さこそ、充実した仕事の数々の根底に、状況の中に明日をよりよく生きるためのタネを掬いとる遊び心と行動力があることを物語っている。　（伊藤孝仁）

3点提供：UMA / design farm

上：Room Bの展示風景。奥の壁の展示は、「福智町図書館・歴史資料館ふくちのち」（o+h、編集事務所MUESUMと協働）の展示。漫画は鈴木裕之氏によるもの。　左下：Room A。これまでデザインを手掛けたポスターや書籍、サインなどの実物や原寸大模型が展示されている。　右下：Room C。

島田陽 / タトアーキテクツ展：REORGANIZATION

2020年3月17日〜 4月19日
ギャラリー日本橋の家（大阪府大阪市）

リノベーションの作法

裏なんばの片隅に建つ安藤忠雄設計「日本橋の家」（1994年）がギャラリーとして生まれ変わったのは2016年秋のこと。差し込む光に誘われるまま階段を上がり、辿り着いた4階の個室で腰を屈めた時、サブイボ（鳥肌）が出た。そういえば安藤住宅、初体験。家に帰ってすぐに作品集を繙き、定規をあてたものだった。

建築家の展覧会といえば、模型、写真、ドローイング、テキストなどが定番。だがそれらは作品を伝えるメディアにすぎない。現物を展示できないからこその可能性……、などと無言で呟きつつ味園ビルの角を曲がった先に見えた「日本橋の家」は、まさに現物そのものの展示である。

室内は、完成作品の精巧な模型や進行中計画の大量のスタディ模型、さまざまなサイズに切り取られた写真、控えめなテキスト、工法やディテールを示すドローイング、使用された建材のカットサンプルなどが各室にプロジェクトごとに展示されていた。と、ここまでは順当。目を瞠ったのは、この建築の中心といえる3階の中庭と2階の吹抜けに施されたインスタレーションだ。設計者の得意な「光」に、展示者は自身が得意とする「色」を重ねて、単純な構成が成す立体迷路を同じく単純な一手でさらに複雑な、そして異質な空間に変えていた。あ、これってリノベーション！ そうしてもう一度、各室を巡ると、所狭しと並んだかに見えた展示は部屋毎に周到に調整されていて、それはまるで家の機能を解かれた場所を、つかの間、住居に戻したようにさえ見えた。暫時的リノベーションの作法を知った。　（矢部達也）

1：「日本橋の家」外観。インスタレーションの影がファサードに映る。　2：1階展示風景。さまざまなプロジェクトの模型が並ぶ。　3：4階展示風景。中庭から光が差し込み、色を床や壁に投影する。壁には「六甲の住居」の写真が飾られる。　4：吹抜けに施されたインスタレーション。外の影と入り交じる。

4点撮影：大竹央祐

1

2

3

高岡の住宅
掲載：12-21頁

伍都和建設
代表　岡崎雅隆
今回の現場監督　佐野昭平
規模　12名
所在地　**富山県富山市婦中町蔵島295-1**
電話番号　076-466-2170
http://itsuwa-home.jp
COMMENT
その他　住宅から土木工事まで、幅広く手がけている会社です。難しい工事についても熱心に検討して取り組んでくれる、信頼のおける工務店だと思います。また腕のよい職人さんが多く、ディテールや内装も丁寧に仕上げてくれます。
（田島理奈／畝森泰行建築設計事務所）

The Naoshima Plan「水」
掲載：22-31頁

建築工房おおやま
代表　大山貴史
今回の現場監督　大山貴史
規模　3名
所在地　**香川県香川郡直島町4777-23**
電話番号　087-892-4313
最近施工した作品
「直島の家 ―またべえ―」三分一博志（『新建築』1601）
COMMENT
施工　大山さん、玉井さん、石井さんなど直島の将来を背負う若い技術者と、島外の工務店リンケン（代表・田村浩一さん）のベテラン棟梁・川本さんを中心に丁寧かつ柔軟に施工していただけました。
工期　短い工期の中、現場監督の大山さんのもと施工者一丸となって工期内に完成させていただけました。　（三分一博志）

house A
掲載：32-41頁

船橋工務店
代表　船橋耕太郎
今回の現場監督　池田健
規模　4名
所在地　**大阪府豊中市小曽根2-11-22**
電話番号　06-6151-4562
携帯番号　090-9166-9137
http://funahashikomuten.com
COMMENT
連携の取れた各職人さんの施工技術は高く、限られた工期ではありましたが細部まで丁寧に納めていただきました。これまでにも建築家と協働されており、挑戦的な試みに対しては都度モックアップを用いて検討を行うなど、工期中の綿密な打合せを重ね完成に至りました。その積極的かつ柔軟な対応に非常に信頼のおける工務店です。　（木村吉成＋松本尚子）

萌蘖
掲載：42-51頁

ベガハウス
代表　八幡秀樹
今回の現場監督　日置謙太
規模　20名
所在地　**鹿児島県鹿児島市石谷町3624-9**
電話番号　099-295-0788
http://www.vegahouse.biz
最近施工した作品
「わおんの家」ベガハウス（本誌1904）
「ものづくりの木造校舎」ベガハウス（本誌1904）
「ベガ荘」ベガハウス（本誌1904）
COMMENT
施工　本来自社で設計施工を得意とする工務店で、技術力だけでなく、設計力も高いのが特徴。建築が好きで熱心なスタッフが多く、質の高い家づくりに関しては、設計事務所と同じ体質をもつ。工程やコストの管理も行き届いていて、特に木工事と家具工事については充実した体制を備えている。　（横内敏人）

新張の家
掲載：52-61頁

椿建築所
代表　佐藤慶一
今回の現場監督　佐藤慶一
規模　2名
所在地　**長野県長野市上野3-20-1**
電話番号　080-4680-5506
http://www.tubaki-archi.jp
最近施工した作品
「信州上田の家」堀部安嗣（本誌1803）
COMMENT
施工　難易度の高い工事でしたが、佐藤さんを中心としたチームワークで乗り越えてくださいました。
工期　遅れなく進みました。各工程の進捗前に相談することができ、柔軟に対応してくださいました。
コスト　良心的です。さまざまなアイデアを見積り段階から出していただき助かりました。
その他　この時代に熱い気持ちをもって建築に向き合う佐藤さんの姿勢に共感しています。またお願いしたいです。　（花岡徳秋）

秋本邸
掲載：62-69頁

松原建築商事
代表　松原光信
今回の現場監督　朝倉尊司
規模　6名
所在地　**岐阜県岐阜市北一色7-26-25**
電話番号　058-245-8535
https://www.matsubara-kenchikushoji.co.jp
最近施工した作品
「HINO2」武藤圭太郎（本誌1908）
「庭／家 A-house」大建met＋なわけんジム（本誌1807）
COMMENT
施工　代表の松原さんはもともと建築設計をされており、面白いものはつくりましょう、見てみたいです、と設計者の背中を押してしてくださる大変心強い方です。監督と職人のみなさんが提案を理解し、根気強く丁寧に施工してくださいました。
コスト　鉄骨が高騰しボルト不足のため鉄骨業者を見つけるのが難しい時期でしたが、木部材を取り入れる提案をしてくださり、鉄骨量を最小限としコストを抑えることができました。予算に合わせてアイデアを積極的に提案くださいます。　（榮家志保）

菊坂の家
掲載：70-77頁

大日建設
代表　窪寺弘昭
今回の現場監督　岡本和彦
規模　9名
所在地　**東京都中野区野方4-44-10**
電話番号　03-3388-6101
COMMENT
施工　狭小敷地であるため、作業場所の確保も困難な現場でしたが、粘り強く施工していただきました。
コスト　適正だと思います。　（手嶋保）

SHIRASU／桜島
掲載：78-89頁

ジーテック
代表　行徳敏郎
今回の現場監督　三島竜二　橋本誠
規模　9名
所在地　**鹿児島県鹿児島市西田3-1-1**
電話番号　099-204-0431
http://g-tech.jp.net
最近施工した作品
「喜入中名の家」谷尻誠＋吉田愛（本誌1512）
COMMENT
施工　建築家の作品をメインに施工される工務店です。さまざまな課題に共に取り組んでいただけました。
工期　現場での施主の追加変更や工期延長の要望にも柔軟かつ親切に対応いただきました。
コスト　計画段階から見積に協力いただき、コスト削減のための工法・材料選定の提案もあり、規模からするとローコストで実現できました。
（鈴木亜生）

3本の路地の奥のシェア住居
掲載：90-97頁

アムザ工務店
代表　東毅
今回の現場監督　東寛隆
規模　7名
所在地　**京都府京都市左京区吉田神楽岡町83**
電話番号　075-771-2226
https://www.amuza.co.jp
COMMENT
施工　高い技術力をもったベテランの大工さんにより、複雑な構造材の加工もすべて手刻みで正確に行っていただきました。
コスト　設計段階のVEでは意匠性も考慮しながら的確な案を出していただき、着工までスムーズに進めることができました。　（池井健）

N邸
掲載：104-111頁

大勇建築
代表・今回の現場監督　中西勇史
規模　5名
所在地　**三重県度会郡玉城町下田辺536-2**
電話番号　0596-58-9191
http://www.daiyuu-k.com/index.html
COMMENT
施工　社長自らが腕利きの棟梁であり、素晴らしい技術をもたれた会社です。高度な木工技術をふるって社長がつくられる精緻な木製アイテムからも工芸レベルといえる技術の高さを見ることができます。
工期　タイトな工期の中、職人さんたちと一丸となって管理をしてくださいました。
コスト　建主と共に親身に話し合ってくださり、厳しい条件をまとめてくださいました。
（米田雅樹）

白鷺の家
掲載：112-117頁

KICHI & Associates Inc.
代表・今回の現場監督　吉岡雄太
規模　4名
所在地　**群馬県前橋市元総社町946-4**
電話番号　027-289-2345
https://kichi-inc.jp
COMMENT
施工　住宅だけでなく店舗の施工の実績も多いため、柔軟な対応をしていただけます。
工期　雪の影響で基礎工事に若干の遅れが出たものの大きな問題もなく竣工しました。
コスト　目線を合わせ根気強く対応くださいました。　（村上譲）

つくばの住まい
掲載：118-125頁

冨祥工務店
代表　冨山満
今回の現場監督　寺田幸夫
規模　14名
所在地　**茨城県坂東市矢作972-15**
電話番号　0297-38-2999
http://www.tomisyou.com
COMMENT
施工　現場監督の寺田さんをはじめ、棟梁の八木さんが難しい納まりをひとつひとつ確認して丁寧につくってくださいました。また、業者のチームワークも素晴らしく前向きに取り組んでくれました。
コスト　概算見積りからお世話になり、最終の見積りもどの会社より頑張ってくださいました。その結果、素晴らしい住宅になりました。本当に感謝しております。　（服部信康）

一ツ木の住宅
掲載：126-133頁

誠和建設
代表　森茂樹
今回の現場監督　林康広　長縄勝治
規模　5名
所在地　**愛知県名古屋市北区池花町302**
電話番号　052-902-8631
http://www.seiwa-kensetu.com
最近施工した作品
「藤巻町の家」手嶋保（本誌1808）
「前後の家」吉村真基＋吉村昭範（本誌1806）
COMMENT
施工　新しい素材の扱いや経験のない納まりについても、大工と一緒に話し合いながら進めることができました。
工期　ほぼ予定通りです。
コスト　適正価格です。度重なるVE案や現場変更にも真摯に対応していただけました。
（諸江一紀）

神戸の住宅
掲載：140-145頁

ファンコレクティブ
代表・今回の現場監督　山本智久
規模　1名
所在地　**静岡県牧之原市静波70-9 第5ヤマモトビル2F-B**
電話番号　0548-22-8700
COMMENT
施工　親方の人柄から何より現場の雰囲気がよいです。納まりから施工方法まで一緒になって考えてくれ、最後まで丁寧に対応してくれます。
（町秋人）

鎌倉浄明寺の家

掲載：146-151頁

栄港建設

代表　岡田雅人
今回の現場監督　中原一芳
規模　34名
所在地　**神奈川県横浜市港北区北新横浜1-7-8**
電話番号　**045-542-1973**
http://www.eikou.co.jp

最近施工した作品
「下北沢の家」井上洋介（本誌2001）

COMMENT

施工　コスト共に標準的ですが、とても前向きに丁寧な仕事をしてくれます。　（森清敏）

姶良の家

掲載：152-157頁

丸玉

代表　玉島悟
今回の現場監督　玉島大和
規模　6名
所在地　**鹿児島県姶良市脇元728-47**
電話番号　**0995-65-2445**
https://www.kensetumap.com/company/498610

COMMENT

施工　土間床や製作開口部など既製品に頼らない難しい工事でしたが、施工図検討を重ね、知恵を出していただきました。
コスト　鹿児島特有かもしれませんが、木材や大工工事が良心的な価格でした。
（西岡梨夏）

ARCHITECTS 建築家プロフィール

建築家情報
1. 今後予定しているプロジェクトや展覧会、講演会などの情報／ 2. Facebook、TwitterのURL
※1の作品名、竣工時期、展覧会、講演会情報は本誌発売時点での予定となります。

畝森泰行（うねもり・ひろゆき）
1979年岡山県生まれ／ 2005年横浜国立大学大学院修士課程修了／ 2002～09年西沢大良建築設計事務所／ 2009年畝森泰行建築設計事務所設立／ 2012～14年横浜国立大学大学院Y-GSA設計助手／現在横浜国立大学、日本女子大学、東京理科大学非常勤講師

畝森泰行建築設計事務所　〒133-0023 東京都文京区向丘1-5-2 水上ビル3F　tel. 03-6261-3708　fax. 03-6261-3709
office@unemori-archi.com　https://unemori-archi.com

三分一博志（さんぶいち・ひろし）
1968年生まれ／東京理科大学理工学部建築学科卒業／三分一博志建築設計事務所設立／ 2003年「エアー・ハウス」（本誌0204）で吉岡賞受賞／ 2011年「犬島精錬所美術館」（『新建築』0805）で日本建築学会賞（作品）、JIA日本建築大賞受賞／ 2017年「直島ホール」（『新建築』1601）で日本建築学会賞（作品）、2019年村野藤吾賞受賞／主な著書に『三分一博志　瀬戸内の建築』（2016年、TOTO出版）

三分一博志建築設計事務所　〒730-0811 広島県広島市中区中島町7-11

2点撮影：YOSUKE OHTAKE

木村吉成（きむら・よしなり）　**松本尚子**（まつもと・なおこ）
（木村吉成・上）1973年和歌山県生まれ／ 1996年大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業（根岸一之に師事）／狩野忠正建築研究所を経て、2003年木村松本建築設計事務所設立／ 2020年～大阪芸術大学芸術学部建築学科准教授
（松本尚子・下）1975年京都府生まれ／ 1997年大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業（根岸一之に師事）／ 2003年木村松本建築設計事務所設立／現在、大阪市立大学、大阪市立大学大学院、大阪工業技術専門学校、摂南大学非常勤講師

2008年「三人の作家のためのアトリエと住宅」でSDレビュー入賞／ 2015年「Nの住宅地の住宅」（本誌1505）でJIA東海住宅建築賞大賞／ 2016年「ハイツYの修理」（本誌1702）でCSデザイン賞グランプリ／ 2018年「houseT / salonT」（本誌1609）で第33回吉岡賞受賞／「houseA / shopB」（本誌1701）で2018年第12回関西建築家新人賞、2019年第7回京都建築賞藤井厚二賞受賞

▼建築家情報
1.「house Y」（京都府／ 2020年）「house F / F green」（愛知県／ 2021年）

木村松本建築設計事務所　〒603-8346 京都府京都市北区等持院北町58-1　tel. 075-748-1934
kimura@kmrmtmt.com　http://www.kmrmtmt.com

横内敏人（よこうち・としひと）
1954年山梨県生まれ／ 1978年東京藝術大学美術学部建築科卒業／ 1980年マサチューセッツ工科大学建築学科大学院修了／ 1981～82年アーキテクチュアル・リソーシズ・ケンブリッジ／ 1983～87年前川國男建築設計事務所勤務／ 1991年横内敏人建築設計事務所設立／現在、京都芸術大学（旧京都造形芸術大学通信教育部大学）院特員教授／ 2002年「三方町縄文博物館」（『新建築』0006）で日本建築学会北陸建築文化賞受賞／ 2004年「若王子のゲストハウス」（『新建築』0401）で木の建築賞受賞／ 2008年京都府文化功労賞受賞／ 2014年「屋形の家」で山梨県建築文化賞受賞／ 2015年「五十鈴川の家」（本誌1612）で三重県建築賞知事賞受賞／主な著書に『WA-HOUSE 横内敏人の住宅』（2015年、風土社）『NOTES 横内敏人の住宅設計ノート』（2015年、風土社）『BLUEPRINTS　横内敏人の住宅設計図面集』（2016年、風土社）

▼建築家情報
1. 第2弾作品集「NIWA HOUSE」2020年7月頃発売予定
2. 横内事務所ブログ「横内事務所のメモランダム」：http://www.yokouchi-t.com/weblog

横内敏人建築設計事務所　〒606-8444 京都府京都市左京区若王子町68　tel. 075-761-1976　fax. 075-752-3530
http://www.yokouchi-t.com

花岡徳秋（はなおか・のりあき）
1976年長野県生まれ／ 1998年東京モード学園卒業／ 2007年南カリフォルニア建築大学（SCI-Arc）卒業／ 2008年コロンビア大学建築学部修士課程（GSAPP）修了／安藤忠雄建築研究所・伊東豊雄建築設計事務所など設計事務所勤務を経て、2015年花岡徳秋建築設計事務所設立／ 2017年～南カリフォルニア大学（USC）建築学部アドバイザー／ 2013年AGC旭硝子デザインコンペティション「ガラスの襞」で優秀賞受賞／ 2017年第20回木材活用コンクール「Cave Table」でクリエイティブユース賞受賞／ 2017年ハリウッド国際住宅設計競技「The Last House」で3等優秀賞受賞

▼建築家情報
1.「TKH_林業家の家」（長野県／ 2021年）「HNH_荻生の家」（千葉県／ 2021年）
2. Instagram：https://www.instagram.com/noriaki_hanaoka　Facebook：https://www.facebook.com/noriaki.hanaoka

花岡徳秋建築設計事務所　〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-17-3　tel. 090-6543-9994
info@noriakihanaoka.com　http://noriakihanaoka.com

榮家志保（えいか・しほ）

1986年兵庫県生まれ／2009年京都大学工学部建築学科卒業／2010年ミマール・シナン美術大学留学／2012年東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修了／2012年～大西麻貴＋百田有希 / o+h 勤務／2018年～東京藝術大学教育研究助手／2019年～ EIKA studio ／2018年「Good Job！Center KASHIBA」第2回日本建築設計学会賞大賞受賞

EIKA studio　info@eikastudio.jp　http://eikastudio.jp

手嶋保（てしま・たもつ）

1963年福岡県生まれ／1986年東和大学工学部建設工学科卒業／1990～97年吉村順三設計事務所／1998年手嶋保建築事務所設立／現在、関東学院大学、東京理科大学非常勤講師／2015年日本建築学会作品選集／2014年「伊部の家」（本誌1308）で日本建築士連合会賞優秀賞受賞 ／2018年「牟礼の家」（本誌1707）で日本建築学会作品選集／2019年「三秋ホール」（『新建築』1706）で日本建築学会作品選集／2020年「桜台の家」（本誌1711）で日本建築学会作品選集／主な著書に『住宅設計詳細図集「伊部の家」』（2016年、オーム社）『MIAKI 三秋ホールの風景と建築』（2017年、millegraph）『「伊部の家」原図集』（2019年、オーム社）

手嶋保建築事務所　〒112-0003 東京都文京区春日2-22-5-515　tel. 03-3812-2247　fax. 03-6319-1455
mail@tteshima.com　http://www.tteshima.com

鈴木亜生（すずき・あせい）

1977年静岡県生まれ／2002年東京理科大学院理工学研究科修士課程修了／2003年乾久美子建築設計事務所勤務／2004～08年中村拓志&NAP建築設計事務所設計室長歴任／2009年ARAY Architecture設立／2018年ASEI建築設計事務所改組／「SHIRASU」（本誌1606）で2014年住まいの環境デザイン・アワード2014グランプリ、2015年日本建築学会作品選集新人賞、第16回JIA環境建築賞入賞、2017年第7回サステナブル住宅賞ベターリビング理事長賞（優秀賞）受賞／2018年地域資源を利活用した素材開発による環境建築を目指す一連の活動「クリエイティブ・リソース」で東京建築士会第4回これからの建築士賞受賞

▼建築家情報

2. Facebook：https://www.facebook.com/asei.suzuki

ASEI建築設計事務所　〒141-0031 東京都品川区西五反田7-23-11 ライオンズマンション西五反田104　tel. 03-5747-9420　fax. 03-5747-9422
info@asei.jp　http://www.aseiarchitects.com

魚谷繁礼（うおや・しげのり）

1977年兵庫県生まれ／2001年京都大学工学部卒業／2003年同大学大学院工学研究科修了／現在、魚谷繁礼建築研究所代表、京都工芸繊維大学特任教授、京都大学、京都建築専門学校などで非常勤講師／2007年「京都型住宅モデル」（本誌0804）で都市住宅学会賞業績賞など受賞／2012年「西都教会」（『新建築』1212）で関西建築家新人賞など受賞／2016年「御所西の宿群」で京都デザイン賞京都市長賞受賞／2017年「晒屋町の長屋群」（『新建築』1702）で京環境配慮建築顕彰制度優秀賞受賞／2017年「太秦安井の住宅」（本誌1305）で京都建築賞藤井厚二賞受賞／主な著書に『近代世界システムと殖民都市』（共著、2005年、京都大学学術出版会）『世界住居誌』（共著、2005年、昭和堂）『いま、都市をつくる仕事』（共著、2011年、学芸出版社）『地方で建築を仕事にする』（共著、2016年、学芸出版社）『住宅リノベーション図集』（2016年、オーム社）など

▼ 建築家情報

1.「大阪材木町のホテル」（京都府京都市／2020年4月）「ラスベガスの日本料理店」（ラスベガス、アメリカ／2020年4月）「上賀茂の住宅群」（京都府京都市／2020年8月）
2. Twitter：https://twitter.com/uoya_shigenori

魚谷繁礼建築研究所　〒600-8029 京都府京都市下京区寺町通五条上ル西橋詰町762 京栄中央ビル4F　tel. 075-361-5660　fax. 075-585-4181
office@uoya.info　http://www.uoya.info

池井健（いけい・たけし）

1978年愛知県生まれ／2001年京都大学工学部建築学科卒業／2004年同大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了／2011年池井健建築設計事務所設立／現在、京都大学非常勤講師、京都造形芸術大学非常勤講師、京都建築専門学校非常勤講師

▼ 建築家情報

1.「西ノ京南原町の共同住宅」（京都府京都市／2020年）「醒泉の住宅」（京都府京都市／2021年）「壬生馬場町の住宅」（京都府京都市／2021年）

池井健建築設計事務所　〒604-8354 京都府京都市中京区下瓦町556　tel. 075-354-6286　fax. 075-354-6281
info@ikei-archi.com　https://ikei-archi.com

キノシタヒロシ（きのした・ひろし）

1976年鳥取県生まれ／2000年広島工業大学環境デザイン学部卒業（村上徹研究室）／2003年東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了（小嶋一浩研究室）／2003～06年中央アーキ共同主宰／2007年キキキデザイン主宰／2013～18年木下建築研究所勤務／2018年キノシタヒロシ建築設計事務所設立／2003年ロッテルダムビエンナーレ招待出展 日本代表（個人）／2005年「der Kinder garten」でSDレビュー入選（中央アーキとして）

▼建築家情報

1.「細くて長い長い公園」（鳥取県／2021年）

キノシタヒロシ建築設計事務所　〒680-0035 鳥取県鳥取市新町201上田ビル202　tel. 0857-51-1914
office@kinoshitahiroshi.jp　http://www.kinoshitahiroshi.jp

米田雅樹（よねだ・まさき）
1980年三重県生まれ／2006年伊勢工業高校工業化学科卒業後、ライン製造業・清掃業・営業など転職を繰り返す／2006〜08年吉澤建築設計室／2008年修成建設専門学校第二本科夜間卒業／2008〜13年ビーディホーム／2013年ヨネダ設計舎設立／2016年〜みえ木造塾（三重の木造建築文化向上のため木にかかわる業者全般、学生を対象とした非営利団体）運営委員／「4＋1HOUSE」（本誌1908）で2014年JIA東海住宅建築賞審査員特別賞、2018年JIA環境建築賞優秀賞受賞／2017年「田園の回廊」で三重県建築賞入選／2018年「「O邸」で三重県建築賞入選

▼建築家情報
1.「月夜見庵」（三重県伊勢市／2020年）「AQUAIGNIS湯の山villa」（三重県三重郡／2020年）「VISON 道具道エリア」（三重県多気郡／2020年）「Yhouse」（三重県／2020年）「Khouse」（三重県／2020年）「nijiiro annex」（三重県／2020年）
2. Facebook：https://www.facebook.com/yonedasekkeisha

ヨネダ設計舎　〒515-0029 三重県松阪市西野々町28-2　tel. 0598-67-5948　fax. 0598-67-5441
tree-office@ms1.mctv.ne.jp　http://www.yonedasekkeisha.com

村上譲（むらかみ・ゆずる）　**菊田康平**（きくた・こうへい）
（村上譲・左）1984年岩手県生まれ／2006年日本大学芸術学部卒業／2006〜13年三浦慎建築設計室／2014年Buttondesign共同主宰
（菊田康平・右）1982年福島県生まれ／2006年日本大学芸術学部卒業／2006〜10年妹尾正治建築設計事務所／2010〜14年不動産会社建築部／2014年Buttondesign共同主宰

▼建築家情報
1.「山形の家」（山形県／2020年）「和食板垣」（東京都足立区／2020年10月）

Buttondesign　〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町561 市村ビル103　tel. 03-6205-6805　fax. 03-6205-6806
info@buttondesign.net　http://buttondesign.net

服部信康（はっとり・のぶやす）
1964年愛知県生まれ／1984年東海工業専門学校卒業後、名巧工芸／1987〜89年スペース／1989〜92年総合デザイン／1992〜95年R＆S工房／1995年服部信康建築設計事務所設立／「長浦の家」で2003年INAXデザインコンテスト銀賞、2004年AWDA 2004 Award受賞／2003年、2005年、2008年、2009年、2010年、2016年中部建築賞受賞／2015年「みんなの家づくり」（本誌1605）でJIA東海住宅建築賞優秀賞受賞／2018年「ハマグリさん家」（本誌1804）で奨励賞受賞／『日本の住宅をデザインする方法 建築家が語る「和」の極意』（共著、2014年、エクスナレッジ）

▼建築家情報
1.「多治見の家」（岐阜県多治見市／2020年）「新城の家」（愛知県新城市／2020年）
2. Instagram：http://www.instagram.com/hattori1122

服部信康建築設計事務所　〒480-0202 愛知県西春日井郡豊山町豊場下戸40-1 サキビル2F　tel. & fax. 0568-28-1408
hattori-1122@ou-chi.in　http://ou-chi.in/wa

諸江一紀（もろえ・かずき）
1974年茨城県生まれ／1998年東京都立大学卒業／2000〜01年高松伸建築設計事務所／2003年東京都立大学大学院修了／2003〜07年シーラカンスアンドアソシエイツ／2008年諸江一紀建築設計事務所設立／現在、名古屋大学、名古屋市立大学、名城大学、愛知淑徳大学非常勤講師／2014年「御器所の住宅」（本誌1304）で建築学会東海賞受賞／2018年「LT城西2」（『新建築』1708）で住まいの環境デザインアワード グランプリ受賞／2019年「一ツ木の住宅」（本誌126頁）ですまいる愛知住宅賞、名古屋市長賞受賞

▼建築家情報
1.「名古屋大学オークマ工作機械工学館」（愛知県名古屋市／2020年）「萩原の住宅」（愛知県一宮市／2020年）「四郷の住宅」（愛知県豊田市／2020年）

諸江一紀建築設計事務所　〒465-0087 愛知県名古屋市名東区代万町3-10-1 dNb4F　tel.052-228-9974
http://www.moroe-k.com

齋藤和哉（さいとう・かずや）
1979年宮城県生まれ／2001年東北工業大学工学部建築学科卒業／2003年東北工業大学大学院工学研究科建築学専攻修了／2003〜04年阿部仁史アトリエ／2004〜09年ティーハウス建築設計事務所／2010年齋藤和哉建築設計事務所を設立／現在、東北工業大学非常勤講師／「八木山のハウス」で2015年日事連建築賞奨励賞、2018年第11回JIA東北住宅大賞優秀賞受賞／2017年「金蛇水神社参拝者休憩所リノベーション設計競技」で最優秀賞受賞／2019年「加美町中新田公民館設計プロポーザル」最優秀者（ティーハウス建築設計事務所と共同）

▼建築家情報
1.「金蛇水神社参拝者休憩所」（宮城県岩沼市／2020年）「加美町中新田公民館」（宮城県加美郡加美町／2022年）
2. Twitter：https://twitter.com/kazuyasaito　Facebook：https://www.facebook.com/kaz83110　Instagram：https://www.instagram.com/kazuyasaito

齋藤和哉建築設計事務所　〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町9-15 チュリス春日町403号　tel. 022-221-0655　fax. 022-797-5597
office@kyst.jp　http://kyst.jp

町秋人（まち・あきと）
1985年静岡県生まれ／2008年京都精華大学デザイン学部建築分野卒業後／2017年スペース、北斗製材工業、山田誠一建築設計事務所を経て、町秋人建築設計事務所設立

▼建築家情報
1.「STANDARD YAIZU」（静岡県焼津市／2020年7月）
2. Facebook：https://www.facebook.com/akito.machi　Instagram：https://www.instagram.com/akitomachi

町秋人建築設計事務所　〒427-0038 静岡県島田市稲荷3-4-3　tel. & fax. 0547-54-5309
info@machi-a.com　http://machi-a.com

森清敏（もり・きよとし）　**川村奈津子**（かわむら・なつこ）
（森清敏・上）1968年静岡県生まれ／1992年東京理科大学理工学部建築学科卒業／1994年同大学院修士課程修了／1994～2003年大成建設設計部／2003年～MDS一級建築士事務所共同主宰／2006年～日本大学非常勤講師／2009年～東京理科大学非常勤講師
（川村奈津子・下）1970年神奈川県生まれ／1994年京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科卒業／1994～2002年大成建設設計部／2002年MDS一級建築士事務所設立／2014年～東洋大学非常勤講師

「王子木材工業本社ビル」（『新建築』0302）で2005年東京建築賞、2006年JID賞受賞／2012年「深沢の家」（本誌1110）で東京建築士会住宅建築賞／2012年「ポジャギの家」（本誌1209）で日本建築士会連合会賞／2020年「等々力の家」（本誌1805）で日本建築学会作品選集、ほか多数受賞／主な著者に、「暮らしの空間デザイン手帖―Life & Architecture」（2015年、エクスナレッジ）

▼ 建築家情報
1.「九十九里の家」（千葉県／2020年）「J アネックス」（東京都／2020年）「御殿山の家」（東京都／2020年）「広尾の家」（東京都／2021年）「成城の家Ⅱ」（東京都／2021年）

MDS　〒107-0062 東京都港区南青山5-4-35 #907　tel. 03-5468-0825　fax. 03-5468-0826
info@mds-arch.com　http://www.mds-arch.com

西岡梨夏（にしおか・りなつ）
1980年大分県生まれ／2003年九州芸術工科大学（現九州大学）卒業／大石和彦建築アトリエ勤務を経て2011年ソルト建築設計事務所設立／2013年「Obi house」（本誌1408）で第26回福岡県美しいまちづくり建築賞住宅の部大賞受賞、第7回建築九州賞住宅部門佳作、LIXILデザインコンテスト入賞／2017年「loophole」（本誌1612）で住まいの環境デザインアワード九州の家賞受賞／主な著書に『九州の建築家とつくる家』（2015年2月、建築ジャーナル編集部）『九州の建築家とつくる家③』（2020年2月、建築ジャーナル編集部）

▼建築家情報
1.「CLT屋根の棲家」（2020年10月）

ソルト建築設計事務所　〒810-0014 福岡県福岡市中央区平尾3-17-12-302　tel. & fax. 092-791-9037
info@salt-arch.com　http://salt-arch.com

執筆者

増田信吾（ますだ・しんご）
1982年東京都生まれ／2007年武蔵野美術大学建築学科卒業／2007年増田信吾＋大坪克亘を共同で設立／2015年Cornell University Baird Visiting Critic／2019年明治大学特任准教授

平田晃久（ひらた・あきひさ）
1971年大阪府生まれ／1994年京都大学工学部建築学科卒業／1997年京都大学大学院工学研究科修士課程修了／1997～2005年伊東豊雄建築設計事務所／2005年平田晃久建築設計事務所設立／現在、京都大学教授

塚本由晴（つかもと・よしはる）
1965年神奈川県生まれ／1987年東京工業大学工学部建築学科卒業／1987～88年パリ・ベルビル建築大学／1992年貝島桃代とアトリエ・ワン共同設立／1994年東京工業大学大学院博士課程修了／2003、2007、2015年ハーバード大学大学院客員教授／2007、2008年UCLA客員准教授／2011年The Royal Danish Academy of Fine Arts客員教授、Barcelona Institute of Architecture 客員教授／2013年コーネル大学visiting critic／2015年デルフト工科大学客員教授／2017年コロンビア大学客員教授／現在、東京工業大学大学院教授

平岩良之（ひらいわ・よしゆき）
1982年生まれ／2004年東京大学卒業／2007年東京大学大学院修了後、佐々木睦朗構造計画研究所／2017年平岩構造計画設立

海野敬亮（うんの・けいすけ）
1983年静岡県生まれ／2009年京都精華大学大学院芸術研究科修了／2009～18年満田衛資構造計画研究所／2018年海野構造研究所設立／現在、京都精華大学、京都造形芸術大学非常勤講師

川田知典（かわた・とものり）
1983年埼玉県生まれ／2006年東京大学工学部建築学科卒業／2008年同大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了／2008年～14年オーク構造設計／2014年川田知典構造設計設立

森部康司（もりべ・やすし）
1976年愛知県生まれ／2001年名古屋大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了／2001～06年オーク構造設計／2006年～昭和女子大学／2006～16年森部康司研究室／2016年～yAt構造設計事務所／2011年日本建築構造技術者協会（JSCA）JSCA賞新人賞／2014年第9回日本構造デザイン賞／2017年日本建築学会作品選集新人賞

須藤崇（すどう・たかし）
1977年東京都生まれ／2002年早稲田大学理工学研究科建設工学専攻修士課程修了／2002～15年オーク構造設計／2015～16年officeT／2016年～yAt構造設計事務所

柳室純（やなぎむろ・じゅん）
1980年静岡県生まれ／2003年京都大学工学部建築学科卒業／2007年同大学大学院工学研究科建築学専攻修了／2007～15年満田衛資構造計画研究所／2015年柳室純構造設計設立

中畠敦広（なかはた・あつひろ）
1980年広島県生まれ／2003年東京大学工学部建築学科卒業／2005年東京大学大学院工学系研究科建築学科卒業／2005～11年株式会社オーク構造設計／2011年中畠敦広構造設計事務所設立／2016年yAt構造設計事務所設立／現在、yAt構造設計事務所共同代表

伊藤孝仁（いとう・たかひと）
1987年東京生まれ／2010年東京理科大学工学部建築学科卒業／2012年横浜国立大学大学院YGSA修了／乾久美子建築設計事務所を経て2014～20年トミトアーキテクチャを冨永美保と共同主宰／現在、建築設計とリサーチのプラットフォームを準備中。アーバンデザインセンター大宮/UDCO デザインリサーチャー、東京理科大学非常勤講師、千葉工業大学非常勤講師

矢部達也（やべ・たつや）
1965年京都生まれ／1991年京都工芸繊維大学大学院修了／1991～95年坂倉建築研究所大阪事務所／1999年矢部達也建築設計事務所設立／現在、京都工芸繊維大学、大阪工業大学非常勤講師／2011年「コトバノイエ」（本誌0706）で大阪ガス住宅設計アワード2010最優秀賞受賞

編集後記

「コロナの禍じゃなかった時は、居心地がよかったのか？」現在Webで公開されている、世界的に知られる絵本作家である五味太郎さんのインタビューの中の言葉です。たしかに、現在猛威を振るう新型コロナウイルスの混乱の中、不自由や不安定を強いられていることにばかり意識がいくと、そもそも自らの生きる環境はどうなのか、その根本に立ち戻ることを逸してしまいます。インタビュアーも我に返ったその言葉には、突然の脅威に目隠しされず、不自由な今だからこそ立ち止まって深く思考することが必要だと突きつけられた気がしました。本当に豊かな暮らしを持続的に創造するためには、個の住宅の充実だけでは立ち行かない今、建築と都市の関係をどのように考えるべきか。その議論のプラットホームを目指している本誌として、今何を届ければよいか、沈思する毎日です。
今月号では、現在の状況に対し何を思うか、まず座談月評の冒頭で評者である3名の建築家に問い、これからを見据えた今の思考を話していただきました。また特集は、土間と縁側という、日本の民家が持続的に育んできたエレメントにフォーカスしました。現代社会の中で生きられた場所をいかにつくるか、それに応える多様な実践として見ていただけると思います。さまざまなご意見をお待ちしています。　（A）

屋外木部用塗料「カントリーカラープラス」新発売
オスモ&エーデル

価格：6,016円（0.75ℓ缶）、18,640円（2.5ℓ缶、共に税別）。

オスモ＆エーデル（株）は、自然の植物油を使用した自然塗料「オスモカラー」より、外装用着色塗料「カントリーカラープラス」を発売した。カントリーカラープラスは、浸透性でありながら高隠蔽で、紫外線で劣化して灰色化した古材を１回塗りで再塗装できる。沿岸部、山間部などの厳しい気象条件での使用にも、優れた耐候性が実証されている。

オスモ＆エーデル（株）
tel:03-6279-4971
https://osmo-edel.jp

「PHアーティチョーク」シリーズにブラックカラーをラインナップ
ルイスポールセンジャパン

サイズ：Φ=480、600、720、840mm。価格：1,020,000円（税別）～。

ルイスポールセンジャパンは、「PHアーティチョーク」シリーズに、新カラーのブラックをラインナップした。大胆なスタイルを最大限引き立てるマットブラックの仕上げは、デザインや光の質に妥協することなく、エッジの効いたインテリアを可能にする。本体に合わせてコードと器具パーツの一部もブラックとし、統一感のあるスタイルに仕上がっている。

ルイスポールセンジャパン
tel:03-3586-5341
https://www.louispoulsen.com

発売70周年記念　特別仕様のカラー 5色「CH24 SOFT」
カール・ハンセン&サン

店頭販売期間：2020年6月1日～ 9月30日。
価格：70,000円（税別）。

カール・ハンセン＆サンは、1950年に発表されたハンスＪ.ウェグナーとの協同による「CH24 / Yチェア」の発売70周年を記念して、特別仕様のカラー５色「CH24 SOFT」を６月から期間限定で発売する。柔らかい風合いを加えるマットな仕上げ、プレーンでモダンな雰囲気を纏った5色のカラーはデニッシュモダンを代表するアイコニックなデザインとなっている。

カール・ハンセン＆サン フラッグシップ・ストア東京
tel:03-5413-5421
https://www.carlhansen.com

ポール・ケアホルムが残した名作を限定販売
ダンスク ムーベル ギャラリー

サイズ：h65×w63×d64cm。カラー：ブラック・イエロー・ブルー・グレーの4色。価格：1,200,000円（税別）。

東京銀座のインテリアショップ「DANSK MØBEL GALLERY（ダンスク ムーベル ギャラリー)」は、5月に「ポール・ケアホルムが残した名作」と題したイベントを開催予定。それに伴い、同氏による「アルミチェア」などを限定販売する。「アルミチェア」は座面と背もたれが薄いシェルによって一体となったデザインが特徴。3本のスチール脚がシェルを支える。

ダンスク ムーベル ギャラリー
tel:03-6263-0675
https://www.republicstore-keizo.com/dmg/

内装材「バームクーヘン」新発売
キーテック

主な用途は、事務所、商業施設、ホテル等の非住宅、および住宅。

(株)キーテックは、本物の木を極薄に加工した内装材「バームクーヘン」を発売した。基材の種類に、従来保有する石膏ボード、金属板、アルミ板の不燃認定に加え、タイガーグラスロック(ガラス繊維入り石膏版)を使用した不燃認定を追加した。厚みが5mmと薄く、濡らさなくても曲げることができ、平面のみならず曲面デザインを容易に実現できる。

キーテック(株)
tel:03-5534-3745
https://www.key-tec.co.jp

「2020-2021年版 総合カタログ」発行
名古屋モザイク工業

A4判。948ページ。

名古屋モザイク工業(株)は、「2020-2021年版 総合カタログ」発行した。世界中から集めた50の新製品を含む397シリーズ(約5,000アイテム)を掲載。巻頭では「タイルをアートに!!」をテーマに、製造技術の進化により新たな表現領域へと踏み出した最新のデザインタイルの魅力を紹介している。

名古屋モザイク工業(株)
tel:0572-44-3060
http://www.nagoya-mosaic.co.jp

光の表情を楽しむペンダント「P1008」、「P3008」新発売
都行燈

P1008。価格:38,000円(税別)。

都行燈(株)は、光の表情を楽しむペンダント照明「P1008」、「P3008」を発売した。和紙を透過する柔らかな光と、直接広がる光の2種類の光をひとつの照明器具で楽しめるペンダント照明。江戸行燈の特徴である「細い枠」、「すっきりと洗練されたデザイン」を現代に受け継いだデザイン。

都行燈(株)
tel:03-3803-1755
https://www.miyako-andon.com/

頑強な住宅用フェンス「クレディフェンスSG」
四国化成工業

ブラックとステンカラーの2色。デザインバリエーションは6種ラインナップ。

四国化成工業(株)は、強風に耐えるために従来品より太い40×40mmという頑強な支柱が採用され、耐風圧強度Vo=34m/sと建築基準法に対応する住宅用フェンス「クレディフェンスSG」を発売した。クレディフェンスSG専用の多段自由支柱は最大で2,400mmの高さでも同様の強度を実現する。

四国化成工業(株)
0120-212-459
http://kenzai.shikoku.co.jp

「ハンスグローエ・アクサー 総合カタログ2020-2021」発刊
ハンスグローエ ジャパン

A4判。312ページ。

ハンスグローエ ジャパン(株)は、「ハンスグローエ・アクサー 総合カタログ2020-2021」を発刊した。両面を表紙とし「ハンスグローエ」と「アクサー」の各ブランドの特徴を表現。多数の新製品を掲載すると共に、世界中のさまざまな施工事例を豊富に盛り込んだ一冊となっている。

ハンスグローエ ジャパン(株)
tel:03-5715-3073
https://www.hansgrohe.co.jp

新カタログ「Maristo Tile Collection 2020/21」発刊
Maristo

A4ワイド判。352ページ。

Maristoは、新カタログ「Maristo Tile Collection 2020/21」を発刊した。「Nature」をキーワードとし、大自然の色柄からインスピレーションを受けたデザインを中心に掲載。表紙を飾る大型タイルは、オークの廃材をイメージした「Alter(アルター)」と、2種の石をミックスしたデザインの「Ego(エゴ)」の組み合わせによるもの。

(株)アベルコ マリスト営業部
tel:03-5573-9291
https://www.maristo.jp/

英国産ウール100%ラグ「Colored Court」
堀田カーペット

カラー:20色。価格:16,000円(w600×l 400mm)〜。

堀田カーペット(株)は、2016年より展開しているウールラグブランド「COURT(コート)」の新商品「Colored Court」を4月上旬より発売した。英国産ウール100%を使用し、イギリスの町並み、インテリア、ファッションで使われる色を厳選した。さまざまなインテリア空間にマッチしつつ、アクセントカラーとして楽しめる商品となっている。

堀田カーペット(株)
tel:0725-43-6464
https://hdc.co.jp

「ガーデンルームGF」新発売
LIXIL

価格:592,300円〜(2.0間×6尺の場合、税別)。

(株)LIXILは、ガーデンルームの新商品として、家族のスタイルに合わせて自由に使い方を組み変えられる「ガーデンルームGF」を発売した。開口部は、オーソドックスな開閉の引き違い戸の「テラスサッシ」タイプ、開放感と共に庭との一体感を感じられる「折戸」タイプ。足元が隠れる「腰壁+高窓」タイプなど豊富なラインアップから選択できる。

(株)LIXIL
0120-126-001
https://www.lixil.co.jp/

広告掲載企業

トピックス掲載企業

（50音順）
P.166-167

『新建築住宅特集』資料請求方法について

個人情報保護法に基づき、読者の皆様の個人情報保護を図るため、新建築社ではホームページ上に広告掲載企業を閲覧できるようにし、各企業のホームページをリンクいたしました。
資料請求をされる際は、各広告掲載企業へ直接資料請求を行ってください。

新建築社ホームページ　https://shinkenchiku.online